

執行裁判所トシテハ債務者カ普通裁判籍ヲ有スル地ノ區裁判所ノ專屬管轄トス若シ其區裁判所ナキトキハ第十七條ノ規定ニ從テ債務者ニ對スル訴ヲ管轄スル區裁判所ヲ以テ管轄裁判所ト爲ス(第五九條)

差押ヲ申請スル手續ハ債權者ヨリ其差押フヘキ債權ノ種類數額ヲ開示シテ之カ差押ヲ求ムル旨ノ申立ヲ爲スヘク其申立ハ書面又ハ口頭ニテ爲スコトヲ得ヘク其他ノ強制執行ノ總則ノ規定ノ手續ニ從フヘキモノトス(第五九條)

執行裁判所ハ此差押命令ヲ發スルニ當リ特ニ債務者又ハ第三債務者ヲ審訊セサルモノトス(第五九條)而シテ債權者ノ申請ヲ理由ナシトシテ棄却スルトキハ債權者ヨリ即時抗告ヲ爲スコトヲ得ヘク(第五五條)又差押命令ニ對シ不服ナル債務者ハ異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得ヘシ裁判所カ差押命令ヲ發スルニハ必スシモ債權ノ現存スルヲ要セス債權者ヨリノ申請ニ因リ唯法律上差押ヘ得ヘキモノナルヤ否ヤヲ調査スルヲ以テ足ル若シ債權現存セサルトキハ差押命令ハ效力ヲ生セスシテ終ルモノナリ

第一目 金錢ノ支拂ヲ目的トスル債權ニ

對スル強制執行

第一 差押不能ノ債權

債務者ニ屬スル權利ト雖モ財產權ニ非サルモノハ之カ差押ヲ爲スコト能ハサルヤ論ヲ俟タス又債務者ニ屬スル財產權ナリトモ性質上讓渡シ得サルカ又ハ金錢ニ換價シ得サルモノハ亦差押ヲ爲スコト能ハス其他ノ財產權ハ總テ債權ノ辨濟ニ充ツルノ目的ヲ以テ之カ差押ヲ許スヘキカ如シト雖モ有體動産ニ對スル強制執行ニ付キ説明シタルカ如ク債權者ヲ保護スルノ厚キニ失シ債務者ヲ死地ニ陷レテ顧ミルコトナキニ至リテハ實ニ社會ノ公益ヲ害スルコト甚シキモノナルニ因リ縱令差押ヲ受クル債務者タリトモ一家ノ生活ヲ營ムノ餘裕アラシメサルヘカラス故ニ法律ハ左ノ債權ニ對シテハ差押ヲ爲スヲ禁シタリ(第六一八條)

- (一) 法律上ノ養料ヲ受クル債權 債務者カ法律ノ保護ニ因リ自己ノ身分ニ對シテ供與ヲ受クルモノナルニ因リ之カ差押ヲ許ストキハ法律ノ身分上ニ對スル庇護ヲ蹂躪スルノ結果ヲ來セハナリ

- (二) 債務者カ義捐建設所又ハ第三者ノ慈惠ニ因リテ受クル繼續ノ收入ニシテ自己及ヒ其家族ノ生活ニ必要ナル部分ノ債權 家計ニ困難ナルノ理由ヲ以テ之カ救助ヲ爲サン爲メ各慈善家ヨリ贈與スル收入ヲ差押フルハ社會ノ慈善事業ヲ阻害スルコト甚シキヲ以テ之カ差押ヲ許サス尤モ慈善事業ハ唯其貧者ノ一家ヲ救済スルノミヲ目的トスルモノナレハ一家ノ生活ヲ維持スルニ足ル以上ノ收入ハ之カ差押ヲ許セリ
- (三) 下士、兵卒ノ給料竝ニ恩給及ヒ其遺族ノ扶助料ニ關スル債權 下士、兵卒ノ給料、恩給及ヒ其遺族扶助料ハ通常漸ク一家ノ生活ヲ爲シ得ルニ過キナレハ之カ差押ヲ許サス
- (四) 出陣ノ軍隊ニ屬スルカ又ハ役務ニ服シタル軍艦ノ乗組員ニ屬スル軍人軍屬ノ職務上ノ收入ニ關スル債權 從軍中ノ軍隊軍艦ニ屬スル軍人軍屬ハ其身生死ノ間ニ奔走スルモノナルニ之カ差押ヲ爲スハ此者等ヲシテ死ヲ輕ンシ後顧ノ憂ナカラシムル途ニ非サレハナリ
- (五) 文武ノ官吏、神職、僧侶及ヒ公私立學校教師ノ受クヘキ職務上ノ收入、恩給

及ヒ其遺族ノ扶助料ニ關スル債權 普通此等ノ收入ハ單一ニシテ他ヨリ金錢ノ入ルヘキ途ナク又此等ノ人トシテ身分相當ノ衣食往ヲ爲スノ必要アルニ因リ此職務ニ關スル收入ノ債權ハ之カ差押ヲ爲スヲ禁シタリ

(六) 職工、勞役者又ハ雇人カ其效力又ハ役務ノ爲メニ受クル報酬ニ關スル債權 此等ノ人カ得ル金錢ハ多クハ零細ニシテ稍ク生活ノ費用ニ供スルニ過キサルニ因リ之カ差押ヲ禁セリ

以上ハ差押ヲ禁シタル債權ナレトモ第一、第五、第六ノ收入ニ付テハ絕對的ニ其差押ヲ禁シタルニ非スシテ收入ノ年額三百圓ヲ超過スルトキハ其以上ニ付キ半額ノ差押ヲ爲スコトヲ許シタリ蓋シ一今年三百圓ヲ以テ相當ノ生活ヲ營ミ得ヘキモノト爲シ此規定ヲ設ケタルモノナラン右ノ三百圓以上ヲ超過シタル金額ノ半分ヲ差押フルコトヲ得トノ規定ハ民事訴訟法ニ於テハ恩給扶助料ニ對シテモ其適用ヲ見ルヘキモノナレトモ特別法ヲ以テ其恩給扶助料ニ關シテ其差押ヲ禁止スルニ因リ民事訴訟法ニ於ケル此規定ハ現時適用ナシト爲スヘキナリ

右ノ差押不能債權ニ對シ債權者カ之カ差押ヲ爲シタルトキハ債務者ヨリ異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得ヘシ

第二 差押ノ手續

債權ノ差押ハ執行裁判所ヨリ差押命令ヲ第三債務者ニ送達シタル時ヲ以テ其效力ヲ生ス(第五九條)若シ其債權ニ付キ抵當權ノ設定アルトキハ債權者ハ債務者ノ承諾ヲ要セスシテ其債權ノ差押ヲ登記簿ニ記入スル權利アリ差押記入ノ申請ハ差押命令申請ト共ニ爲シ或ハ此命令申請後ニ爲スヲ得ヘク裁判所ハ第三債務者ニ對シテ差押命令ヲ送達シタル後登記判事ニ其登記ヲ爲スヘキ旨ノ命令ヲ爲スヘク登記判事ハ登記法ニ從ヒテ相當ノ登記ヲ爲スヘキモノトス(第五九條)若シ抵當物ノ所有者カ第三債務者以外ノ第三者ナルトキハ其第三者ニ差押命令ヲ送達シタル後記入ノ囑託ヲ爲スヘキモノトス前ニ説明シタル如ク債權ノ差押ハ唯債權者ノ申立ニ因リ裁判所カ法律上理由アリト認ムルトキハ債務者又ハ第三債務者ヲ審訊セスシテ差押命令ヲ發スヘキヲ以テ債權ノ存否ハ不確實ナリ之ヲ以テ後日ノ争ヲ避クルノ方法ト

シテ債權者ヨリ差押命令ノ第三債務者ニ送達セラレサル以前ニ執行裁判所ニ對シ第三債務者ヨリ左ノ諸件ニ付キ陳述ヲ爲サシムヘキ旨ノ命令ヲ發セラレンコトノ申立ヲ爲スコトヲ得

(一) 債權ノ認諾ノ有無及ヒ其限度竝ニ其債權ニ對シテ支拂ヲ爲スヘキ意思ノ有無及ヒ其限度

(二) 債權ニ付キ既ニ他ノ者ヨリ請求アリタルヤ否ヤ若シアリタリトセハ其請求ノ種類

(三) 債權ニ付キ既ニ他ノ者ヨリ差押ヲ受ケタルヤ否ヤ若シ受ケタリトセハ其請求ノ種類

債權者ヨリ右ノ申請アリタルトキハ裁判所ハ第三債務者ニ對シ差押命令ノ送達ヨリ七日ノ期間内ニ右ノ各項ニ對スル答辯ヲ書面ニ記載シ差出スヘキコトヲ催告スヘク而シテ催告ハ送達證書ニ其旨ヲ記載スヘキモノナリ而シテ第三債務者カ催告アリタルニ拘ハラス期間内ニ陳述ヲ爲スコトヲ怠リタルトキハ之カ爲メ債權者ニ生シタル損害ハ第三債務者ニ於テ負擔スルノ責

ニ任ス(第六〇九條)

第三 差押ノ效力

差押命令カ第三債務者ニ送達アリタルトキハ第三債務者ハ債務者ニ對シテ有效ニ辨濟ヲ爲スヲ得ス債務者ハ差押債權者ノ權利ヲ害セサル範圍内ニ於テ債權ヲ處分スルコトヲ得ヘキモ自ラ取立ヲ爲スコトヲ得ス故ニ若シ債務者カ其債權ヲ他人ニ讓渡シタルトキハ差押負擔ノ状態ニ於テ他人ニ移轉スルモノナリ

差押ノ效力ハ差押ヘタル債權額ヲ限度トス但其債權ノ利息及ヒ其債權ヲ擔保スル物權ニ及フ(第五九條)俸給又ハ之ニ類スル繼續收入ノ債權ハ第一回ノ收入ニ關スル債權ヲ差押ヘタル效力トシテ其以後ニ來ルヘキ同一ノ收入ニマテ其效力ヲ及ホス然レトモ其差押ハ債權額以上ニ超過スルコトヲ得ス(第六〇條)醫師、辯護士等ノ其職業ヨリ得ル所ノ收入ハ常ニ變動極リナキノミナラス其收入額モ一定セサル性質ノモノナルカ故ニ此等ハ繼續收入ニ屬スル債權ト謂フコトヲ得サルヘシ又俸給ハ公私ノ區別ナシ故ニ普通ノ給料ト稱スヘ

キモノハ此ニ含蓄セララルヘキモノト解釋スヘシ又公私ヲ論セス職務上ヨリ來ル債務者ノ收入權ニ付テハ其債務者カ轉任兼任等ニ因リ其受クヘキ名義ノ異ナルコトアリ又ハ増俸ニ因リ増加スルコトアリ此場合ト雖モ特別ノ差押命令ヲ用ヒス轉任兼任又ハ増俸以前ニ發シタル差押命令ヲ以テ之カ差押ノ效力ヲ生スヘキモノトス(第六〇條)法文ニハ職務上ノ轉官云々トアルニ由リ茲ニ規定スル職務トハ單ニ官吏カ其職務上ノ收入ニ限ルカ如キモ第六百四條第六百十八條等ノ法意ニ考フルトキハ公吏又ハ一私人カ其職務上得ヘキ收入ニモ及フヘキモノト解釋スヘシ然レトモ職務上ニ關シテ其金額ヲ支拂フヘキ者ニ變更アル場合例ヘハ官吏カ私立ノ會社ニ入り會社ノ社員カ官吏ト爲リタルトキノ如キハ前ノ差押命令ノ效力ハ後ノ收入權ニ及ハサルモノトス

債務者ハ債權ノ差押ニ因リテ所持ノ債權證書ヲ差押債權者ニ交付スルノ義務アリ然ルニ之カ交付ヲ拒ムニ於テハ差押債權者ハ特ニ之ニ關スル執行力アル正本ニ因ラス差押命令ニ基キ物品給付ニ關スル強制執行ノ方法ニ從ヒ

第五編 強制執行 第七章 強制執行ノ行爲 第一節 金錢債權ニ付テノ 一一七三

執達吏ヲシテ債務者ヨリ其債權證書ヲ取上ケシムルコトヲ得ヘシ(第六〇)

第四 以上説明シタル差押方法ニ依ラサル例外ノ債權アリ即チ手形其他裏書ヲ以テ移轉スルコトヲ得ヘキ證券是ナリ此種ニ屬スル債權ハ第三債務者ヨリ支拂ヲ爲スニ當リテハ唯其證券所持者ニ重キヲ置キ其證券ナクシハ必ス支拂ヲ爲ササルモノナルヲ以テ普通金錢ノ支拂ヲ目的トスル債權ノ差押方法ニ依ルヨリモ寧ロ有體動産ニ關スル差押方法ニ從フヘキヲ便宜トスルカ故ニ差押命令ヲ用ヒス先ツ執達吏ヲシテ其證券ヲ占有セシメ之カ差押ヲ爲スヘキモノトス(第六〇)然レトモ其以後ノ手續ニ屬スル換價ノ處分ニ付テハ普通ノ債權ノ如ク取立命令又ハ轉付命令ニ關スル手續ニ從フヘキモノトス

第五 差押後ノ手續

債權差押ノ效力ヲ生スルモ差押債權者ハ未タ第三債務者ヨリ債務ノ支拂ヲ求ムル權利ヲ生セス第三債務者モ亦差押債權者ニ對シテ支拂ノ義務ヲ生セス差押債權者カ現實ニ辨濟ヲ得ルニハ更ニ法律上ノ手續ヲ必要トス即チ差押債權ヲ差押債權者ニ移付シ又ハ特別ノ換價處分ニヨルヘキモノトセリ

(一) 差押債權ノ移付手續

債權者カ差押ヘタル債權ヲ移付スル手續ハ或ハ之カ取立ヲ爲ス爲メノ命令ヲ發シ或ハ之カ轉付ヲ爲ス爲メノ命令ヲ發スルニアリ執行裁判所ハ差押債權者ノ選擇ニ任セ其申請ニ從ヒテ命令ヲ發スヘキモノトス(第六〇)然レトモ假執行ノ場合ニ於テ第五百五條第二項ノ規定ノ如ク保證ヲ立テ又ハ供託ヲ爲シタル債務者ニ執行ヲ免ルルコトヲ許スヘキトキハ轉付命令ヲ發スルコトヲ得スシテ取立命令ノミヲ發スルコトヲ得ヘク尙ホ取立命令ヲ發スルモ唯第三債務者ヲシテ其債務額ヲ供託セシムルノ效力ヲ生スルニ過キス(第六〇)又差押ヘタル債權カ有體物ノ引渡又ハ給付ノ請求ナルトキハ取立命令ノミヲ發スルコトヲ得ヘシ(第六〇)

取立命令及ヒ轉付命令ノ如何ハ下ニ説明スルカ如クナレトモ其命令ヲ求ムルニ當リ差押債權者ハ差押命令ノ申請ト共ニ之カ申請ヲ爲スヲ得ヘク又ハ其後ニ至リテ申請スルコトヲ得ヘシ而シテ此二種ノ命令ノ送達ハ第三債務者及ヒ債務者ニ爲シ債權者ニハ其旨ヲ通知スヘク其命令ノ效力ハ

第三債務者ニ送達ヲ了リタル時ニ發生スヘキコト等總テ差押命令ノ效力ト同一ナリトス(第六〇條、第五九八條第二項)

(イ) 取立命令 取立命令トハ債務者ノ第三債務者ニ對シテ有スル債權ヲ代位ノ手續ヲ要セス債權者ニ於テ債務者ニ代リ請求スルノ權利ヲ債權者ニ付與スル命令ヲ謂フ(第六〇條)即チ民法第四百二十三條第二項ニ規定スルカ如キ手續ニ依ルヲ要セス差押債權者カ債務者ニ代リ直接ニ第三債務者ニ對スル債權ヲ取立テ得ル命令ナリ取立命令ヲ得タル差押債權者ハ債務者ノ代理人トシテ第三債務者ニ對シ債權ノ取立ヲ爲スモノナリ獨法ハ差押質權主義ナルヲ以テ差押債權者ハ自己ノ權利トシテ取立ヲ爲スモノナレトモ我現行法ハ差押配當主義ナルヲ以テ差押債權者ハ第三債務者ニ對シテハ債務者ノ代理人タル地位ニ在リト云フヘキナリ其代理ノ性質ニ付テハ議論岐カルモ法律ニ依リ斯ル權限ヲ取得スルモノナレハ法定代理ト爲スヲ正當ト信ス而シテ其差押債權ハ依然債務者ノ債權ナルヲ以テ其債權ニ對スル危險負擔ハ債務者ニ在リ故ニ差押

債權者ノ故意又ハ過失アルニ非スシハ其債權ノ取立不能ニ歸スルモ之カ爲メ差押債權者ノ權利ニ影響ヲ來スヘキモノニ非ス差押債權者ハ第三債務者ト免除和解ヲ爲シ代物辨濟ヲ約スルコトヲ得ス第三債務者ハ差押前ニ於テ債務者ニ對シ有セル債權ヲ以テ差押ノ債權ニ對抗シ相殺ノ抗辯等ヲ爲スコトヲ得ヘシ

取立命令ノ效力ハ通則トシテ其差押ヘタル債權ノ全額ニ及フヘキモノトス然レトモ其債權全額ヨリ差押債權者ノ債權ヲ差引キタル剩餘ノ部分ハ固ヨリ債務者ニ歸屬スヘキモノナリ元來債務者ノ代人トシテ第三債務者ヨリ債權ヲ取立ツル性質ヨリ考フレハ債權全額ノ取立ヲ債權者ニ委スルモ敢テ危險ノ存スルコトナシ然レトモ債務者ノ第三債務者ニ對スル債權カ差押債權者ノ債權ヨリ多キトキハ債務者ニ對スル保護トシテ執行裁判所ハ差押債權者ノ有スル債權額ヲ限度トシ其超過額ハ特ニ債務者ニ於テ其取立ヲ爲シ又ハ其他ノ處分ヲ爲スコトヲ許スコトヲ得ヘシ此手續ヲ爲スニハ債務者ヨリ執行裁判所ニ對シテ其申立ヲ爲シ

執行裁判所ハ差押債権者ヲ審訊シテ許可ヲ定ム(第六〇條)此ノ如ク差押債権者ノ取立權ヲ制限シタルトキハ其取立ヲ爲ササル部分ノ債權ハ執行ノ目的物ヨリ除外セラレタルモノナレハ他ノ債権者ヨリ之カ執行ヲ爲シ得ヘキカ故ニ尙ホ他ノ債権者ヲ保護スルノ必要ナシトシ差押債権者ニ對シテ制限シタル部分ノ債權ニ付テハ他ノ債権者ヨリ之カ配當要求ヲ爲スコトヲ得サラシメ差押債権者ニ優先ノ辨濟ヲ得セシム而シテ債務者ニ制限以外ノ債權ニ付テ其處分、取立等ヲ許シタルトキハ執行裁判所ヨリ其旨ヲ第三債務者及ヒ債権者ニ通知スヘキモノトス(第六〇條)債権者カ第三債務者ニ對シ取立ヲ終リタルトキハ執行終了シタルモノニシテ債権者ハ之ヲ執行裁判所ニ届出ツヘキモノトス其届出前ニ於テハ他ノ債権者ヨリ其金額ニ付テ配當要求ヲ爲シ得ヘク其取立ヲ終了シタル旨ヲ執行裁判所ニ届出テタル後ハ其取立テタル金額ヲ以テ差押債権者カ債權辨濟ヲ受ケタルモノト爲ル他ノ債権者ハ其金額ニ付キ配當要求ヲ爲スヲ得ス(第六〇條、第八條、第六六條)又差押債権者カ相當ノ期間内ニ取立

行爲ヲ實行セサルトキハ或ハ第三債務者ノ資産缺乏シテ遂ニ債權ノ辨濟ヲ受クルコト能ハサル場合アリ是レ債権者ノ懈怠ニ基キ生シタル損害ナルヲ以テ債権者ハ債務者ニ對シ其損害ヲ賠償スルノ責ニ任スヘシ(第六一條)然レトモ債権者カ取立行爲ヲ怠ルニ拘ハラズ利害關係者ヲシテ袖手傍觀セシムルハ法ノ精神ニ非ス故ニ執行力アル正本ニ因リテ配當要求ヲ爲ス各債権者ハ債権者ニ對シテ一定ノ期間内ニ取立行爲ヲ爲スヘキ旨ヲ催告スルコトヲ得ヘク債権者カ尙ホ債權取立行爲ヲ實行セサルトキハ執行裁判所ノ許可ヲ得テ自ら取立行爲ヲ爲スコトヲ得ヘシ(第六四條)又差押債権者ノ得タル取立權モ亦一ノ權利ナルカ故ニ未タ取立行爲ヲ終ラサル以前ニ於テハ之ヲ拋棄スルコトヲ得ヘシ而シテ拋棄シタル債権者ト雖モ更ニ轉付命令ヲ求ムルコトヲ得ヘシ債権者カ拋棄シタルトキハ其拋棄シタル旨ヲ執行裁判所ニ届出テ且其謄本ヲ第三債務者及ヒ債務者ニ送達セサルヘカラス(第六二條)第三債務者ハ取立命令ノ送達アルモ債務者ニ對スル債務アルトキニ限

リ差押債権者ニ對シテ其債務ノ支拂ヲ爲スヘキモノナレトモ或ハ其債務ノ存在ヲ争ヒ或ハ其他ノ原因ニ基キ義務ヲ履行セサルトキハ債権者ハ第三債務者ニ對シテ債務履行ノ訴ヲ提起スルヲ得ヘク此場合ニ於テ執行力アル正本ヲ有シ配當要求ヲ爲ス各債権者ハ差押ヘタル債権ノ有無ニ利害ノ關係ヲ有スルカ故ニ共同訴訟人ト爲リテ原告ニ加ハルノ權利アリトス而シテ債権者ニシテ原告ニ加ハラサル者アルトキハ第三債務者ヨリ第一ノ口頭辯論期日マテニ裁判所ニ對シ右ノ債権者ヲ共同訴訟人トシテ呼出アランコトヲ請求シ得ヘシ此手續ヲ盡シタル上ハ期日ニ闕席スルモ當事者トシテ其判決ニ服從セサルヘカラス(第六二條三條)

(□) 轉付命令 轉付命令トハ差押債権者ニ對シ債務者カ第三債務者ヨリ辨濟ヲ受クヘキ債権ヲ券面額ニテ移轉セシムル效果ヲ生スヘキ命令ヲ謂フ(第六〇條末段)轉付命令ハ債権ノ讓渡ト法律上同一ノ效力ヲ生ス唯私法上ノ債權讓渡ニ非サルヲ以テ民法ノ債權讓渡ノ規定ハ執行手續ノ性質ニ反セサル限リ其適用ヲ看ルモノトス故ニ性質上讓渡シ得ヘカラサル

- 債權法律カ讓渡ヲ禁シタル債權若クハ債權者債務者ノ契約ニ依リテ讓渡ヲ禁シタル債權ノ如キハ轉付命令ヲ發スルコトヲ得サルモノトス轉付命令ヲ受ケタル債権者ハ債務者ノ代理人ト爲ルニ非スシテ債權ノ讓受人ト爲ルモノナルカ故ニ其效果トシテ
- (1) 債權者ノ請求權ハ轉付債權カ存スル限リ債務者ハ其金高マテ債權辨濟ヲ爲シタルモノト看做サル(第六〇條一)
 - (2) 轉付命令ニ因リテ得タル權利ヲ拋棄シテ更ニ取立命令ヲ受クルコトヲ得ス
 - (3) 轉付命令ニ因リテ得タル債權ニ對シテ他ノ債權者ヨリ配當要求ヲ爲スコトヲ得ス(第六二條二項)
 - (4) 轉付命令ニ因リテ得タル債權ノ危險負擔ハ差押債権者ニ歸ス券面額ニテ轉付スルトハ差押ヘタル債權全額ヲ移付スルノ義ニ非スシテ若シ差押債権者ノ要求額カ差押債權額ヨリ少額ナルトキハ其差押債權額中ヨリ要求額ノ部分ノミヲ移付スヘク又要求額カ差押債權ヲ超過

スルトキハ其差押債權額ヲ全部移付スヘキモノナリ故ニ券面額トハ債權ノ名價ノ意義ニシテ眞實ノ價格ニ依ラサルノ謂ナリ而シテ轉付命令ハ券面額ニ於テ債權ヲ移付スル命令ナレハ名價ヲ有セサル債權ニ付テハ轉付ヲ爲スコトヲ得ス苟クモ名價ヲ有スル債權ナルトキハ條件附ナルト期限附ナルトヲ問ハス轉付スルコトヲ得ヘシ但轉付ヲ受ケタル債權ヲ取立ツルハ條件ノ成就若クハ期限ノ到來シタル後ナラサルヘカラス

轉付命令ハ第三債務者及ヒ債務者ニ裁判所ヨリ送達ノ手續ヲ爲スヘク又差押債權者ニハ其送達ヲ爲シタル旨ヲ通知スヘク(第六〇條第六〇項)轉付命令ハ第三債務者ニ送達シタル時ヲ以テ其效力ヲ生ス(第六〇條第六〇項)轉付命令カ效力ヲ生スルトキハ差押債權者ハ第三債務者ニ對シテ債務者ノ承繼人トシテ債權者ト爲ルモノナリ故ニ第三債務者ハ債務者ニ對シテ有シタル總テノ抗辯ヲ差押債權者ニ對シテモ主張スルコトヲ得ヘシ又差押債權者ハ轉付命令ニ依リテ債務者ニ對シテハ債權辨濟ヲ得タ

(二) ルモノト爲ル第三債務者ノ資力ノ有無ニ關セサルナリ然レトモ轉付命令カ效力ヲ生スル當時ニ於テ轉付債權カ存在スルコトヲ條件トシテ此效力ヲ生スルモノトス如何トナレハ現存セサル債權ハ之ヲ轉付スルモ債權讓渡ノ效力ヲ生スヘキニ非サレハナリ故ニ轉付セラレタル債權全部カ存在セサルトキハ轉付命令ハ何等ノ效力ヲ生セス債權一部ヲ存シタルトキハ其存スル部分ニ付キ債務辨濟ヲ爲シタルモノト看做サレ轉付命令カ效力ヲ生セサル部分ノ債權ニ付テハ差押債權者ハ更ニ他ノ目的物ニ付キ強制執行ヲ爲スヲ得ヘキナリ

(二) 差押債權ノ特別換價處分 差押ヘタル債權カ條件附ナルカ又ハ有期ナルトキ若クハ反對給付ニ繋ルカ又ハ債權者ノ不在、破産等ノ他ノ理由アリテ取立ノ困難ナル場合ニハ債權者又ハ債務者ノ申立ニ因リ執行裁判所ハ他ノ特別ナル換價方法ヲ命スルコトヲ得ヘシ其特別ノ方法トハ裁判所ノ意見ニ因リテ定マルヘキモノニシテ例ヘハ或ハ競賣ノ方法ニ依リ或ハ適宜ノ賣買ヲ命スルコトヲ得ヘシ

右ノ命令ヲ爲スニハ債務者内國ニ在テ住所ノ知レタルトキハ其申立ヲ許ス決定ヲ爲ス以前債務者ヲ審訊スヘキモノナレトモ債務者カ外國ニ在ルカ又ハ住所不明ノ場合ニハ特ニ審訊ヲ爲スヲ要セサルモノトス(第三條第六一)

第二目 金錢以外ノ有體物ノ引渡若ク

ハ給付ヲ目的トスル債權ニ對スル

強制執行

有價證券若クハ金錢以外ノ有體物ノ引渡又ハ給付ヲ目的トスル債權ノ引渡、給付等ニ關スル強制執行ハ債權ニ基クト物權ニ基クトヲ論セス又動産ナルト不動産ナルトニ拘ハラズ特別ノ規定ナキ限ハ金錢ノ債權ニ關スル一般ノ執行方法ニ依ルヘキモノニシテ(第四條第六一)其特別ノ規定左ノ如シ

第一 有體動産ニ關スル強制執行

有體動産ヲ目的トスル請求ニ關スル差押ハ執行裁判所ヨリ一面債務者ニ其債權ノ處分ヲ禁シ一面第三債務者ニ對シテ動産ヲ執達吏ニ引渡シ若クハ給付スヘキコトヲ命令スルヲ以テ之ヲ爲ス(第五條第六一)差押債權者ヨリ委任ヲ受ケ

タル執達吏ハ第三債務者ニ對シ物件ノ引渡又ハ給付ヲ求ムヘキモノトス若シ第三債務者之ニ應セサルトキハ差押債權者ハ更ニ取立命令ヲ執行裁判所ヨリ受ケテ取立ノ手續ヲ爲ササルヘカラス然ルニ仍ホ取立命令ノ效ナキトキハ差押債權者ヨリ第三債務者ニ對シテ訴ヲ提起シ之カ判決ノ結果トシテ強制執行ヲ爲スヘキモノトス

右有體動産カ執達吏ノ占有ニ移リタルトキハ執達吏ハ第五百十二條以下ノ規定ニ從ヒテ換價ノ手續ヲ實行スヘキモノナリ(第六一第五項)轉付命令ハ以上説明シタル有體動産ニ付テ付與スルコトヲ得ス蓋シ債權ノ性質上券面額ナキヲ以テ之ヲ讓渡スルモ金錢債權ノ辨濟ト爲スコトヲ得サレハナリ(第六一七條)

第二 不動産ニ關スル強制執行

不動産ノ引渡ヲ請求スル權利ノ差押ニ付テハ差押債權者ハ先ツ不動産ヲ保管スヘキ保管人ノ選任方ヲ不動産所在地ノ區裁判所ニ申請シタル後更ニ執行裁判所ニ對シ其保管人ニ不動産ヲ引渡スコトヲ第三債務者ニ命スヘキ引渡命令ヲ受ケンコトヲ申立テ此命令ニ因リテ差押ノ實行ヲ爲スヘキモノト

ス(第六一)而シテ不動産引渡ノ債權ヲ差押ヘタルトキハ第三債務者ハ其不動産所在地ノ區裁判所カ差押債權者又ハ第三債務者ノ申立ニ因リテ命シタル保管人ニ狀況ヲ述ヘ差押命令ヲ添ヘ保管人ニ引渡ス權利ヲ有シ且差押債權者ノ請求ニ因リ之ヲ引渡ス義務ヲ負フ(第六二)執達吏カ不動産ノ引渡ヲ受ケタルトキハ引續キ換價ノ手續ヲ爲スヘキモノニシテ此手續ハ第六百四十條以下ニ規定セル普通ノ不動産ニ對スル強制執行ノ規定ニ依ルヘキモノトス

(第六一六)
條第二項

第三目 第一目第二目以外ノ財産權ニ對スル強制執行

金錢ノ支拂ヲ目的トスル債權及ヒ金錢以外ノ有體物ノ引渡、給付ヲ目的トスル債權以外ニ尙ホ一種ノ財産權アリ例ヘハ著作權、特許權等ノ如シ此等ノ權利モ亦金錢債權ノ辨濟ノ爲メニ差押フルコトヲ得ヘキモノトス然レトモ其權利ハ金錢ニ換價シ得ヘキ權利ニ非サレハ差押ノ目的ト爲スコトヲ得ス然ラサレハ差押債權者ノ金錢債權ヲ辨濟スルニ足ラサレハナリ又其權利ハ債務者ノ財産

ニ屬シ且他人ニ讓渡シ得ヘキモノナルコトヲ要ス

右權利ノ差押ニ付テハ第三債務者アルトキハ差押命令ヲ債務者竝ニ第三債務者ニ送達シ前述セル債權ニ付テノ執行手續ニ依ル若シ第三債務者ナキトキハ差押ハ債務者ニ權利ノ處分ヲ禁スル命令ヲ送達シタル日時ヲ以テ之ヲ爲シタルモノト看做サル此場合ニ於テハ執行方法トシテ裁判所ハ特別處分殊ニ其權利ノ管理若クハ讓渡ヲ命スルコトヲ得ヘシ(第六二五號)

第四目 數名ノ債權者ノ差押及ヒ配當要求

數名ノ債權者カ同時ニ債權其他ノ財産權ノ執行ヲ申立テタルトキハ前説明シタル手續ニ準據シテ差押命令其他ノ手續ヲ爲スヘキナリ(第六九條)有體動産ノ差押ノ如ク差押アリタル債權ハ他ノ債權者ハ重ネテ之カ差押ヲ爲スヲ得サルヤ否ヤニ付テハ疑アリト雖モ法律ニ何等ノ明文ナキヲ以テ差押ヲ爲スヲ得ヘシト解スルヲ正當ト信ス故ニ同一ノ債權ニ對スルニ二箇以上ノ差押命令ハ共ニ效力ヲ生スヘシト雖モ差押ニ前後アルトキハ第二ノ差押債權者ハ第一ノ差押カ取消ト爲ルニ非サレハ取立命令若クハ轉付命令ヲ求ムルヲ得ス如何トナレハ

第五編 強制執行 第七章 強制執行ノ行爲 第一節 金錢債權ニ付テノ強制執行

是レ第一ノ差押債権者ノ權利ヲ害スルモノナリトノ説アリ然レトモ我強制執行法ニ於テハ獨法ノ如ク差押債権主義ヲ認メス差押配當主義ヲ採リ殊ニ動産ニ對スル執行ニ付照査手續ノ規定ヲ認メタル法意ヨリスレハ二重ノ差押アリタルトキハ後者ハ配當要求ノ效力ヲ生スルモノト解スヘク前者ハ轉付命令ヲ得ルコト能ハサルニ至ルモノト云フヘシ

執行力アル正本ヲ有スル債権者及ヒ民法上配當要求ヲ爲シ得ヘキ債権者ハ差押債権者カ取立ヲ爲シタル旨ヲ執行裁判所ニ届出ツルマテ又ハ執達吏カ賣得金ヲ領收スルマテ配當要求ヲ爲スコトヲ得ヘシ然レトモ差押債権者ニ對シテ轉付命令ノ效力ヲ生シタル後ハ其債権ニ關シテ配當要求ヲ爲スコトヲ得ス如何トナレハ轉付命令ハ債権ヲ讓渡スルモノニシテ轉付セラレタル債権ハ債務者ノ債権ト謂フコトヲ得サルヲ以テ之ニ配當ヲ要求シ得ル理由ナケレハナリ
○第六三 配當要求カ適法ナルトキハ之ヲ爲シタル各債権者ハ差押債権者ト共ニ其債権額ニ應シ辨濟ヲ受クヘキ權利アルモノトス
執行力アル正本ニ因ラサル債権者ハ配當ノ要求ヲ爲スニ當リ其債権ノ原因ヲ

開示シ假住所ヲ設クヘキコト第五百九十條ノ規定ノ如ク又債務者ノ認否ヲ三日内ニ執行裁判所ニ申立ツルコト若シ債務者ノ否認アルトキハ訴ヲ起シ債権ヲ確定スヘキコト等第五百九十一條ニ規定セル如キ手續ニ從ハサルヘカラス
配當要求ハ裁判所ノ職權ヲ以テ債務者第三債務者及ヒ差押債権者ニ通知スヘク既ニ爲シタル差押カ取消ト爲ルトキハ執行力アル正本ニ因リ配當ヲ要求シタル債権者ノ爲メニ其要求ノ順序ニ因リテ差押ノ效力ヲ生ス○第六二
金錢ノ債権ニ付キ配當要求ノ通知ヲ受ケタル第三債務者ハ債務額ヲ供託スルノ權利アリ又配當ニ與カルヘキ或債権者ノ求アルトキハ之カ供託ヲ爲スノ義務アルモノトス若シ債務額ヲ供託スルトキハ第三債務者ハ自ら進ミテ供託ヲ爲シタルカ又ハ債権者ノ申立ニ基キテ供託シタルカ竝ニ其供託ノ金高等總テノ事情ヲ具シ供託證書ヲ添付シテ裁判所ニ届出ツヘキモノトス○第六二

第四項 配當手續

配當手續ハ有體動産若クハ債権其他ノ財産權ニ對スル強制執行ニ於テ債権者ノ多數ナル場合ニ配當スヘキ金錢カ各債権者ノ債権ヲ完済スル能ハサルトキ

各債権者間ニ配當ノ協議調ハサル場合ニ於テ如何ニ配當スヘキカヲ定ムル手續ナリ故ニ有體動産ノ競賣代金又ハ差押債権ヨリ生スル金銭ヲ以テ各債権者ノ債権ヲ辨濟スルニ足ルカ又ハ各債権者間ニ於テ任意配當ノ協議調ヒタル場合ハ執達吏其執行手續ヲ完結シテ配當手續ヲ開始スルノ必要ナシ若シ協議調ハサルトキハ本項ニ述フル配當手續ヲ實施シ其終了ニ因テ執行手續ハ完了ニ至ルモノナリ隨テ手續完了ニ至ルマテハ總則ニ述ヘタル債務者其他ノ利害關係人ハ執行異議若クハ異議ノ訴ヲ主張スルコトヲ得ルモノトス

第一 配當手續ニ付テハ次ノ三條件ヲ必要トス(第六條二)

(一) 債権者ノ多數ナルコト 差押債権者カ多數ナルカ又ハ照査債権者其他ノ配當要求ヲ爲シタル債権者ノ多數ナルコトヲ要ス執行力アル正本ヲ有スル債権者ナルト執行正本ニ因ラスシテ配當要求ヲ爲シタル債権者ナルトヲ問ハス差押アリタル債務者ノ財産ヨリ辨濟ヲ要求スル適法ノ債権者カ二人以上アルコトヲ要ス(第五八條九條第一條參照)債権者カ二人以上ナキトキハ配當ノ必要ヲ生セサルナリ

(二) 金銭ノ供託アルコト 有體動産ニ付テノ強制執行ニ於テ差押財産ノ賣

得金ヲ以テ各債権者ヲ満足セシムルニ足ラサル場合ニ此債権者間ニ配當ノ協議調ハサルトキ又ハ多數ノ債権者ノ爲メニ同時ニ金銭ヲ差押ヘタル場合ニ其金銭ヲ以テ各債権者ヲ満足セシムルニ足ラサルトキハ執達吏ハ其金銭ヲ供託シ且ツ其事情ヲ執行裁判所ニ届出ツヘシ(第五九條三條)又金銭ノ債権ニ付キ差押アリタル場合ニ第三債務者カ配當要求ノ送達ヲ受ケタルトキハ其債務額ヲ供託シ又第三債務者ハ配當ニ與カル債権者ヨリ供託ノ請求ヲ受ケタルトキ債務額ヲ供託スル義務アリ右供託ノ場合ニハ其狀況ヲ第三債務者ヨリ執行裁判所ニ届出ツヘキモノナリ(第六一條三條)以上二個ノ場合ニ配當手續カ實施セラレヘキモノトス

(三) 競賣代金又ハ差押金銭ニ付テ各債権者ヲ満足セシムルニ足ラスシテ競賣期日又ハ金銭差押ノ日ヨリ十四日ノ期間内ニ配當ノ協議調ハサルコトヲ要ス

右三要件ヲ具ヘタル場合ニ執行裁判所ハ配當手續ヲ實施スヘキモノナリ之

カ實施ハ有體動産又ハ債權ニ付テノ執行裁判所カ專屬管轄ヲ有スルモノトス(第五六三條參照)

第二 配當手續ハ左ノ方法ニ依テ實施ス

(一) 配當手續ハ執達吏又ハ第三債務者ノ届出(第五九三條第三項)ニ因テ開始スルモノナリ届出アリタルトキハ裁判所ハ其届出ニ基キ各債權者ニ對シテ七日ノ期間内ニ元金利息費用其他附帶ノ債權ノ計算書ヲ差出スヘキ旨ヲ催告セサルヘカラス茲ニ債權者ト云フハ配當要求ヲ爲シタル債權者竝ニ差押債權者ヲ謂ヒ(第六二七條)七日ノ期間ハ催告書ノ送達ヨリ起算スヘキモノトス其期間満了ノ後裁判所ハ各債權者ヨリ差出セル計算書ニ基キ配當表ヲ作製スヘシ配當表ハ各債權者ノ債權額ニ應シ差押金錢ヲ如何ニ分配スヘキカヲ定ムルモノナリ若シ執行ニ關係セル債權者ニシテ七日ノ期間内ニ計算書ヲ差出ササル者アルトキハ其債權者ノ債權ハ配當表ヲ作ルニ際シ配當要求竝ニ執達吏又ハ第三債務者ノ届出ノ趣旨竝ニ其證據書類ニヨリテ計算シ後ニ其債權額ヲ補充スルコトヲ許サス(第六二八條)即チ届出ヲ爲

ササル債權者ノ債權額ハ執行記録ニ存スル其債權者ノ配當要求ニ關スル書類ニ依リテ裁判所カ計算シテ其額ヲ定メ其以後ハ不足ナルトキト雖モ債權者ハ異議ヲ述フルコトヲ得サルモノトス

(二) 裁判所カ配當表ヲ作成シタルトキハ其配當表ニ關シテ債務者竝ニ各債權者ニ對シテ異議ノ有無ヲ陳述セシメサルヘカラス且其配當表ヲ實施スルノ必要アルヲ以テ裁判所ハ一定ノ期日ヲ指定シ各債權者及ヒ債務者ヲ其期日ニ呼出スヘシ若シ債務者ノ所在不明ナルトキ又ハ外國ニ在ルトキハ呼出ヲ爲スコトヲ要セス(第六二九條第一項)而シテ配當表ハ各債權者及ヒ債務者ニ閱覽セシムル必要アルヲ以テ期日ノ三日前ニ裁判所書記課ニ之ヲ備ヘ置クヘキモノトス(第六二九條第二項)以上ノ期日ハ當事者ノ申立若クハ裁判所ノ職權ヲ以テ變更スルコトヲ許サス

(三) 右手續ニ依リテ定メタル期日ニ債權者及ヒ債務者カ出頭シテ配當表ニ付キ異議ヲ申立テサルトキハ配當表ニ從テ其金額ヲ各債權者ニ配當スヘキモノナリ若シ期日ニ出頭セサル債權者アルトキハ配當表ノ實施ニ付キ

同意セルモノト看做サル(第六三〇條第一項)配當スヘキ債権カ停止條件附ナルトキハ之ヲ供託シ民法ニ從テ條件ノ成否ニヨリ之ヲ其債権者ニ支拂フカ若クハ更ニ他ノ債権者ニ之ヲ配當セサルヘカラス(第六三〇條第二項)執行力アル正本ニ因ラスシテ配當要求ヲ爲シタル場合ニ債務者カ其債権ヲ認諾セサルトキハ債権者ハ訴ヲ起シテ其債権ヲ確定セサルヘカラス配當表ヲ實施スルニ際シ尙ホ其債権カ訴訟中ニ在ルトキハ其債権者ニ對スル配當額ハ未確定ノ狀態ニ在ルモノナレハ尙ホ之ヲ供託スヘキナリ或債権者ノ債権ニヨリ配當金額ノ幾部カ假差押ニ係ルトキハ尙ホ其債権額ニ對シ配當スヘキ金額ヲモ供託シ其他配當表ノ實施ニ付キ異議アル債権者ノ配當額モ之ヲ供託スヘシ(第六三〇條第三項)配當期日ニ於テハ配當ノ實施ニ付キ調書ヲ作製シ配當表ノ實施ニ異議ナキヤ否ヤ或ハ異議アリタルヤ否ヤヲ明カニ記載スヘシ(第六三〇條第四項)

(四) 債権者カ配當表ニ付キ異議アルトキハ配當期日ニ於テ異議ノ申立ヲ爲スヘキナリ但期日前ニ書面ヲ以テ異議ノ申立ヲ爲スヲ得ヘシト雖モ期日

ニ出頭シテ其陳述ヲ爲ササルトキハ異議申立ノ效力ヲ生セス異議ノ申立アリタルトキハ配當期日ニ於テ他ノ債権者ハ其異議ニ付キ直チニ陳述ヲ爲スヘク若シ關係人カ異議ヲ正當ナリト認メタルトキ又ハ他ノ方法ニ於テ配當ノ實施ニ合意シタルトキハ之ニ從テ配當表ヲ更正シ配當表ヲ實施セサルヘカラス又期日ニ異議カ完結セサルトキハ異議ナキ部分ニ限り配當表ヲ實施スヘシ(第六三一條)若シ期日ニ出頭セサル債権者アリテ其債権者ノ債権カ他ノ債権者ヨリ申立テタル異議ニ關係ヲ有スルトキト雖モ其債権者ハ異議ヲ正當ナリト認メサルモノト看做ス故ニ期日ニ出頭セサル債権者ハ配當表ノ實施ニ同意セルモノト看做サレ異議ヲ主張スル權利ヲ喪失スルモノトシテ後日之カ不服申立ヲ許サス(第六三二條第二項)

(五) 配當期日ニ於テ異議カ完結セサルトキハ異議ヲ申立テタル債権者ハ他ノ債権者ニ對シテ訴ヲ提起シ配當表ヲ如何ニ更正スヘキヤヲ確定セサルヘカラス其訴ハ配當額ノ係争部分ヲ如何ナル債権者ニ如何ナル數額ヲ以テ支拂フヘキカヲ定ムヘキ訴ニシテ其訴ハ創設ノ訴ナリトス異議ヲ申立

テタル債権者カ原告トシテ之ヲ提起シ配當ニ關係スル他ノ債権者ヲ被告トス右ノ訴ハ配當期日ヨリ七日ノ期間内ニ提起セサルヘカラス若シ此期間ヲ徒過スルトキハ配當裁判所ハ異議ニ拘ラス配當表ヲ實施スルヲ得ヘシ訴ヲ提起シタル債権者ハ七日ノ期間内ニ裁判所ニ之ヲ證明スルヲ要ス(第六三)但異議ヲ申立テタル債権者カ七日ノ期間内ニ訴ヲ提起セサルトキト雖モ配當表ニ從テ配當ヲ受ケタル債権者ニ對シ訴ヲ以テ優先權ヲ主張スル權利ハ妨ケラルルモノニ非ス故ニ異議ヲ主張シタル債権者カ此期間ヲ怠リタルカ爲メ配當表ノ實施カ完結シタルトキト雖モ優先權ニ基キテ配當ヲ受ケタル債権者ニ其配當金額ノ支拂ヲ請求スル權利ハ消滅スルモノニ非ス只期間ノ懈怠ニ因リテ裁判所ノ配當手續ニ於テ權利ヲ主張スルコトヲ喪失スルニ止マル(第六三)
(第四條)異議ヲ申立テタル債権者ノ配當金額確定ノ訴ハ配當裁判所ニ提起スルヲ原則トス然レトモ訴訟物カ區裁判所ノ管轄ニ屬セサルトキハ配當裁判所ノ所在地ヲ管轄スル地方裁判所之ヲ管轄シ若シ多數ノ異議申立債権者ア

リテ數多ノ訴ノ提起アリタルトキ其一部ノ訴ヲ地方裁判所カ管轄スルトキハ其他ノ訴ヲモ亦合セテ管轄ス但各債権者總テノ異議ニ付キ配當裁判所ノ裁判ヲ受クヘキコトヲ同意シタルトキハ訴訟物ノ價額如何ニ拘ハラヌ又訴カ二以上ナル場合ト否トヲ問ハス配當裁判所其管轄權ヲ有ス(第六三)異議ノ訴ハ通常ノ訴訟手續ニ依リテ進行スヘキモノニシテ其判決ニ於テハ爭ニ係ル配當額ヲ如何ナル債権者ニ如何ナル數額ヲ以テ支拂フヘキカヲ定ム若シ之ヲ定ムルコトヲ適當トセサルトキハ判決ニ於テ新ナル配當表ノ調製及ヒ他ノ配當手續ヲ命スヘキモノトス(第六三)異議ヲ申立テタル債権者カ若シ口頭辯論期日ニ出頭セサルトキハ異議ヲ取下ケタルモノト看做ス旨ノ闕席判決ヲ爲スヘシ此判決ニ對シ故障ノ申立ヲ爲スコトヲ得ルハ通常ノ手續ト同シ(第六三)

(六) 前ニ述ヘタル異議ノ訴ノ判決カ確定シテ其確定證明アリタルトキ即チ債権者ヨリ確定ノ證明ヲ配當裁判所ニ爲シタルトキハ配當裁判所ハ其判決ニ基キ配當ヲ實施シ若クハ更ニ配當手續ヲ實施スルコトヲ得ヘシ(第六三)

(七) 配當表ニ異議アリテ判決ニ基キ配當ヲ實施スル場合ナルト又異議ナクシテ配當ヲ實施スル場合ナルトヲ問ハス配當表ノ實施ニ付テハ次ノ手續ニ依ルヘキモノトス即チ債權全部ノ配當ヲ受クヘキ者ニハ配當額即チ支拂額ヲ交付スルト同時ニ其債權者ノ所持スル執行力アル正本又ハ債權證書ヲ差出サシメ之ヲ債務者ニ交付セシメ一部ノ債權ノ辨濟ヲ受クヘキ者ニハ執行力アル正本又ハ債權證書ヲ差出サシメ之ニ配當額ヲ記入シテ返還シ且配當額ノ支拂證書ヲ交付スルト同時ニ其債權者ヨリ右金額ノ受取書ヲ差出サシメ之ヲ債務者ニ交付スヘク期日ニ出頭セサル債權者ノ配當額ハ之ヲ供託スヘシ尙ホ此手續ヲ爲シタルトキハ其事實ヲ調書ニ記載シテ明確ニスヘキモノトス(第六三九條)

第二款 不動産ニ對スル強制執行

不動産ニ對スル強制執行モ前款ト同ク金錢債權ノ辨濟ヲ得セシムルノ執行手續ナリ不動産ノ意義如何ハ民法ニ因ル立木モ明治四十二年法律第四十二號ニ

依リ不動産ト看做サル而シテ不動産ニ對スル強制執行ハ動産ニ對スル強制執行ト異ナリ其手續ヲ嚴格ニセシムルハ不動産ノ融通ヲ害シテ社會ノ公益ニ妨害ヲ與フルコト尠カラス故ニ詳密ノ規定ヲ設ケテ之カ保護ヲ爲セリ
 不動産ニ對スル強制執行ハ法律ニ依リ差押ヲ禁シタル物ヲ目的ト爲スヲ得ス故ニ華族ノ世襲財産ノ如キハ目的物ト爲スヲ得ス(華族世襲財産法參照)

第一項 不動産ニ對スル強制執行ノ方法及

ヒ管轄裁判所

不動産ニ對スル強制執行ノ方法ニ二種アリ債權者ハ之カ選擇ヲ爲シ得ルノ權利アルノミナラス二種併セテ之カ實行ヲ求ムルノ權利アリ(第六四〇條)其方法左ノ如シ

第一 強制競賣

強制競賣ハ不動産其モノヲ公賣シ其換價額ヲ以テ債權ノ辨濟ニ充ツル執行方法ナリ強制競賣ハ民法上ノ賣買ニ非ス裁判所カ債務者ノ不動産ヲ賣却スルモノナリ又裁判所ハ債務者ノ代理人トシテ賣却スルニ非ス職權行為ヲ以

第五編 強制執行 第七章 強制執行ノ行爲 第一節 金錢債權ニ付テノ 一一九九

テ賣却スルモノナリ然レトモ賣主ハ債務者ニシテ競落許可ニ因リ競落人ト債務者トノ間ニ私法的效力ヲ生スルモノナリ競賣ノ性質ニ付テハ動産ノ競賣ト異ナル

第二 強制管理

強制管理ハ不動産ノ賣却ヲ爲サシテ其不動産ヨリ生スル收益ヲ以テ債權ノ辨濟ニ充ツル執行方法ナリ 收益ハ金錢其レ自身ナルコトアリ又物件ナルコトアリ若シ物件ナルトキハ換價方法ニ因リ金錢ト爲シ孰レモ債權ノ辨濟ニ充ツルモノトス收益ノ物件ナルトキトハ地所ヲ賃貸シテ小作米ヲ獲取スル場合ノ如シ

假差押ヲ爲ス場合ニハ未確定ノ債權ノ爲メ假ニ不動産ヲ差押ヘテ後日辨濟ヲ免レシメサル執行保全ノ方法ヲ取ルニ過キサレハ不動産ヲ賣却スヘキ強制競賣ノ方法ニ依ルコトヲ得ス然レトモ強制管理ノ方法ニ從ヒテ其收益ヲ收得シ之ヲ供託スルコトヲ得ヘシ(第六四條)

不動産ニ對スル強制執行ノ執行機關ハ裁判所ニシテ不動産所在地ノ區裁判所

ヲ執行裁判所トス若シ執行セントスル不動産カ數多ノ區裁判所管轄區域内ニ散在スルトキ同時ニ差押ヲ爲サントスル場合ニハ其強制執行ノ申立人ハ直近上級裁判所ニ管轄裁判所ノ指定ヲ請求スヘキモノナリ(第六四條) 右ノ管轄區裁判所ハ專屬管轄ニシテ當事者ノ合意ヲ以テスルモ之カ變更ヲ爲スコトヲ得サルモノトス(第五六條)

第二項 強制競賣

第一 強制競賣開始ノ要件

強制競賣ヲ開始スルニ當リテハ債權者ノ申立ニ因リテ爲スヘク其申立ハ左ノ事項ヲ記載シタル書面ヲ執行裁判所ニ提出セサルヘカラス(第六四條)

- 一 債權者債務者及ヒ裁判所ノ表示
 - 二 不動産ノ表示
 - 三 競賣ノ原因タル一定ノ債權及ヒ執行シ得ヘキ一定ノ債務名義
- 以上ノ主タル要件ノ外尙ホ執行權アルコト差押フヘキ不動産ノ債務者ノ所有ナルコト其不動産ノ現在スルコト等ヲ確實ニスル爲メニ左ノ書類ヲ提出

セサルヘカラス(第六條三、四)

- (一) 執行力アル正本
 - (二) 登記簿ニ債務者ノ所有トシテ登記シタル不動産ニ付テハ登記判事ノ認證書 認證書トハ登記法ニ所謂謄本又ハ抄本ノ類ヲ謂フ
 - (三) 登記簿ニ登記アラサル不動産ニ付テハ債務者ノ所有タルコトヲ證スヘキ證書
 - (四) 地所ニ付テハ國、郡、市、町、村、字、番地、地目、反別若クハ坪數土地臺張ニ登錄シタル地價及ヒ其地所ニ付キ納ムヘキ一年間ノ租稅其他ノ公課ヲ證明スヘキ證書
 - (五) 建物ニ付テハ國、郡、市、町、村、字、番地構造ノ種類(木造、石造、瓦葺、茅葺等ノ區別ノ如シ)建坪及ヒ其建物ニ付キ一年間ニ納ムヘキ公課ヲ證スヘキ證書
 - (六) 地所建物ニ付キ貸借アルトキハ其期限及ヒ借賃ヲ證スヘキ證書
- 右(三)(四)(五)ニ所謂證明書ハ私署證書ヲ以テスルモ敢テ不可ナシト雖モ私署證書ノ如キハ往々信憑力ヲ缺クノ惧アルヲ以テ法律ハ公正證書ヲ以テ證明ス

ヘキモノトセリ而シテ右等ノ公簿ヲ主管スル官廳ニ債權者ハ右數項ノ事實ヲ證明セントスルノ理由ヲ以テ證明書ノ下付ヲ請求スルコトヲ得ヘシ其官廳トハ地所、建物ニ關スル公簿ヲ主管スル所ニシテ例ヘハ稅務署、郡役所、村役場、區役所ノ如シ(第六、四、三條第二項)

又右(五)(六)ノ事實ヲ證明スルコトヲ得サル場合ニハ債權者ヨリ競賣ノ申立ト同時ニ其取調方ヲ執行裁判所ニ請求スヘシ裁判所ハ執達吏ヲシテ其取調ヲ爲サシメサルヘカラス(第六、四、三條第三項)

競賣ノ申立ヲ爲ス以前ニ既ニ同一ノ不動産ニ對シ強制管理ノ申立ヲ爲シ之カ差押アリタル場合ニハ其執行記録中ニ前記(二)乃至(六)ノ要件明白ト爲リ居ルニ付キ之カ書類ノ添付ヲ要セス(第六、四、三條第四項)

第二 強制競賣開始決定

債權者ヨリ前述ノ要件ヲ具ヘ強制競賣ノ申立ヲ爲ストキハ執行裁判所ハ口頭辯論ヲ開カス申立人ヨリ提出シタル書類ヲ審査シ理由ナキカ又ハ要件ヲ具備セサルトキハ之ヲ却下シ申立ヲ適法ニシテ理由アリトスルトキハ強制

競賣ノ開始決定ヲ爲シ此決定中ニハ債權者ノ爲メ不動産ヲ差押フヘキ旨ヲ宣言スヘシ(第六四項)

競賣開始決定ハ強制競賣ノ手續ヲ開始スルコトヲ命シタル裁判ナリ右ノ決定ハ執行ノ方法ニ屬スル裁判ナルヲ以テ此決定ニ對シ債務者カ不服ナルトキハ異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得ヘシ(第五四)抗告ハ之ヲ許サス申立ヲ却下スル決定ニ對シテハ債權者ハ即時抗告ヲ以テ不服ヲ主張スルヲ得ヘシ(第五五)執行裁判所ハ開始決定ヲ爲スニ際リ職權ヲ以テ登記判事ニ對シ不動産ニ付キ競賣ノ申立アリタルコトヲ登記簿ニ登記スヘキ旨囑託スヘク登記判事ハ之カ登記ヲ爲シテ其登記簿ノ謄本ヲ執行裁判所ニ送付スヘキモノトス(第六一)

而シテ登記判事ハ其不動産ニ關シ質權抵當權等ノ設定アリテ權利者ヨリ提出シタル各種ノ證書等存在スルコトヲ發見スルトキハ此等證書ノ抄本ヲ執行裁判所ニ送付シテ競賣手續ヲ續行シ得ルヤ否ヤノ參考ニ供スヘキモノトス(第六五)又裁判所ハ競賣開始決定ヲ爲シタル後公租公課ヲ司トル稅務署郡

役所村役場區役所ニ對シ不動産ノ負擔スル債務ノ有無及ヒ限度ヲ或一定ノ期間ニ申立ツヘキ旨ノ催告ヲ爲スヘキモノトス(第六四)

第三 差押ノ效力及ヒ其消滅

(一) 執行裁判所ハ職權ヲ以テ競賣開始決定ヲ債務者ニ送達スヘク其送達ニ因リ差押ノ效力ヲ生ス(第六四)債務者ノ所在明カナラサルトキ又ハ外國ニ在ルトキハ開始決定ノ送達ヲ必要トセス(第五四)差押ノ效力ハ開始決定ヲ爲シタルトキニ發生スルモノナリ差押ニ因リ當事者及ヒ第三者ニ及ホス效果ハ左ノ如シ

(イ) 債務者ハ差押ニ因リ不動産ノ處分ヲ禁止セラレ又差押債權者ヲ害スヘキ負擔ヲ加フルコトヲ得ス然レトモ債務者ハ依然不動産ノ所有者タルコトヲ失ハサルニ因リ其不動産ノ利用及ヒ管理ヲ爲スコトヲ妨ケス例ヘハ家屋ヲ修繕スルカ如キ又ハ其不動産ヨリ收益ヲ爲スノ行爲ヲ行フコトヲ得ヘシ(第六四)利用及ヒ管理ノ文詞ニ拘泥シ差押後ト雖モ債務者ハ不動産ニ付キ地上權抵當權賃借權等ヲ設定シ其權利ハ競賣人ニ

對シテモ對抗スルコトヲ得ヘシト言フ者アリ是レ差押ノ效力ヲ無視シタルモノト言ハサルヘカラス強制競賣ハ開始決定ノ效力ヲ生シタル當時ノ状態ニ於テ不動産所有權ヲ競落人ニ移轉スルコトヲ目的トスルモノナレハ債務者ハ地上權賃借權等ヲ設定スルヲ得ルモ其權利ハ競落人ニ對抗スルヲ得サルモノト爲スヘキナリ最低競賣價額ノ規定ニ徴スルモ之ヲ知ルヲ得ヘシ

債務者ハ差押ニ因リ不動産ノ處分ヲ禁止セラルト雖モ其禁止タルヤ債權者保護ノ目的ニ出ツルモノニシテ債務者ノ處分ハ債權者竝ニ競落人ニ對シテ無効タルニ止マル不動産ノ差押ノ效力ニ付キ論述セル處ヲ參照スヘシ故ニ差押ノ登記後其不動産ニ付キ抵當權賃借權等ノ登記申請アリタルトキハ登記判事ハ其登記ヲ拒ムヲ得サルモノトス(不動産登記法第四九條參照)或ハ曰ハン差押後ニ登記ヲ許スモノトセハ新ニ配當加入者ヲ増加スルニ至ルヘシト然レトモ差押ノ效力トシテ不動産ハ差押當時ノ状態ニ於テ賣却セラレルモノニシテ差押後ニ登記アリタル權利ハ競落人ニ對抗

スルヲ得ス且差押債權者ニモ對抗スルヲ得サルモノナレハ差押債權者ヲ害スルコト無シトス

(口)

債權者ニ對スル效力トシテハ債權者ハ差押不動産ノ競賣代金ヨリ債權辨濟ヲ受クル權利アリ然レトモ差押ハ其差押ヲ爲シタル債權者ノ爲メニ優先權ヲ生セス他ノ執行手續ニ參加シタル債權者ト共ニ不動産ノ賣却代金ヨリ平等ノ辨濟ヲ受クルモノナリ但差押以前ヨリ不動産ニ付キ抵當權ノ如キ優先權ヲ有スル債權者ハ之カ爲メニ優先權ヲ失フモノニ非ス差押カ優先權ヲ生セサル結果トシテ一ノ債權者ニ於テ競賣ノ申立ヲ爲シ開始決定アリタルトキ執行裁判所ハ又他ノ債權者ヨリノ申立アルモ再ヒ同一ノ不動産ニ對シテ競賣開始決定ヲ爲スコトヲ得ス(第六條第一項)此場合ニ於テハ他ノ債權者ヨリ提出シタル競賣ノ申立書ヲ執行記録ニ添付スヘキモノニテ之ニ因リテ配當要求ノ效力ヲ生セシメ而シテ若シ第一ノ債權者ヨリ申立テタル開始決定カ或理由ニ因リ取消ト爲リタルトキハ第二ノ債權者ヨリ申出テタル競賣手續ノ申立ハ當然開始決

定ヲ受ケタルト同一ノ效力ヲ生シ其效力ハ當初ノ開始決定アリタル時ニ遡ルモノトス但差押債權者ノ債權ニ對シテ優先權ヲ有スル或債權ニ關スル負擔ヲ競落人ニ於テ引受ケサルカ若クハ不動産ノ賣却代金ヲ以テ右負擔ヲ辨濟スルニ足ル見込ナキトキハ第二ノ債權者ヨリ爲シタル申立ニ對シテ競賣開始決定ノ效力ヲ與フヘキモノニ非ス(第六四五條第二項)假差押ノ命令アリタル不動産ニシテハ其以後ニ於テ競賣開始決定ヲ爲スヲ妨ケス(第六四五條第三項)蓋シ假差押債權者ノ債權ニ相當スル金額ハ其債權確定迄供託スヘキモノナレハナリ

(ハ) 第三者ニ對スル差押ノ效力ハ原則トシテ差押ノ事項ヲ登記簿ニ記入シタル時ヨリ生スルモノトス然レトモ債權者ヨリ爲シタル差押又ハ競賣ノ申立アリタルコトヲ第三者ニ於テ知リタルトキハ登記簿ノ記入以前ニモ仍ホ差押ノ效力ヲ第三者ニ及ホスヘキモノトス是ヲ以テ差押不動産ニ付キ權利ヲ取得シタル第三者例ヘハ差押不動産ヲ債務者ヨリ買取リタル新所有者カ其所有權ヲ取得シタル際既ニ其不動産ニ付テ或債

權者ヨリ差押又ハ競賣ノ申立ヲ爲シタル事實アリタルコトヲ知リタルトキハ善意ナリシコトヲ主張シテ差押ノ效力ニ對抗スルヲ得ス競賣手續ノ續行ニ付キ異議ヲ述フルコトヲ得ス(第六五條第一項)

右ノ場合ハ第三者カ差押又ハ競賣ノ申立アリタル事實ヲ知リタルコトヲ條件トスレトモ尙ホ第三者カ此事實ヲ知ラサルニモ拘ハラズ差押ノ效力ヲ及ホスヲ必要トスル場合アリ蓋シ此場合ニハ競賣手續ヲ續行スルモ第三者ニ損スル所ナクシテ却テ差押債權者ニ利スル所アレハナリ即チ差押不動産ニ對シ競賣ノ申立ヲ爲シタル債權者カ擔保權ヲ有スルトキ其差押後第三者ニ於テ之カ所有權ヲ得ルモ不動産ニ對スル擔保ノ義務ハ新所有者タル第三者ニ於テ免ルルヲ得サレハ差押ノ有無ヲ知ルト否トニ拘ハラズ第三者ニ對シテ差押ノ效力ヲ及ホサシメ競賣手續ヲ續行スルコトヲ得ヘシ(第六五條第二項)

建物差押ノ效力カ造作疊建具ニ及フヤ否ヤハ事實問題ナリ明治十年内務省布達甲第六號ニ因レハ造作トハ底天井敷居鴨居椽板床ノ間押入等

ヲ云フトアリテ此等ハ皆建物ト一體ヲ成スモノニシテ建物ノ構成部分ナリ然レトモ造作ヲ獨立シテ法律行為ノ目的トスル慣習アル場合ニ於テハ其獨立存在ヲ認メサルヘカラス故ニ造作ノ所有者カ建物ノ所有者ト同一ナルトキハ建物差押ノ效力ハ當然造作ニ及フヘキナリ若シ造作ニ付キ民法第二百四十二條ノ適用アルトキハ造作ニ對シ差押ノ效力ヲ及ホササルモノト爲スヘキナリ疊建具ハ其所有權カ建物ノ所有者ニ屬スル場合ハ從物ナルヲ以テ（民法第百八十七條）建物差押ノ效力ハ當然疊建具ニ及フヘキナリ然レトモ差押債權者カ執行ニ付キ疊建具ヲ除外スル旨ノ競賣申立ヲ爲シタルトキ若クハ疊建具ノ所有者カ建物ノ所有者ト異ナルトキ又ハ疊建具ニ付キ既ニ動産トシテ差押アリタルトキハ差押ノ效力ヲ及ホスヘキニ非ス門板塀庭木庭石ノ如キモ亦事實問題トシテ決スヘキモノトス

(二) 差押ノ消滅スヘキ場合ハ左ノ如シ

(イ) 競賣申立人カ競賣ノ申立ヲ取下ケタルトキ（第六五條第三項）此場合ニハ

執行裁判所ヨリ差押消滅ノ旨ヲ債務者ニ通知スヘキモノトス

(ロ) 裁判所ノ決定 即チ登記判事ヨリノ通知ニ因リ差押ヘタル不動産カ他人ノ所有名義等ニテ結局手續ノ開始ヲ妨クヘキ事實アルコトヲ發見シタルトキハ執行裁判所ハ直チニ其手續ヲ取消シ又ハ裁判所ノ意見ヲ以テ相當ノ期間ヲ定メ其期間内ニ障礙ノ消滅シタルコトヲ證明スヘキコトヲ債權者ニ命スヘシ債權者カ此期間ヲ徒過シタルトキハ其手續ヲ取消スヘキモノトス（第六五條第三條）

(ハ) 第三者又ハ債務者ノ異議ニ因リ執行處分ノ取消アリタル場合（第五五條參照）

第四 強制競賣ニ於ケル利害關係人

強制競賣手續上利害ノ關係ヲ有シ或ハ異議ヲ述ヘ或ハ意見ヲ陳述スルコトヲ得ル者左ノ如シ（第六四條）

- (一) 差押債權者及ヒ執行力アル正本ニ因リ配當ヲ要求スル債權者
- (二) 債務者

(三) 登記簿ニ記入アル不動産上権利者 不動産上権利者トハ抵當權者又ハ不動産質權者、不動産賃借權者ノ如ク其不動産上ニ權利ノ登記アル者ヲ謂フ登記アル權利者ニ付テハ第六百五十二條ノ規定ニ因リ登記判事ヨリ其旨ヲ執行裁判所ニ報告スヘキモノナルカ故ニ執行裁判所ニ於テハ特ニ權利者ヨリノ届出ナクトモ右ノ事實ヲ知ルコトヲ得ヘシ登記簿ニ記入アル賃借權者ニ付テハ議論岐ル或ハ曰ク登記簿ニ記入アル不動産上權利者トハ不動産ノ上ニ行ハルル物權ヲ有スル者ヲ謂フモノナリ現行民法ニ於テハ賃借ハ債權關係ナレハ不動産上ノ權利ニ非スト然レトモ不動産上權利者ナル文字ヲ物權ヲ有スル者ト解釋スル根據ナキノミナラス賃借權ハ之ヲ登記スルトキハ第三者ニ對シテモ效力ヲ生スルモノニシテ爾後其不動産ニ付キ物權ヲ取得シタル者ニ對シテモ效力ヲ生スヘキモノナレハ(第六百五十六條)物權ト輕重ナキモノナリ故ニ不動産上權利者ト爲スヲ正當ト信ス又假登記ヲ爲シタル不動産上權利者モ亦此ニ包含スヘシ如何トナレハ法文ニ登記簿ニ記入アル云々ノ意義ハ本登記假登記ヲ區別シタルモノト解ス

ルヲ得サレハナリ

(四) 不動産上權利者トシテ其債權ヲ證明シ執行記録ニ備フヘキ届出ヲ爲シタル者 不動産上權利者トハ不動産ニ付キ權利ヲ有スルモノ之ヲ登記セザリシ場合ニ於ケル債權者ノ謂ニシテ登記簿以外ニ他ノ方法ヲ以テ其債權ヲ證明シ得ヘキ者ヲ謂フ例セハ第六百五十四條ニ規定セル租稅其他ノ公課ヲ主管スル官廳ヨリ滯納アル旨ノ届出ヲ爲シタルトキノ如キハ國家其他未納公課ヲ取立ツル權アル公法人ハ此ニ所謂權利者ナリ

第五 債權者ノ配當要求

不動産ニ對スル強制競賣ハ動産ニ對スル強制執行ト同ク一ノ債權者ノ爲メニ差押ヲ爲シタルトキハ他ノ債權者ノ爲メ再ヒ之カ差押ヲ爲スコトヲ得ス故ニ他ノ債權者ハ此場合ニ不動産ノ賣却代金ニ付キ其配當要求ヲ爲シ得ルニ過キサレナリ而シテ其配當要求ヲ爲ス債權者ニ二種アリ
一ハ前ニ説明セル如ク同一不動産ニ付キ更ニ競賣ノ申立ヲ爲シタル債權者ニシテ既ニ同一ノ不動産ニ付キ差押アリタルカ爲メ其申立書ヲ執行記録ニ

加ヘタルニ因リ配當要求ノ效ヲ生シタル者(第六四五)又他ノ一種ハ差押ノ申立ヲ爲ナス配當要求ヲ申立テタル債權者ナリ此種ニ屬スル債權者ハ競落期日ノ終了迄ニ配當要求ヲ爲スノ原因ヲ執行裁判所ニ開示シ且裁判所所在地内ニ住居又ハ事務所ヲ有セサルトキハ假住所ヲ選定シテ其裁判所ニ届出ツヘキモノトス而シテ此等ノ債權者ハ執行力アル正本ヲ有スルト否トヲ問ハサルナリ(第六四)右再度ノ競賣ノ申立又ハ配當要求ノ申出アリタルトキハ執行裁判所ハ之ヲ利害關係人ニ通知セサルヘカラス(第六四七)然レトモ執行力アル正本ニ因ラスシテ配當ヲ要求スル債權者アルトキハ債務者ハ執行裁判所ヨリ配當要求アリタルコトノ通知ヲ受ケタル後三日ノ期間内ニ其債權ヲ認諾スルヤ否ヤヲ執行裁判所ニ申出テサルヘカラス(第六四七)債務者カ債權ヲ否認スル旨ヲ届出テタルトキハ裁判所ハ更ニ其旨ヲ債權者ニ通知スヘク而シテ其債權者ハ自己ノ債權ヲ確定スル爲メニ通知後三日ノ期間内ニ債務者ニ對シ訴ヲ提起シ判決ヲ以テ債權ノ存在ヲ確定セサルヘカラス(第六四七)

第六 競賣實施前ノ手續

差押ヘタル不動産ハ之ヲ金錢ニ換價セサルヘカラス其換價ハ競賣ノ方法ニ因ルヘキナリ而シテ其不動産ノ賣却代金ニ付キ執行裁判所ハ普通ノ價額以下ニ賣却シ債務者ニ損害ヲ被ラシメ各債權者ノ爲メニ配當金ヲ少ナカラシムルコトアルヲ慮リ一ノ最低競賣價額ヲ定メ此價額以下ノ金額ヲ以テ其不動産ノ競賣ヲ許ササルノ方法ヲ取ラサルヘカラス故ニ裁判所ハ登記判事及ヒ租稅其他ノ公課ヲ主管スル官廳ヨリ各種ノ通知ヲ受ケタル後職權ヲ以テ相當ノ鑑定人ヲ選任シ差押ヘタル不動産ノ普通賣買價額ヲ評價セシメ此評價額ヲ以テ最低競賣價額ト爲ス(第六五)鑑定ハ動産ノ場合ニ於ケルト同ク第三百二十二條以下ノ規定ヲ適用スヘキニ非ス

最低競賣價額定マリタル後執行裁判所ハ優先權ヲ有スル債權ニシテ其不動産ノ負擔ト爲ルヘキ金額及ヒ強制執行ノ爲メニ要シタル費用ヲ計算シ其合計金額カ最低競賣價額ニ比シテ多額ナルトキハ強制執行手續ヲ續行スルモ差押債權者ノ爲メニ利スル所ナキニ因リ其旨ヲ差押債權者ニ通知スヘキモノトス(第六五)差押債權者若シ右ノ豫定ヲ不當トスルトキハ前項不動産ノ

負擔金額並ニ執行費用ヲ支辨スルモ尙ホ剩餘ノ金額ヲ得ヘキ不動産ノ價額ヲ定メ若シ其價額以上ニ競買スヘキ人ナキトキハ債權者自ラ其價ヲ以テ之ヲ買取ルヘキ旨ヲ前項ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ七日以内ニ裁判所ニ申立ツヘク且十分ナル保證ヲ立テタルトキハ之ニ因リテ裁判所ハ競賣手續ヲ進行スヘキナリ然レトモ債權者カ右通知ヲ受ケタルヨリ七日ノ期間ヲ徒過スルトキハ競賣手續ヲ取消スヘキモノトス(第六五項)

裁判所カ最低競賣價額ヲ以テ前説明ノ金額ヲ差引キ剩餘ヲ生スルノ見込アリトシ又ハ債權者ノ前述ノ申立ニ因リ以上ノ手續ニ依リ執行裁判所カ競賣手續ヲ進行スヘキモノト認ムルトキハ職權ヲ以テ競賣期日及ヒ競落期日ヲ定メテ之ヲ公告スヘキモノトス(第六五條)而シテ競賣期日ノ公告ニハ左ノ諸件ヲ具備セサルヘカラス(第六五條)

(一) 不動産ノ表示
 (二) 租稅其他ノ公課
 (三) 貸貸借アル場合ニ於テハ其期限並ニ借貸

右(二)(三)ノ事實ヲ明カニスル所以ハ不動産ノ負擔ヲ明瞭ニシテ其實價ヲ評定スルノ便ニ供セルナリ故ニ貸貸借ハ不動産ノ買得人ニ對シテモ效力アルモノニ限り記載スヘキナリ

(四) 強制執行ニ因リ競賣ヲ爲ス旨

(五) 競賣期日ノ場所日時及ヒ競賣ヲ爲スヘキ執達吏ノ氏名並ニ住所 競賣期日ハ公告ノ日ヨリ少ナクトモ十四日ノ後ニ定メサルヘカラス蓋シ競賣ノ事實ヲ公衆ニ知ラシメ且執行參加ヲ爲スノ機會ヲ得セシムル爲メ期間ヲ存スルモノトス而シテ競賣期日ハ裁判所ノ意見ニ從ヒ或ハ裁判所内ニテ開クコトアリ或ハ其他ノ場所ニ於テ開クコトアリ執達吏其場所ニ臨ミテ期日ヲ開クモノトス(第六五條)

(六) 最低競賣價額

(七) 競落期日ノ場所及ヒ日時 競落期日ヲ定ムルニハ競賣期日ヨリ七日以内ニ指定シ其期日ハ裁判所内ニ於テ開クモノトス(第六六條)

(八) 執行記録ヲ閱覽シ得ヘキ場所

第五編 強制執行 第七章 強制執行ノ行爲 第一節 金錢債權ニ付テノ強制執行

(九) 登記簿ニ記入ヲ要セサル不動産上權利ヲ有スル者其債權ヲ申出ツヘキ旨 此申出ハ競賣期日マテヲ限リトス

(十) 利害關係人競賣期日ニ出頭スヘキ旨

以上(一)乃至(十)ニ至ル要件ヲ公告セサルトキハ競落ヲ許ササルノ原因ト爲ルヘシ而シテ右ノ公告ハ左ノ箇所ニ揭示シテ之ヲ爲スヘキモノトス(第六六條)

一 裁判所ノ揭示板

二 不動産所在地ノ市町村ノ揭示板

此外公告ハ裁判所ノ意見ニ從ヒ一箇又ハ數箇ノ新聞紙ニ掲載スルコトヲ得ルモノナリ而シテ競賣期日ノ公告ハ動産ノ競賣ノ場合ト同ク賣買申込ノ誘引ナリトス其他競賣ノ性質ニ付テハ動産競賣ト同一ナリ参照スヘシ

第七 賣却條件

普通ノ賣買ニ於ケル賣却條件ハ各人ノ隨意ナレトモ強制競賣ニハ豫メ法律ヲ以テ賣却條件ヲ定ム賣却條件トハ競賣ノ成立及ヒ效力ニ關スル事項ニシテ法律ニ定メタルモノヲ謂フ即チ左ノ如シ

(一) 最低競賣價額(第六五條、第六六條、第六七條)

(二) 競賣價額ヲ以テ不動産上ノ總テノ負擔ヲ辨濟シ剩餘ヲ得ル見込アルニ非サレハ競賣ヲ許ササル制限(第六五條)

(三) 競買人ノ保證ヲ立ツヘキ義務及ヒ其方法(第六六條、第六七條)

(四) 競買人カ其申立テタル競買價額ニ付キ羈束セララル、責任及ヒ其免除(第六五條)

(五) 競買人ノ競買取消ノ權利(第六七條)

(六) 不動産上ノ負擔ノ免除及ヒ其引受(第六四條)

(七) 競落人ノ所有權取得ノ時期(第六八條)

(八) 不動産ノ引渡ハ代金支拂ノ後ニ非サレハ之ヲ許サ、ル制限(第六八條)

(九) 賣却代金徴收ノ時期(第六九條)

以上ノ條件中(一)乃至(五)ハ競賣成立ニ關スル條件ニシテ(六)乃至(九)ハ競賣ノ效力ニ關スル條件ナリ而シテ(一)ヲ除キ他ノ賣却條件ハ競賣期日ノ終リニ至ル迄利害關係人ノ合意ニ依リ變更スルコトヲ許ス(第六六條)變更シタル條件ヲ法

第五編 強制執行 第七章 強制執行ノ行爲 第一節 金錢債權ニ付テノ 一一一九

律ハ特別條件ト云フ最低競賣價額ヲ變更スルコトヲ許ストキハ不動産ヲ普通價額ヨリ低價ニ競落スルニ至ルノ恐アリテ公益ヲ害スルヲ以テ利害關係人ノ合意アルトキト雖モ變更ヲ許ササルモノトセリ

競賣ニ付セラルル不動産ハ通常負擔ヲ有スルコト多シ殊ニ其負擔ハ差押債權者ニ對シ優先權ノ存スルコトアルヲ以テ法律ハ競賣ニ關シ不動産上ノ負擔消滅主義ト負擔引受主義トヲ認ム前者ハ競落ニ因リ不動産ノ負擔ハ全然消滅シ競落人ハ完全ニ不動産ノ所有權ヲ取得スルモノナリ後者ハ其負擔ハ競落ニ因リテ消滅セス之ヲ競落人ニ引受ケシムル主義ナリ前者ノ主義ヲ採用スレハ不動産上ノ負擔ハ競落ニ依リ消滅スヘキヲ以テ競落代金ヲ以テ不動産上ノ負擔ヲ完済セシメサルヘカラス後者ノ主義ヲ採用スレハ差押債權者ノ債權ニ先タツ不動産上ノ權利ハ競落ノ爲ニ毫モ變動ヲ生セサルナリ我々現行法ハ獨逸法ト同シク右二主義ヲ併用セリ即チ差押債權者ノ債權ニ先タツ債權ニ關スル不動産上ノ負擔ヲ競落人ニ引受ケシムルカ又ハ賣却代金ヲ以テ其負擔ヲ辨済スルニ足ル見込アルトキニ非サレハ賣却ヲ許ササルモノ

トシ第六四九條第一項不動産上ノ負擔タル先取特權及ヒ抵當權ハ賣却ニ因リテ消滅セシメ即チ負擔消滅主義ヲ採用シ第六四九條第二項留置權質權及ヒ質權者ニ對シテ優先權ヲ有スル者ノ債權ニ付テハ負擔引受主義ヲ採用セリ第六四九條第三項第四項

第八 競賣ノ實施

競賣ハ執行裁判所ノ監督ノ下ニ執達吏之ヲ實施ス競賣期日ニ執達吏ハ豫メ公告シタル競賣期日ヲ開クヘキ場所ニ於テ執行記録ヲ各人ノ閱覽ニ供シ又競賣期日マテニ利害關係人ニ於テ法定ノ賣却條件ヲ變更シテ届出テタル特別ノ賣却條件アルトキハ之ヲ各人ニ告知シ爰ニ始メテ競買價額ヲ申立ツヘキ旨ヲ出頭シタル者ニ催告ス第六六三條競賣ニ干與スル者カ訴訟能力者タラサルヘカラサルコトハ不動産ノ競賣ノ場合ト同一ナリ

期日ニ出頭シタル者ハ不動産ヲ買取ラントスル隨意ノ價額ヲ申立テ執達吏ハ之ヲ競リ上ケ最高價申出人ヲ競買人ト爲スヘキナリ然レトモ若シ各競賣人ノ競買價額申出ニ信用ヲ置キ難キ場合アルトキハ其申出人ノ何人タルヲ問ハス利害關係人ヨリ執達吏ニ對シ保證ヲ立テシメンコトヲ求ムルヲ得ヘ

ク此請求ハ競買申出人ヨリ價額ノ申立アリタル時直チニ爲ササレハ其效ナ
 キモノトス保證ヲ立ツルコトヲ規定シタル所以ハ後日競買申出人ニ於テ競
 落金ノ支拂ヲ怠ルコトニ因リ生スル損害或ハ再競賣ニ付スル場合ノ費用等
 ニ對スル擔保ニ供スルモノニシテ又一面ニハ獵ニ競買價額ヲ申出テ實行ヲ
 期セサル者ノ競賣手續ニ加ハルヲ防カントスルニ在リ保證ノ提出ヲ求メラ
 レタル競買申出人ハ申出ノ價額十分ノ一ニ當ル金額ヲ現金又ハ有價證券ヲ
 以テ執達吏ニ預クヘシ此提出ナキトキハ價額ノ申出ヲ以テ有效ト爲サス又
 ハ競買申出人カ利害關係人ノ請求ニ因リテ保證ヲ一タヒ立テタル以上ハ其
 後又競買價額ヲ競上クル時再度ノ請求ナクトモ當然其増價額ニ付キ尙ホ十
 分ノ一ノ保證ヲ立ツヘキモノトス(第六六條)
 競買ヲ許サレタル競買人ハ更ニ其價額ヨリ高價ナル競買ノ申出アルマテ其
 申出價額ニ拘束セラレ不動産ヲ買受クルノ責アリ然レトモ尙ホ高價ノ競買
 人アリテ其申出適法ナルトキハ低價ノ競買人ハ一タヒ負ヒタル責任ヲ免除
 セラルルモノトス蓋シ此ノ如ク拘束力ヲ與ヘサレハ無益ニ競買ヲ申出ツル

者多ケレハナリ(第六六條)競賣ハ成ルヘク高價ニ競リ上ケテ賣却スルノ途ヲ
 講セサレハ競賣手續ヲ爲スノ效ナシ此效果ヲ收メンニハ競賣執行ニ多少ノ
 猶豫時間ヲ與フルヲ可トスルカ故ニ執達吏カ競買價額ノ申出ヲ催告シタル
 時ヨリ一時間ヲ經過セサレハ之カ終局ヲ爲ス能ハサルモノトセリ(第六六條)
 是ヲ以テ執達吏ハ競買催告ヨリ一時間ヲ過クルマテニ申出テタル最高競買
 價額ト其申出人ノ氏名トヲ呼上ケ各人ニ告知シテ競賣ノ終了ヲ告知スヘキ
 モノトス(第六六條)催告ヨリ一時間ヲ經過スルモ適法ナル競買價額ノ申出ナ
 キトキハ執達吏ニ於テ其旨ヲ調書ニ記載シ手續ヲ終了スヘシ
 最高競買價額定マルトキハ爾餘ノ競買價額申出人ノ價額申出ニ付テノ責務
 ハ免除セラルルヲ以テ先ニ預ケタル保證金ハ執達吏ニ於テ直チニ之ヲ返還
 スヘク保證ヲ立テタル者ハ之カ返還ヲ求ムル權利アリトス(第六六條)而シテ
 之カ返還ヲ爲シタルトキハ執達吏ハ受取證ヲ取り之ヲ競賣調書ニ添付シ置
 クヘキモノトス(第六六條)
 茲ニ注意スヘキハ執達吏ノ爲シタル手續ニ於テ最高價ノ競買人定マリタル

モ未タ以テ競落人ト謂フコトヲ得ス競落人ト爲ルヤ否ヤハ更ニ執行裁判所ノ裁判ヲ要ス後ニ説明スヘシ

執達吏ハ競賣手續實施ニ付キ左ノ事項ヲ記載スヘキ調書ヲ作ルヘキモノトス(第六六條七)

- (一) 不動産ノ表示
- (二) 差押債權者ノ表示
- (三) 執行記録ヲ各人ニ閲覧セシメタルコト又特別ノ賣却條件アリタルトキハ之ヲ告知シタルコト
- (四) 競買價額ノ申出ヲ催告シタル日時
- (五) 各人ヨリ申出テタル競買價額竝ニ其申出人ノ氏名住所又ハ許スヘキ競買ノ申出ナキコト
- (六) 競賣ノ終局ヲ告知シタル日時
- (七) 申立ニ因リ競買ノ爲メ保證ヲ立テタルコト又ハ申立アルモ保證ヲ立テサル爲メ其競買ヲ許ササルコト

(八) 最高價競買人ノ氏名及ヒ其價額ヲ呼上ケタルコト

以上(一)乃至(八)ノ事項ノ外執達吏ハ尙ホ第五百四十條ノ規定ニ基キテ調書ヲ作り最高價競買人及ヒ利害關係人ニ示シテ之ニ署名捺印セシメ若シ調書作成前ニ此等ノ者退席シタルトキハ其旨ヲ附記スヘシ(第六六條第二項)
右ノ調書完結シタル後執達吏ハ三日内ニ競買ノ保證トシテ預リタル現金又ハ有價證券ニシテ返還セサルモノハ調書ト共ニ執行裁判所ノ書記ニ交付シテ其任務ヲ終ルモノトス(第六六條八)

最高價競買人ハ爾後執行裁判所ト種々ノ關係ヲ生スルヲ以テ其裁判所所在地ニ住居若クハ事務所ヲ有セサルトキハ其地ニ假住所ヲ選定シテ裁判所ニ届出ツヘク若シ之ヲ怠リタルトキハ競買人ニ對スル呼出通知等ハ郵便ニ付スル送達ニヨリ取扱ハルコトアルヘシ但住所ノ選定ハ執達吏ニ口述シ其調書ヲ作ラシメテ之ヲ爲スモ妨ナシ(第六六條九)

第一ノ競賣期日ニ於テ適法ナル競買ノ申出ナキトキハ執行裁判所ハ最低競賣價額ヲ低減シ前同一ノ手續ヲ以テ新競賣ヲ爲スヘキモノトス但其最低價

額ヲ定ムルニ付テモ競賣ニ付シタル不動産カ差押債權者ニ先タツ他ノ債權者ノ爲メニ負擔スル金額以上ニ定メサルヘカラス再度ノ競賣ニ付テハ第六百五十八條第六百五十九條ノ規定ニ倣ヒ公告ヲ爲スヘク而シテ新競賣期日ハ第一競賣手續ノ終了シタル時ヨリ少ナクモ十四日ノ後ナルコトヲ要ス再度ノ競賣亦其效ナキトキハ更ニ同一ノ手續ニ從ヒ新期日ヲ定ムヘシ(第六七條)

第九 競落許否ノ決定以前ノ手續

競落期日ハ競賣期日ヨリ七日ヲ過キサル期間内ニ定ムヘキモノニシテ既ニ競賣期日ノ公告ニ於テ其公告ヲ爲スヘキヲ以テ利害關係人ハ其競落期日ニ執行裁判所ニ出頭スヘク裁判所ハ右ノ期日ヲ開キテ出頭シタル利害關係人ヲ審訊シ執達吏ニ於テ手續ヲ盡シタル最高價競買人ニ競落ヲ許スヘキヤ否ヤニ關シ陳述ヲ爲サシム裁判所ハ競落許否ノ決定ヲ爲スカ又ハ後ニ述フル其他ノ處分ヲ爲スヘキナリ(第六七條)競落期日ニハ裁判所書記ハ出頭シタル利害關係人ノ氏名竝ニ異議ノ有無陳述ノ顛末其他競落許否ノ決定ノ有無等ヲ記載スヘキ調書ヲ作成スヘキモノトス(第六七條)

利害關係人ハ最高價競買人ヲシテ競落人タラシムルニ異議アラハ競落期日ニ於テ其旨ヲ裁判所ニ申立テ異議ヲ主張スヘク異議ノ申立ハ必スシモ競落期日ニ之ヲ爲スヲ要セス其以前ヨリ異議ノ申立ノミヲ爲スヘキモノ之ニ關シテ理由ヲ陳述スルコトハ競落期日ニ於テ其終了マテニ爲スヘキモノトス(第六七條)

利害關係人ヨリ申立ツヘキ競落許可ニ付テノ異議ハ左ノ事由ニ基キタルモノナラサルヘカラス(第六七條)

- (一) 強制執行ヲ許スヘカラサルコト又ハ執行ヲ續行スヘカラサルコト 強制執行ヲ許スヘカラサルコトトハ強制執行ノ條件ノ欠缺ヲ謂ヒ執行ヲ續行スヘカラサルコトトハ執行手續ノ進行中ニ發生シタル事項ニシテ執行ノ續行ヲ妨クル性質ヲ有スルモノヲ謂フ執行ノ停止制限ノ如キ之ニ屬ス
- (二) 最高價競買人カ賣買契約ヲ取結ヒ若クハ其不動産ヲ取得スルノ能力ナキコト 競買人カ不動産ヲ取得スル能力ナキコトトハ債務者若クハ執達吏カ競買人タル如キ場合ヲ謂ヒ競買人カ賣買契約ヲ取結フ能力ナキコト

- トハ訴訟行為ノ無能力者カ競買行為ヲ爲シタル場合ノ如キ是ナリ
 - (三) 法律上ノ賣却條件ニ抵觸シテ競買ヲ爲シタルコト又ハ總テノ利害關係人ノ合意ヲ得スシテ法律上ノ賣却條件ヲ變更シタルコト
 - (四) 競賣期日ノ公告ニ第六百五十八條ニ掲ケタル要件ノ記載ヲ缺キタルコト
 - (五) 競賣期日ノ公告ヲ法律上規定シタル方法ニ依リテ之ヲ爲ササルコト即チ第六百六十一條ニ規定アル揭示ノ方法ニ違背シタル場合ナリ
 - (六) 競賣期日ヲ定ムルニ公告ヨリ十四日ヲ經過セサルコト
 - (七) 執達吏カ競買價額ノ申出ヲ催告シタル後一時間ヲ經過セスシテ競賣手續ヲ終了シタルコト竝ニ執達吏カ最高價競買人ノ氏名及ヒ其價額ヲ呼上ケタル後競賣ノ終了ヲ告知セサルコト
 - (八) 第六百六十四條ノ規定ニ違背シ最高價競買人ナリト呼上ケタルコト
- 以上(一)乃至(八)ノ事項ハ利害關係人ノ競落手續ニ對シテ申立ツヘキ異議ノ原因ナレトモ申立人自己ノ權利ニ消長ヲ來ササル以上ハ他ノ利害關係人ノ權

利ニ關スルコトアルモ異議ノ申立ヲ爲シ得ヘキ限ニ在ラス蓋シ徒ニ異議ヲ提出シテ競賣手續ヲ妨害スルノ恐アレハナリ(第六七條)

異議ノ申立アリテ執行裁判所カ之ヲ正當ナリトスルトキハ競落ヲ許サス(第六七條)而シテ強制執行ヲ許スヘカラサル原因ニ基クトキハ競賣ノ申立ヲ却下スヘキモノトス又執行裁判所ハ第六百七十二條ニ規定セル(一)乃至(八)ノ原因存スルヤ否ヤヲ職權ヲ以テ審査シ其事實存セリト認メタルトキハ職權ヲ以テモ競落ヲ許ササルモノトス但競落異議ノ理由存スルトキハ常ニ競落ヲ許ササルモノニ非スシテ前示(一)ノ事項ニ付テハ競賣ニ付シタル不動産カ華族ノ世襲財産ノ如ク性質上讓渡スルコトヲ得サルモノナルトキ又ハ競賣手續ノ停止ヲ命シタルモノナルトキニ限り職權ヲ以テモ競落ヲ許ササルモノトシ又(二)ノ事項ニ付テハ競買人ノ能力若クハ資格カ競落期日ニ至ルモ尙ホ欠缺シタルトキニ限り職權ヲ以テモ競落ヲ許サス(三)ノ場合ニ於テハ總テノ利害關係人カ變更セラレタル賣却條件ニ依リ手續ノ續行ヲ承諾スルコトト爲ラハ裁判所ハ強ヒテ競落ヲ許ササルノ理由ナシト雖モ利害關係人中一人タ

リトモ之ヲ承諾セサレハ職權ヲ以テ競落ヲ許ササルモノトス(第六七條)
 競落ヲ許ササルニ非サルモ競買人カ競買申出ヲ取消スコトヲ得ル場合アリ
 即チ競賣期日ト競落期日ノ間ニ於テ天變地異等ニ因リ不動産カ著シク毀損
 シタルトキハ最高價競買人ハ執行裁判所ニ競買ノ取消ヲ求ムルコトヲ得ヘ
 ク裁判所カ其中出ヲ至當ト認ムルトキハ其中出ヲ許可スルコトヲ得ヘシ(第六八條)
(七)此場合ニ在テハ更ニ前説明セル一般ノ手續ニ依リ最低競賣價額ヲ定メ
 テ競賣ヲ實施スヘク然ラサレハ競賣手續ヲ取消スヘギナリ(第六八條)

第十 競落不許可ノ決定

競落不許可ノ決定ヲ與フヘキ場合ハ左ノ如シ不許可ノ決定確定スルトキハ
 最高價競買申出人ニ對スル其申出額ニ付テノ拘束ハ免除セラレ(第六八條)
 (一) 競落ニ付キ利害關係人ヨリ異議ノ申立アリテ其異議カ正當ナルトキ
 (二) 利害關係人ヨリ申立ツヘキ異議ノ原由アルコトヲ執行裁判所ニ於テ職
 權上調査シタルトキ
 (三) 數箇ノ不動産ヲ競賣ニ付シタル場合ニ於テ或一部ノ不動産ヲ賣却シ得

タル金錢ヲ以テ各債權者ノ要求額及ヒ強制執行ノ費用ヲ辨濟スルニ足ル
 トキハ他ノ不動産ニ付キ競落ヲ許サス而シテ此場合ニ於テ債務者ハ不動
 產中賣却スヘキモノヲ指定スルコトヲ得ヘシ(第六七條)
 前示(一)ノ場合ニ於テ競落ヲ許ササルモノト決スルモ更ニ競賣ヲ爲シ得ヘ
 キ望アルトキハ競落不許可ノ決定ヲ爲サス更ニ職權ヲ以テ新競賣期日ヲ決
 定スヘシ但其期日ハ競落期日ヨリ少ナクモ十四日ノ後ニ定メサルヘカラス
(第六七條)其他ノ場合ニ在テハ競落不許可ノ決定ヲ競落期日ニ於テ言渡スヘキ
 モノトス(第六七條)

第十一 競落許可ノ決定

競落期日ニ於テ利害關係人ヨリ異議ノ申立ナク又異議申立ヲ理由ナシトス
 ルトキハ裁判所ハ競落許可ノ決定ヲ爲スヘク競落許可ノ決定ニハ左ノ事項
 ヲ表示セサルヘカラス(第六九條)
 (一) 競賣ヲ爲シタル不動産
 (二) 競落人ノ氏名

- (三) 競落ヲ許シタル競買價額
 - (四) 特別ノ賣却條件アリタルトキハ其條件
- 右決定ハ競落期日ニ於テ之ヲ言渡シ且裁判所ノ掲示板ニ其旨ヲ公告スヘキモノトス

第十二 競落決定ニ對スル抗告

競落許否ノ決定ニ對シテハ左ノ者ハ即時抗告ヲ以テ不服ヲ申立ツルコトヲ得ヘシ(第六八條)

- 一 利害關係人
- 二 競落人
- 三 競買人

即時抗告ハ執行停止ノ效力ヲ生セサルヲ原則トスルモ競落許否ノ決定ニ對スル抗告ハ後日抗告ヲ理由アリトシテ競落手續ヲ取消スニ當リ回復スルコト能ハサル場合アルヘキヲ慮リテ特ニ執行ヲ停止スルノ效力ヲ生セシム(第六八條)而シテ抗告ヲ許スヘキ場合ハ競落ヲ許可シタル決定ニ對スルト競落

不許可ノ決定ニ對スルトノ二様アリ但左ノ條件ヲ必要トス

- (一) 利害關係人ハ競落許可ノ決定及ヒ競落不許可ノ決定ニ對シ自己ニ損失ヲ被ムルヘキ場合ニ限り抗告ヲ許ス然レトモ曾テ競落異議申立ノ場合ニ說示シタル如ク利害關係人ハ他人ノ權利ニ損失ノ來ルヘキ理由ニ基キテ抗告ヲ爲スコトヲ得サルモノナリ(第六八條第二項)
- (二) 競落人ハ競落ノ許可ヲ自己ニ對シテ與フヘキモノニ非ストノ理由ニ基キ又其決定ニ揭ケラレタル以外ノ條件ヲ以テ競落ヲ許可セラルヘキモノナリトノ理由ニ基クトキニ限り競落許可決定ニ對シ抗告ヲ爲スコトヲ得(第六八條第二項)
- (三) 競買人ハ競落許可ノ決定タルト又競落不許可ノ決定タルトヲ問ハス自己ニ競落許可アルヘキモノナリトノ理由ニ基クトキニ限り抗告ヲ爲スコトヲ得但抗告ヲ申立テタル競買人ハ先ニ申立テタル競買價額ニ付キ拘束ヲ受ケ抗告ノ理由アルトキハ其價額ヲ以テ不動産ヲ買受クル義務アルモノトス(第六八條第四項)

以上三種ノ關係人ヨリ抗告ヲ爲スヲ得ヘキモ其抗告ノ理由トシテハ競落ヲ許ササル決定ニ對シテハ法律ニ規定セル總テノ不許ノ原因カ存セサルコトヲ主張スルコトヲ要シ(第六八項)競落ヲ許シタル決定ニ對スル抗告ハ第六百七十二條第一號乃至第八號ニ所掲ノ事項ノ一カ存スルコト或ハ競落決定カ競落期日ノ調書ノ趣旨ニ抵觸シタルコトヲ理由トスルコトヲ要シ(第六八二項)其他再審ニ於ケル取消ノ訴又ハ原狀回復ノ訴ヲ爲スニ必要ナル條件ヲ理由トスルトキハ前示ノ理由ニ拘ハラズ抗告ヲ爲スコトヲ得ヘシ(第六八二項)抗告裁判所ハ抗告ニ關スル普通手續ノ外尙ホ左ノ特別規定ニ從フヘキモノトス即チ抗告裁判所ニ於テ必要ナリト思料スルトキハ反對ノ陳述ヲ爲サシムル爲メ抗告人ノ相手方ヲ定ムヘキモノトス(第六八二項)而シテ此場合ニ相手方ヨリ書面ヲ徵スルコトヲ得ヘク又口頭辯論ヲ開キテ當事者ヲ審問スルコトヲモ得ヘシ又同一ノ決定ニ對シ利害關係人競落人競買人等カ同時ニ抗告ヲ爲スヘキ場合アリ抗告ハ七日ノ不變期間内ニ申立ツヘキ規定ナルヲ以テ多クノ場合ハ二箇以上ノ抗告同時ニ起ルコトアリ此場合ニ抗告裁判所ハ之ヲ併

合シテ審理スヘキモノトス(第六八二項)唯再審ノ理由ヲ以テ抗告ヲ爲ストキハ七日ノ不變期間後ニ申立ヲ爲スコトアルニ因リ勢ヒ併合スルコトヲ得サルヘシ

抗告ハ申立人自己ノ權利ヲ保護スルカ爲メニ認メタル規定ナルニ因リ他ノ利害關係人ノ權利ニ關スル理由ニ基キテハ之カ抗告ヲ爲スコトヲ得ス又第六百七十四條ノ職權ヲ以テモ競落ヲ許ササル規定ハ抗告審ニモ準用セラ(第六八二項)

抗告裁判所ハ書面審理ニ因リ又ハ相手方ノ陳述ヲ聞キタル後又ハ口頭辯論ヲ經テ裁判ヲ爲スヘク執行裁判所ノ裁判ヲ變更シ又ハ廢棄シタル抗告裁判所ノ裁判ハ執行裁判所ノ掲示板ニ掲示シテ公告セサルヘカラス(第六八三項)

第三 競落決定ノ效力

- (一) 競落不許可ノ決定確定シタルトキハ競落人及ヒ競落ヲ求メタル競買人ハ總テ申出テタル競買ノ責務ヲ免ル(第六八四項)
- (二) 競落許可ノ決定アリタルトキハ其決定確定前ト雖モ競落人ハ之ニ因リ

テ不動産ノ所有權ヲ取得シ代金支拂ノ有無ハ所有權取得ニ關係ナシ(第六條)然レトモ競落許可決定カ確定セサルトキハ抗告ニ因リ取消サルルコトアルヘク又競落人カ代金支拂ノ期日ニ其支拂ヲ爲ササルトキハ再競賣ヲ爲スヘキモノトス故ニ競買人ハ解除條件附ニテ不動産ノ所有權ヲ取得スルモノナリ而シテ其決定ハ執行裁判所ノ決定ナルト抗告裁判所ノ決定ナルトニ拘ハラス其效力ヲ同フスルモノナリ不動産ノ所有權ハ競落許可ノ決定ニ因リテ當然競落人ニ移轉スレトモ其引渡ハ競落人ヨリ代金ノ支拂ナキ以上ハ之ヲ求ムルコトヲ得ス(第六八七條)代金ノ支拂ヲ爲スマテハ債務者ニ於テ不動産ノ占有ヲ爲スカ故ニ往々危険ナキヲ保セス之ヲ防止スルノ目的ヲ以テ競落人若クハ債權者ヨリノ申立アレハ裁判所ニ於テ相當ノ管理人ヲ命シ之ヲシテ競落許可決定後引渡マテノ間不動産ノ保管ヲ爲サシム若シ債務者カ保管人ニ引渡スコトヲ拒ムトキハ裁判所ハ競落人又ハ債權者ノ申立ニ因リ執達吏ヲシテ債務者ノ占有ヲ解キ之ヲ管理人ニ引渡サシムルモノトス(第六八七條)競落許可決定カ確定シ競落人カ代金ヲ裁判所ニ

支拂ヒタルニ拘ハラス債務者カ不動産ノ引渡ヲ拒ムコトアルヘシ管理人カ不動産ヲ保管スルトキハ斯ル場合ヲ生セスト雖モ債務者之ヲ占有セル場合ニ引渡ヲ拒ミタルトキハ競落人ハ競落許可決定ニ基キ引渡ニ付キ更ニ執行ヲ爲スヲ得ルヤ立法上斯ル執行ヲ許スヲ至當トスト雖モ現行法ニハ特別ノ規定ナキヲ以テ更ニ訴ヲ以テ引渡ヲ求ムルノ外ナカルヘシ競賣ノ性質ハ動産ノ競賣ニ付テ論述シタル如ク私法上ノ賣買ニ非ス執行機關ノ賣却ナリ然レトモ民法第七十七條ハ法律行為タル賣買ノミニ適用スヘキモノニ非サレハ競落人ノ所有權ハ其登記ヲ爲スニ非サレハ第三者ニ對抗スルヲ得サルヘシ

第十四 再度ノ競賣

再度ノ競賣ニ二種アリ新競賣及ヒ再競賣是ナリ

- (一) 新競賣トハ競賣手續ニ著手シタルモ或事由ニ因リ其手續ノ完了ヲ告ケサリシ爲メ更ニ競賣手續ヲ實施スルコトヲ謂フ其場合左ノ如シ
- (イ) 競賣期日ニ於テ許スヘキ競買價額ノ申立ナキトキハ競賣手續ヲ進行

第五編 強制執行 第七章 強制執行ノ行爲 第一節 金錢債權ニ付テノ
一二三七

スルコト能ハサルニ付キ裁判所ハ不動産上ノ負擔竝ニ執行費用ヲ辨濟シテ尙ホ幾分ノ剩餘ヲ得ヘキ程度ニ最低競賣價額ヲ低減シ以テ新競賣ヲ爲スヘキモノトス(第六七條)

(ロ) 競落期日マテノ間ニ天災其他ノ事變ニ因リ不動産ノ著シク毀損シタルカ爲メ最高價競買人ニ於テ其競買ヲ取消シタルトキハ裁判所ハ更ニ新競賣ヲ爲スヘキモノトス(第六七條)是レ不動産ノ價額ヲ減少シタルニ原因スルモノナリ

(ハ) 競落ノ許可ニ對スル異議ノ理由アリテ競落ヲ許ササル場合ニ於テ更ニ競賣ヲ許スヘキトキハ前ノ手續ニ從ヒ競賣ヲ爲ス能ハサルヲ以テ裁判所ハ更ニ新競賣ヲ爲スヘキモノトス(第六七條)然レトモ強制執行ヲ許スヘカラサル理由又ハ之ヲ續行スヘカラサル理由ニ基キ絕對ニ競落ヲ許ササルモノナルトキハ競賣申立ヲ却下シ又ハ手續ノ進行ヲ停止スヘキヲ以テ新競賣ヲ爲スヘキニ非ス(第六七條)
以上(イ)(ロ)(ハ)ノ場合ニ於テハ執行裁判所ハ新競賣ヲ爲スヘキコトヲ決定

(二)

スヘク然ル後一般ノ規定ニ從ヒ競賣ヲ實施スヘキモノトス

再競賣トハ競落許可ノ決定確定後ニ再度ノ競賣ヲ爲スヲ謂フ競落人ハ競落許可決定確定後裁判所ノ定メタル代金支拂期日ニ代金ヲ支拂ハサルヘカラス然ルニ代金支拂期日ニ義務ヲ完全ニ履行セサルトキハ裁判所ハ職權ヲ以テ不動産ノ再競賣ヲ命スヘキモノトス(第六八條)再競賣ハ亦決定ヲ以テ命スヘク然ル後一般ノ規定ニ從ヒ競賣ヲ實施スルモノトス

再競賣ニ於ケル最低競賣價額竝ニ其他ノ賣却條件ハ最初ノ競賣ノ時ニ定メタルモノヲ適用スヘク(第六八條)再競賣ノ期日ハ代金支拂期日ヨリ少ナクトモ十四日ヲ經過シタル後ニ於テ執行裁判所之ヲ指定ス(第六八條)

競賣手續ハ競落代金ヲ得ルヲ以テ其目的ト爲スモノナレハ一時再競賣ノ手續ニ著手スルトモ他ニ競落代金ヲ得ルノ途アレハ敢テ煩雜ナル再競賣ヲ實行スルノ必要ナシ故ニ競落人カ再競賣期日ノ三日前マテニ買入代金及ヒ手續ノ費用ヲ支拂フニ於テハ再競賣手續ヲ取消スヘキモノトス(第六八條)

再競賣ヲ實施スルニ當リテハ義務不履行ノ制裁トシテ前ノ競落人ヲ競賣手續ニ加フルコトヲ許サス若シ再競賣ノ競落代價カ最初ノ競落代金ニ達セサルトキハ競落人ノ義務不履行ニ原因シテ此結果ヲ來シタルモノナルカ故ニ其差額竝ニ手續ノ費用ヲ競落人ニ負擔セシムヘク又再度ノ競落代金カ最初ノ競落代金ヨリ多額ナリトモ競落人ヨリ其額ノ請求ヲ爲スコトヲ得サルナリ(第六八八條第五項)

再競賣ノ性質ニ付テハ學說岐ル或ハ曰ク前ノ競落人カ再競賣ニ加ハルコトヲ得サルコト及ヒ競落人ハ競落許可決定ノ言渡ニ因リテ不動産ノ所有權ヲ取得スル法意ヨリスレハ再競賣ハ競落人ノ所有物ヲ賣却スルモノナリト然レトモ再競賣モ差押債權者ノ爲メニスル執行手續ナリ理論上ヨリスルモ競落人ニ對シテ執行手續ヲ爲スヘキ理由ナシ特ニ再競賣ノ代金カ最初ノ競落代金ヨリ高クシテ各債權者ニ配當シ殘額ヲ生シタルトキト雖モ最初ノ競落人ハ之ヲ請求スルコトヲ得スシテ其殘額カ債務者ニ歸スル法意ヨリスレハ再競賣ハ競落人ノ義務不履行ヲ原因トシテ前賣買ヲ解除

シ不動産所有權ハ債務者ニ復歸シ更ニ競賣手續ヲ實施スルモノト解スルヲ正當ト信ス隨テ再競賣ヲ命スルトキハ不動産ニ付テノ危險負擔ハ再ヒ債務者ニ歸スヘキモノトス而シテ前競落人カ後ノ競買代金トノ差額及ヒ手續費用ヲ辨償スルハ債務者ニ對スル義務不履行ニ基ク損害賠償ニ外ナラス

第十五 共有物持分ノ強制競賣

共有物タル不動産ニ對シ其共有者ノ一人ノ爲メニ強制競賣ヲ爲ス場合ニハ債權者ノ債權ノ爲メ債務者ノ持分ニ付テ強制競賣ノ申立アリタルコトヲ登記簿ニ記入シ他ノ共有者ニ對シテハ其強制競賣ノ申立アリタルコトヲ通知スヘキモノトス最低競賣價額ヲ定ムルニ付テハ共有物全體ヲ相當ノ鑑定人ニ評價セシメ此價額ヲ基本トシテ債務者ノ持分ニ對スル價額ヲ評定スヘキモノトス(第六八八條九條)
其他ノ手續ハ以上ニ說示シタル各場合ニ於ケル一般ノ手續ニ從フヘキモノナリ

第十六 賣却代金ノ配當

競落ヲ許ス決定確定スルトキハ執行裁判所ハ競落人ヨリ受クル賣却代金ノ支拂ト債權者ニ對スル賣却代金ノ配當トノ爲メニ職權ヲ以テ期日ヲ開クモノトス不動産ヲ競落人ニ賣却シタル其代金ヲ競落人ヨリ受取ル期日ハ即チ此賣却代金ヲ債權者ニ配當スヘキ期日ニシテ此期日ニハ利害關係人競落人及ヒ執行力アル正本ニ因ラスシテ配當ヲ要求スル債權者ヲ執行裁判所ニ呼出スヘキモノトス(第六九條三條)

各債權者ハ配當ヲ受クルノ準備トシテ競落期日迄ニ其債權ノ元本利息費用及ヒ其他附帶ノ債權ノ計算書ヲ裁判所ニ差出スヘシ若シ債權者之カ手續ヲ怠ルトキハ配當要求並ニ届書ノ旨趣其他ノ書類ニ因リ裁判所自ラ相當ノ計算ヲ爲ス(第六九條二條)若シ競落期日迄ニ配當ヲ要求スル者ナク其他不動産上ニ權利ヲ有スル者ナキトキハ不動産ノ賣却代金ハ總テ差押債權者ノ債權辨濟ニ供シ剩餘アレハ之ヲ債務者ニ交付スヘキモノニシテ別ニ配當ノ必要ヲ生セサレトモ不動産ノ賣却代金ヲ以テ配當要求ヲ爲シタル各債權者ノ債權ヲ悉

ク辨濟スルコト能ハサルトキ始メテ配當手續ノ必要生スルモノナリ(第六九條四條)代金支拂及ヒ配當ノ爲メ指定シタル期日ニ於テハ執行裁判所ハ先ツ配當セントスル賣却代金ノ幾何ナルヤヲ定ムヘシ而シテ其代金トハ左ノ數種ノ金額ヲ包含ス(第六九條四條)

- (一) 不動産ヲ賣却シタル其代金
- (二) 不動産カ果實其他金錢ニ見積ルコトヲ得ヘキ利益ヲ生スル場合ニ於テハ競落決定ノ言渡ヨリ代金支拂マテノ利息

競落人ハ第六百八十六條ノ規定ノ如ク競落決定ノ言渡ニ因リテ以後不動産ノ所有權ヲ取得スルモノナルカ故ニ此時ヨリ代金支拂マテノ利息ヲ競落人ニ於テ負擔スルモノト爲シタルナリ

以上ノ代金ハ競落期日ニ競落人ヨリ裁判所ニ納付スヘキモノニシテ若シ最高價競買額ノ保證金トシテ供託シタル金錢アレハ之ヲ代金中ニ算入スヘキモノトス(第六九條四條第二項第三項)

賣却代金ノ支拂ハ金錢ヲ以テ爲スヲ通例ト爲セトモ或ハ場合ニ因リテ債務

ノ更改若クハ相殺ヲ以テ支拂ニ代フルコトヲ得其場合左ノ如シ(第六九條)

(一) 競落人ハ賣却條件ニ因リ不動産上ノ負擔ヲ引受クルノ外代金支拂及ヒ配當實施ノ期日ニ於テ買入代金ノ額ニ滿ツルヲ限度トシ關係債權者ノ承諾ヲ得テ其買入代金ノ支拂ニ代ヘ債權者ニ對スル債務者ノ債務ヲ引受ケ債務ノ更改ニ因リテ其支拂義務ヲ消滅セシムルコトヲ得

(二) 競落人カ債權者中ノ一人ナルトキハ買入代金ニ相當スル自己ノ債權配當額ヲ以テ買入代金ノ支拂ヲ爲シタルモノトシ即チ相殺ニ因リテ代金支拂ノ債務ヲ消滅セシムルコトヲ得

以上ノ如ク代金支拂ノ方法ニ二種アレトモ若シ競落人ノ引受ケントスル債務者ノ債務ニ對シ又ハ競落人ノ有スル債權ニ對シテ適當ナル異議ヲ主張スル者アルトキハ之ニ相當スル現金ヲ支拂ヒ又ハ右異議ノ結果判明スルニ至ルマテ保證ヲ供セシム(第六九條)

競落人ヨリ賣却代金ノ支拂ヲ了ルトキハ各債權者ニ其金額ヲ配當セサルヘカラス其配當ヲ爲スニ當リテハ裁判所ハ先ツ出頭シタル利害關係人及ヒ執

行力アル正本ニ因ラスシテ配當ヲ要求スル債權者ヲ訊問シテ配當表ヲ確定スヘキモノトス(第六九條)若シ出頭シタル利害關係人及ヒ執行力アル正本ニ因ラスシテ配當要求ヲ爲シタル債權者全部カ或金額ニ一致スルトキハ直チニ之ニ基キテ配當表ヲ確定スヘシ(第六九條)裁判所ノ作製ニ係ル配當表ニ記載スヘキ事項左ノ如シ(第六九條)

- 一 賣却代金
- 二 各債權者ノ債權ノ元金利息費用 利息ハ競落期日迄ノモノナリ(第六九條)
- 三 配當ノ順位
- 四 配當ノ割合

配當表ニ對スル異議及ヒ配當表ノ實施ニ付テハ下ニ述フルカ如キ特別ノ手續ヲ除ク外ハ動産ニ對スル強制執行ニ關スル第六百三十條以下ノ規定ヲ準用スヘキモノトス(第六九條)

期日ニ出頭シタル債務者ハ執行力アル正本ニ因ル債權者ナルト又其正本ニ因ラサル債權者ナルトヲ問ハス各債權者ノ債權ニ對シ又ハ其債權ノ爲メ主

張スル順位ニ對シ異議ヲ申立ツル權利アリ(第六九八條第一項)然レトモ執行スルコトヲ得ヘキ債權者ノ債權ニ對スル異議ハ第五百四十五條第五百四十七條及ヒ第五百四十八條ニ規定セル請求ニ對スル異議ノ規定ニ從ヒ債務者ヨリ訴ヲ提起シテ之ヲ完結スヘキモノトス(第六九八條第三項)又出頭シタル各債權者ハ自己ノ利害ニ關シテハ自己以外ノ債權者ノ債權ニ對シ若クハ其債權ノ爲メニ主張スル順位ニ對シ債務者ト同ク異議ヲ申立ツル權利アリトス(第六九八條第二項)

第十七 強制競賣ニ付テノ登記

競賣申立カ競落ヲ許スコトナクシテ手續ヲ完結シタルトキハ第六百五十一條ニ從ヒ爲シタル強制競賣開始決定ノ登記抹消ヲ登記判事ニ囑託スヘキモノトス(第六九條)競落許可決定確定シ配當表ヲ實施シタル後裁判所ハ配當調書及ヒ競落決定ノ正本ヲ登記判事ニ送付シテ左ノ諸件ノ登記及ヒ抹消ヲ囑託スヘシ右ノ登記及ヒ抹消ニ付テノ費用ハ總テ競落人ノ負擔トス(第七〇條)

(一) 競落人ノ所有權ノ登記
競落人ノ引受ケサル不動産上負擔記入ノ抹消 不動産上負擔トハ物權

(二)

的負擔ニシテ競賣開始決定登記以前ニ登記セラレタルモノヲ謂フ開始決定登記以後ニ登記アリタルモノハ競落人ニ對抗スルヲ得サルモノナリト雖モ競落人ハ開始決定ノ登記當時ノ状態ニ於テ所有權ヲ取得スルモノナレハ競落人ヨリ登記ノ抹消ヲ求ムルヲ得ヘキモ第七百條ニ依リ當然抹消スヘキモノニ非ス

(三) 競賣開始決定ノ登記ノ抹消

第十八 數名ノ債權者ノ爲メニスル強制競賣

數多ノ債權者カ債務者ニ對シテ同時ニ不動産ノ競賣ヲ申立テタルトキ其競賣ノ手續ハ以上ニ說示シタル各場合ノ規定ヲ準用スヘキモノナリ故ニ茲ニ細說セス(第七〇條)

第十九 入札

不動産ノ換價方法ハ前ニ說明シタル競賣方法ニ依ルヘキモノナレトモ我邦ノ古來ヨリ慣用シタル入札拂ノ方法ヲ以テ不動産ヲ賣却スルノ却テ簡便ナルコトアリ是ヲ以テ或場合ニ利害關係人ノ合意アルカ若クハ執行裁判所適

當ト認ムルトキハ職權ヲ以テ入札拂ヲ命スルコトヲ得ヘシ
入札拂ノ方法ヲ取ラントセハ裁判所ノ職權ニ因ルト又利害關係人ノ申立ニ
因ルトニ拘ハラス競賣期日ノ公告前ニ裁判所ヨリ競賣ニ換ヘテ入札拂ノ方
法ニ依ル旨ヲ命スヘシ(第七條)其手續ハ競賣手續ト同一ナルモ差異アル點ヲ
述フレハ左ノ如シ

- (一) 入札期日ハ執達吏之ヲ開キ入札ニハ其書面ニ入札人ノ氏名住所不動産
ノ表示及ヒ入札價額ヲ記入シタル上入札期日ニ之ヲ執達吏ニ差出スヘシ
(第七條)
- (二) 入札ハ封緘シテ差出スヘク執達吏ハ入札人ノ面前ニ於テ之ヲ開封シ明
讀スヘシ(第七條)(第四項)
- (三) 價額ノ記載ヲ爲スニハ一定ノ金額ヲ表示スヘク他ノ價額ニ對シ比例ヲ
以テ表示スルコトヲ得ス蓋シ價額ノ基本ヲ他人ノ入札ニ取リ之ニ比例シ
タル價額ノ申立ヲ許ストキハ入札ノ效果ナキヲ以テナリ(第七條)(第四項)
- (四) 同價額ノ入札二人以上アルトキハ執達吏ハ其者ヲシテ追加入札ヲ爲サ

シメ最高價入札人ヲ定ムヘシ最高價入札人ノ定マリタル上ハ第六百六十
六條ノ手續ニ從フヘキモノトス(第七條)(第二項)

- (五) 最高價入札人タリトノ呼上ヲ受ケタル者ハ利害關係人ノ申立ニ因リ保
證ヲ立ツル義務アリ然ルニ入札人此義務ヲ履行セサルトキハ執達吏ハ次
位ノ入札人ヲ以テ最高價入札人ト定ム但最初呼上ヲ受ケタル者ハ其義務
ヲ怠リタルカ爲メ結局賣却代金ヲ減少セシメタル次第ナルヲ以テ自己ノ
入札高ト次位ノ入札高トノ差金ヲ負擔スルノ義務アルモノトス(第七條)(第五條)

第三項 強制管理

強制管理ハ不動産ヨリ生スル收益ヲ得ルヲ以テ其目的ト爲スカ故ニ強制競賣
ヲ行フコト能ハサル不動産ニ付テモ尙ホ強制管理ノ手續ヲ行フコトヲ得ヘシ
例ヘハ華族世襲財産タル不動産ノ收益ニ付テ執行スルカ如キ是ナリ然レトモ
收益ヲ得ルヲ以テ目的トスルモノナレハ現在收益ナキ不動産ニ付テハ此手續
ヲ許スヘキニ非ス而シテ其執行手續ハ強制競賣ノ手續ヲ準用スルモノトス

第一 強制管理開始ノ要件

強制管理開始ノ要件トシテ其申立書中ニ記載スヘキ事項竝ニ申立書ニ添付スヘキ證書ノ種類等ニ付テハ強制競賣ト同ク第六百四十二條第六百四十三條ニ從フヘキモノトス然レトモ不動産カ債權者ノ債權ニ付キ不動産上ノ義務ヲ負擔シタル場合例ヘハ該不動産カ差押債權者ノ債權ニ對シ抵當ト爲リ居リタルトキノ如キ場合ニ於テハ第六百四十三條第一號第二號ニ從ヒ提出スヘシ證書ニ付テハ唯債權者カ不動産ヲ占有スルコトヲ疏明シ得ヘキ證書ヲ添付スルヲ以テ足レリトス蓋シ此場合ニハ第六百四十二條第三號ノ債務名義ニ因リ債務者ノ所有タルコトヲ知ルニ足レハナリ(第六條第七〇)

第六百四十三條第三號第四號ノ中租稅其他ノ公課ヲ證スヘキ證書ハ強制管理ニハ必要ナシ如何トナレハ右ノ證明ハ畢竟競買人ニ對シ不動産ノ價額ヲ算定スルニ便宜ヲ得セシメンカ爲メナルニ強制管理ノ場合ニハ右ノ如キ必要ヲ見サレハナリ

第二 強制管理開始決定

強制管理開始決定ノ手續ハ強制競賣開始決定ニ同ク第六百四十四條第一項

ニ從ヒ債權者ノ爲メニ不動産ヲ差押フルコトヲ宣言シ尙ホ第三項ニ則リ裁判所ヨリ職權ヲ以テ開始決定ヲ債務者ニ送達スル時ヲ決定ノ效力發生ノ時期トス而シテ其決定中ニ記載スヘキ事項ニシテ競賣決定ト異ナル點ハ左ノ如シ

- (一) 債務者カ管理人ノ事務ニ干渉スルヲ禁スルコト
- (二) 債權者カ不動産ノ收益ニ付キ處分スルヲ禁スルコト
- (三) 不動産ノ收益ノ給付ヲ爲スヘキ第三者アルトキハ其第三者ニ其後ノ給付ヲ管理人ニ爲スヘキヲ命スルコト

右第三者ニ對スル命令ハ裁判所カ職權ヲ以テ送達スヘク其命令ヲ第三者ニ送達シタル時ヨリ效力ヲ生ス而シテ收益トハ既ニ收穫シタル果實ハ勿論將來收穫スヘキ果實ヲ謂ヒ若シ收納ニ付キ期限附ナルトキハ既ニ期限ノ到來シタル分ハ固ヨリ將來期限ノ到來スヘキ分ヲモ包含スルモノトス(第六條第七〇七)

強制管理ニ付キ登記ノ囑託竝ニ行政官廳ヘノ通知ニ關スル手續モ亦強制競

賣ニ關スル第六百五十一條乃至第六百五十四條ヲ準用スヘキモノトス(第六七
一條第
一項第)

差押ハ不動産ノ收益中ヨリ債權ノ辨濟ヲ受クル權利ヲ債權者ニ付與スルニ
過キサルカ故ニ債權者ハ不動産ヲ賣却シテ以テ之カ代金ヲ辨濟ニ充ツル權
利ヲ有セス而シテ管理ニ加ハリ配當要求ヲ爲シ得ヘキ者ハ執行力アル正本
ニ因ル債權者ノミニ限ル執行力アル正本ニ因ラサル配當要求ハ之ヲ許ササ
ルモノトス若シ執行力アル正本ニ因リ配當ヲ要求スヘキ者ニシテ裁判所々
在地ニ住居ヲモ事務所ヲモ有セサルトキハ假住所ヲ選定シテ裁判所ニ届出
ツヘキモノトス(第七〇
九條)

強制管理開始ノ決定ヲ爲シタル後ハ同一ノ不動産ニ付キ強制管理ノ申立ア
ルモ更ニ開始決定ヲ爲スヘキモノニ非ス然レトモ其申立ハ開始決定ノ執行
記録ニ添付シ置キ後日開始決定ノ取消ト爲リタルトキハ當然開始決定ヲ受
ケタル效力ヲ生ス且右申立ハ特ニ開始決定ヲ受ケサルモ之ヲ以テ配當要求
ヲ爲シタルモノト爲ス但假差押ノ命令アリタル不動産ニ付キ後日強制管理

ノ申立アルトキハ其申立ニ因リテ強制管理ノ開始決定ヲ與フヘキモノトス
(第七
八條)再度ノ強制管理ノ申立若クハ配當要求ノ申出アリタルトキハ執行裁
判所ハ其旨ヲ管理人債權者及ヒ債務者ニ通知スヘキモノトス(第七一
〇條)

強制管理ノ決定アリタル後第三者其不動産ニ付キ強制管理ヲ妨クル權利ヲ
主張スルトキハ異議ノ訴ニ依ルモノトス(第七一三條
第五四九條)

第三 強制管理ノ方法

強制管理ヲ爲スノ方法トシテハ執行裁判所ハ不動産ノ管理人ヲ選任シ不動
産ノ收益ヲ收得シ之ヲ債權者ニ取得セシムルニアリ而シテ管理人ハ執行裁
判所之ヲ選任スヘキモ債權者ハ適當ノ人ヲ推薦スルコトヲ得ヘク執行裁判
所ハ管理人ヲ指揮監督セサルヘカラス(第七一
條第一項)

(一) 管理人ハ左ノ權利ヲ有シ義務ヲ負フ
(イ) 不動産ノ管理及ヒ收益ヲ爲スカ爲メ自ラ之ヲ占有スルノ權利アリ不
動産ノ占有ヲ自己ニ移スニ當リ何人タリトモ之ニ抵抗シタルトキハ執
達吏ヲ立會ハシメ之カ援助ヲ受クルノ權利アリ(第七二
條第二項)

(ロ) 債務者ニ代リ第三者ノ給付スヘキ収益ヲ取立ツルノ權ヲ有ス(第七一
項三)

(ハ) 不動産ノ收益中ヨリ先ツ其不動産ノ負擔スヘキ租税其他ノ公課ヲ控
除シ次ニ管理ノ費用ヲ辨濟シテ其殘額ヲ債權者間ニ配當スルノ義務ヲ
負フ配當ハ債權者間ノ協議調ヘハ之ニ從フヘキモ若シ協議調ハサルト
キハ其旨ヲ執行裁判所ニ届出ツヘキモノトス(第七一
項四)但収益金ヲ以テ
債權全部ヲ辨濟シ得ルトキハ配當手續等ノ必要ヲ生セサルハ勿論ナリ
管理人ヨリ届書ヲ受ケタルトキハ執行裁判所ハ第六百九十一條第六百
九十六條乃至第六百九十八條ノ規定ヲ準用シテ配當表ヲ作成シ管理人
ヲシテ之ニ基キ債權者ニ支拂ヲ爲サシム(第七一
項四)

(ニ) 管理數年ニ涉ルトキハ毎年又管理一年以内ナレハ其業務施行ノ終了
後各債權者債務者及ヒ裁判所ニ管理ノ計算書ヲ差出ス義務アリ各債權
者及ヒ債務者ハ計算書ノ送達後計算ヲ不當トスルトキハ七日ノ期間内
ニ異議ノ申立ヲ執行裁判所ニ爲スコトヲ得ヘク執行裁判所ハ管理人ヲ

審訊シタル後裁判ヲ爲ス若シ異議ナケレハ管理人ノ計算ヲ是認シ且管
理人ノ卸任ヲ承諾シタルモノト看做ス而シテ異議ノ申立ナク又ハ申立
テタル異議カ完結シタルトキハ裁判所ハ管理人ヲ卸任セシムヘキナリ
(第七一
五條)

(二)

強制管理ニ依テ執行裁判所カ其事務ノ監督上執ルヘキ職務左ノ如シ
(イ) 管理人ヲ任命スルコト但債權者ノ推薦ニ基キテ任命スルコトアリ而
シテ此任命ハ管理人ヲシテ債務者ニ代リ第三者ノ給付スヘキ収益ヲ取
立ツル權利ヲ授與スルモノナリ(第七一
一)

(ロ) 不動産管理ノ方法宜シキヲ得スンハ其収益少ナシ故ニ裁判所ハ債權
者竝ニ債務者ヲ審訊シ尙ホ適當トスル場合ニハ鑑定人ヲ立會ハシメタ
ル後一定ノ管理方法ヲ定メ以テ管理人ヲ指揮シ且業務ノ適當ニ執行セ
ラルルヤヲ監視スヘキモノトス(第七一
項二)

(ハ) 管理人ニ與フヘキ報酬ヲ定ムルコト(第七一
項二)
(ニ) 管理人ニ保證ヲ立テシムルコト竝ニ二十圓以下ノ過料ヲ言渡シ又ハ

其職務ヲ免スルコトヲ得第七二項

(ホ) 管理カ終了シタルトキ債權者若クハ債務者ヨリ異議ノ申立ナキトキ又異議アリタリトモ之カ當否ノ裁判ヲ爲シタル後管理人ノ卸任ヲ命スルコト

第四 強制管理ノ終了

強制管理ハ不動産ノ收益ノミヲ取得スル方法ナルカ故ニ之カ取消ヲ爲ス迄ハ繼續スヘキモノナリ而シテ之カ取消ノ原因ト爲リ強制管理ヲ終了セシムル場合ハ左ノ如シ

- (一) 各債權者カ債權全部ノ辨濟ヲ受ケタルトキ
- (二) 管理實行ニ付キ特別ノ費用ヲ要スル場合ニ債權者其費用ヲ豫納セサルトキ
- (三) 強制管理ノ申立ヲ取下ケタルトキ
- (四) 強制管理ノ目的タル不動産ニ付キ競落許可決定アリタルトキ
- (五) 強制管理ノ目的タル不動産カ消滅シタルトキ

右ノ場合ニ於テハ執行裁判所ハ職權ヲ以テ決定ニ因リ強制管理ヲ取消スヘク取消決定ヲ定ストキハ登記ノ抹消ヲ登記判事ニ囑託スヘキモノトス(第六七條)

第三款 船舶ニ對スル強制執行

茲ニ所謂船舶トハ商行爲ヲ爲ス目的ヲ以テ航海ノ用ニ供スル商船其他ノ海船ヲ謂フ民法ノ規定ニ從ヘハ船舶ハ動産ナリト雖モ此法律ニ於テ船舶ハ動産ト同視セス船籍地船舶登記簿ノ規定ヲ設ケ且權利ノ移轉物權ノ設定ニハ常ニ登記法ノ支配ヲ受ケシメ船舶國籍證書并ニ登記證書ノ制ヲ定メタル等殆ント不動産ト同一ノ保護ノ下ニ置クヲ以テ之カ強制執行ニ付テモ亦先ニ説明シタル動産ニ對スル強制執行方法ニ依ルヘカラサル點アリ是ヲ以テ特別ノ執行方法ヲ定メタルモノトス

船舶ニハ種々アリ商船若クハ海船ニシテ端舟ナルコトアリ又櫓權ノミヲ以テ運轉スルモノアリ或ハ帆ヲ用フルモ主トシテ櫓權ヲ用ヒ運轉スルモノアリ此等ハ特ニ本款ノ特別方法ニ依ルヲ要セス普通動産ニ對スル強制執行ノ方法ニ

第五編 強制執行 第七章 強制執行ノ行爲 第一節 金錢債權ニ付テノ強制執行

準據スヘキモノトス而シテ本款ノ規定ハ商法海商編ニ規定セル船舶ニ對スル強制執行ニ適用スヘキモノニシテ其手續ハ性質ノ許ス限リ不動産ノ強制競賣ニ關スル規定ニ準據スヘク其他次ニ述フル法則ニ依ルヘキモノトス(第七一)

第一 管轄執行裁判所

船舶ノ強制執行ニ付テノ管轄執行裁判所ハ專屬管轄ニシテ船舶差押ノ當時碇泊シタル港ヲ管轄スル區裁判所ナリトス蓋シ船舶ハ常ニ河海ヲ航行シ不動産ノ如ク一定不動ノ場所ニ在ラサルヲ以テ不動産所在地ノ裁判所ヲ以テ不動産ニ對スル強制執行ノ管轄裁判所ト爲シタル如キ規定ヲ之ニ準用セントセハ船舶ノ現在セサル區裁判所ニ於テ競賣手續等ヲ爲ササルヘカラス隨テ此手續ヲ行フ爲メニハ遠隔ナル場所ヨリ船舶ヲ定繫所ニ回漕スルヲ要スルニ至リ手續ノ煩雜ト費用ノ生スル場合トアルヲ以テ寧ロ船舶ニ付テハ特別ノ規定ヲ設ケ其碇泊地ノ裁判所ヲ以テ之カ管轄裁判所ト爲スノ利且便ナルニ若カサルナリ(第七一)是ヲ以テ若シ船舶カ差押ノ當時差押ヲ爲シタル區裁判所ノ管轄地内ニ在ラザリシコトヲ後日發見スルトキハ其裁判所ハ適法

ナル管轄權ヲ有セサルニ因リ右裁判所ハ職權ヲ以テ差押ノ手續ヲ取消スヘキモノトス(第七二)

第二 船舶ニ對スル強制競賣ノ申立

船舶ニ對スル強制競賣ノ申立ハ債權者ヨリ書面ニ因テ之ヲ爲スヘク其書面ハ第六百四十二條ニ掲ケル要件ヲ具備スヘキハ勿論ナレトモ其第二號ニ規定セル不動産ノ表示ニ代フルニ差押フヘキ船舶ヲ表示スヘク即チ船名及碇泊ノ場所ヲ示スヘシ而シテ第六百四十三條ニ規定セル申立書ニ添付スヘキ證書ニ付テハ左ノ證書ヲ提出スヘキモノトス(第七二)

(一) 債務者カ所有者ナル場合ニ於テハ其所有者トシテ船舶ヲ占有スルコト又債務者カ船長ナルトキハ船長トシテ船舶ヲ指揮スルコトヲ疏明スルニ足ルヘキ證書 債務者カ船長ナル場合ハ商法ニ規定スル如ク船長カ船舶ヲ抵當トシ其他積荷ヲ質入賣却スル等船舶ノ所有者ヲ代表シテ債務ヲ負フコトアリ此場合ニ債權者ハ船長ヲ訴追シテ債務名義ヲ得以テ強制執行ヲ爲スコトアルヘシ右ノ疏明ハ唯裁判所ヲシテ所有者タルコト又ハ船舶

ヲ指揮スルコトノ事實ヲ信セシムレハ十分ナルニ因リ必スシモ官廳ノ證明書ニ限リタルモノニ非ス然レトモ官廳ノ證明書ヲ得ントセハ第六百四十三條第二項ニ從ヒ之ヲ要求スルコトヲ得ヘシ

(二) 船舶カ船舶登記簿ニ登記アル場合ニ於テハ其船舶ニ關スル有效ナル各登記事項ヲ包含シタル登記簿ノ抄本 抄本ヲ要スル目的ハ船舶ノ性質、船體ヲ明瞭ナラシメ且船舶上ニ權利ヲ有スル者アルヤ否ヤヲ調査シ以テ配當要求ニ關スル場合ノ材料ニ供スルニ在リ船舶ハ必スシモ常ニ登記簿ニ登録シアルモノニ非ス登録ナキ船舶ニ付テハ此抄本ヲ添付スルノ要ナシ若シ差押ヲ爲サントスル船舶ノ登記簿ヲ主管スル官廳カ遠隔ノ地ニ在ルトキハ債權者ハ執行裁判所ニ此抄本ノ求アランコトヲ申請スルコトヲ得

第三 差押ノ方法及ヒ效力

船舶ニ對スル差押ノ方法トシテ執行裁判所ハ強制競賣ノ開始決定ヲ爲スヘキハ固ヨリナリト雖モ此決定ヲ爲スト同時ニ船舶ノ監守又ハ保存行爲ヲ爲スノ必要アルトキハ執行裁判所ハ債權者ノ申立ニ因リ其處分ヲ命スルコト

ヲ得ヘシ即チ或ハ船舶ニ監視人ヲ付シ或ハ船舶破損ノ患アルトキハ修繕ヲ爲サシム此等處分ノ費用ハ固ヨリ船舶ノ競賣代金ヨリ控除スヘキモノナレトモ一時債權者ヨリ相當ノ金額ヲ豫納セシムヘク債權者ヨリ之ヲ豫納セザレハ裁判所ハ右ノ處分手續ヲ取消スコトヲ得ヘシ(第七二條第一項第三項) 差押ハ船舶ノ競賣開始決定ヲ債務者ニ送達シタル時ヨリ其效力ヲ生ス其效力ハ不動産ノ競賣開始決定ノ效力ト同一ナレトモ既ニ前項ノ如ク船舶ノ監守又ハ保存行爲ノ處分ヲ命スルトキハ開始決定ノ送達前ト雖モ其船舶ノ處分權利ヲ制限シタルコト明白ナルニ因リ此時ヨリ差押ノ效力ヲ生セシムルモノトス(第七二條第二項)而シテ既ニ競賣開始決定若クハ監守、保存處分ノ命令アリタルニ因リ船舶ニ對スル差押ノ效力生スルトキハ爾後ノ執行手續ヲ爲スニ付キ便利ヲ得ルノ目的ヲ以テ其船舶ヲ差押ノ港ニ碇泊セシメ執行完結マテハ其航行ヲ許ササルモノトス然レトモ商船等ニ在リテハ之カ運轉ヲ爲ササル爲メ得ヘキ利益ヲ失フヘキコトアルヘキヲ以テ總テノ利害關係人ノ申立ニ因リ裁判所ハ之カ航行ヲ認許スルコトヲ得ヘシ(第七二條第一項)差押カ效力ヲ生シ

タル後船舶所有者若クハ船長ニ變更アルモ執行手續ノ續行ヲ妨ケサルモノトス(第七二項)

第四 競賣期日ノ公告

執行裁判所カ競賣期日ノ公告ヲ爲スニ當リテハ第六百五十八條第一號ニ規定セル不動産ノ表示ヲ爲スニ代ヘ差押ヘタル船舶ノ表示并ニ其碇泊ノ場所ヲ掲クヘキモノトス(第七二條)船名噸數等ヲ表示スヘキモノナリ

船舶ノ差押ハ碇泊所ニ於テ之ヲ爲セトモ元來船舶ハ定繫場ノ土地ト關係ヲ有スルヲ以テ其船舶ノ差押及ヒ競賣ノ事實ハ定繫港ノ土地ニ公告スルノ必要アリ因テ船舶カ定繫港ノ區裁判所管轄外ニ於テ差押ヲ爲シタルトキハ執行裁判所ハ競賣期日ノ公告ヲ定繫港ノ區裁判所ニ送付シテ其裁判所ノ掲示板ニ揭示スヘキコトヲ囑託スヘキモノトス(第七二條)是レ第六百六十一條ノ規定ニ變更ヲ加ヘタルモノナリ

執行裁判所ハ競賣開始ノ決定ヲ爲スト同時ニ競賣ノ申立ヲ登記簿ニ記入スヘク其記入ハ之ヲ登記判事ニ囑託スヘキモノトス然レトモ外國船舶ノ差押

第五 利害關係人

ヲ爲シタルトキ及ヒ登記簿ニ記入ナキ船舶ヲ差押ヘタルトキハ之カ登記簿記入ヲ爲スコト能ハサルヲ以テ記入ノ囑託ヲ爲スヲ要セス(第七二條)

船舶ニ對スル強制執行ノ利害關係人ハ不動産ノ強制執行ニ關シ第六百四十八條ノ規定ヲ適用スヘキモノナレトモ其他左ニ掲クル者モ亦利害關係人トス

- (一) 船長カ債務者ナルトキハ其船舶ノ所有者モ利害關係人トス 船長ニ對シ爲シタル判決ニ基キ船舶債權者ノ爲メニ船舶ノ差押ヲ爲ストキハ所有者ノ代表者タル地位ニ在リテ債務ヲ負擔シタル理由ニ基キ船長ヲ被告ト爲シタルモノナレハ其差押ハ所有者ニ對シテモ效力アルモノトス故ニ此場合ニ於ケル所有者ハ船舶ニ對スル強制執行ノ利害關係人ナリトス(第七二條第一項)

- (二) 差押後新ニ船長ト爲リタル者 船長ハ所有者ヲ代表シテ債務ヲ負擔シ得ルモノナリ故ニ船長ノ更迭アルトキハ新船長ハ所有者ヲ代表スヘキ地

位ニ在リテ前船長ノ職務ヲ繼承スルモノナルニ因リ新船長モ亦此場合ニ於ケル利害關係人ナリトス而シテ新船長カ利害關係人ト爲ル以上ハ舊船長ノ責務ハ當然解除セラレルモノトス(第七二條第三項)

第六 船舶ノ股分ニ對スル強制執行

船舶ノ股分トハ二人以上ノ者一ノ船舶ヲ共有スル場合ニ於ケル持分ヲ謂フ
船舶ノ股分ニ對スル強制執行ハ前說示シタル第六百二十五條ノ財産權ニ對スル強制執行ト同一ノ規定ニ準據スヘク其管轄裁判所ニ關シテハ船舶自體ヲ差押フル場合ト其趣ヲ異ニシ二人以上共有ノ持分ヲ差押フルモノナレハ船舶所在地ノ區裁判所ヲ以テ之カ管轄裁判所ト爲スノ要ナシ故ニ船籍ヲ定ムヘキ定繫港ノ區裁判所ヲ以テ之カ管轄裁判所タラシム(第七二條第六條)
船舶ノ股分ニ對スル強制執行トシテ債權者ヨリ申立ツヘキ申請書又ハ口頭ノ申述ニハ債權者カ船舶ノ股分ニ付キ所有權ヲ有スルコトヲ證スヘキ船舶登記簿ノ抄本若クハ私署證書ニテモ裁判所カ信用スルニ足ル證書ヲ裁判所ニ差出スヘキモノトス(第七三條第七條)

船舶ノ所有權カ二人以上ノ股分所有者ニ屬スルトキハ船舶管理人ヲ設ケテ航行ニ關スル業務ヲ行ハシム故ニ差押命令ハ獨リ債權者ノミニ送達スヘキモノニ非スシテ管理人ニモ之ヲ送達スヘキモノトス此場合ニ於テハ唯之ヲ管理人ニ送達スルノミヲ以テ債權者ニ送達シタルト同一ノ效力ヲ生セシム(第七二條第八條)

股分權ハ讓渡シ得ヘキ性質ノモノナルカ故ニ其股分ヲ他ニ賣却シタル賣得金ハ之ヲ債權者間ニ配當セサルヘカラス而シテ其配當要求ヲ爲シ配當實施ヲ行フニ付テハ第六百二十六條以下ノ規定ヲ準用スヘキモノトス(第七二條第八條)

第二節 金錢ノ支拂ヲ目的トセサル債權ニ付テノ強制執行

金錢ノ支拂ヲ目的トセサル債權トハ物ノ引渡若クハ給付ヲ目的トシ又ハ債務者ノ行爲若クハ不行爲ヲ目的トスル權利ノ全體ヲ謂フモノニシテ其權利カ物權タルト債權タルトヲ問ハス又物ノ引渡若クハ給付トハ其物カ動産タルト不

第五編 強制執行 第七章 強制執行ノ行爲 第二節 金錢ノ支拂ヲ目的トセサル債權ニ付テノ強制執行 一二六五

動産タルトヲ區別セス有體物ノ給付ヲ總稱ス債務者ノ行爲若クハ不行爲トハ物ノ給付ヲ除外シタルモノヲ謂フ右ノ權利ノ強制執行ニ付キ法律ハ次ノ三種ノモノヲ規定セリ

第一 物ノ引渡ヲ履行セシムル強制執行

(一) 特定動産ノ引渡又ハ代替物ノ一定ノ數量ノ引渡ニ關スル強制執行

(二) 不動産ノ引渡又ハ人ノ住居スル船舶ノ引渡ニ關スル強制執行

(三) 第三者ノ手中ニ存スル物ノ引渡ニ關スル強制執行

第二 行爲又ハ不行爲ヲ履行セシムル強制執行

(一) 債務ノ性質カ強制執行ヲ許ササル場合

(二) 債務ノ性質カ強制執行ヲ許ス場合

第三 意思表示ヲ爲スヘキコトヲ言渡シタル判決ノ效力
以下各規定ニ就テ説明スヘシ

第一款 物ノ引渡ヲ履行セシムル強制執行

第一 特定動産ノ引渡又ハ代替物ノ一定ノ數量ノ引渡ニ關スル強制執行

(一) 特定動産トハ執行機關カ差押フヘキ動産ノ種類數量ヲ確知シ得ヘキモノヲ謂フ其單數ナル場合ト複數ナル場合トアリ債務者カ所持スル特定ノ

動産ヲ債權者ニ引渡スヘキ場合ニハ執達吏ハ之ヲ債務者ヨリ取上ケテ債權者ニ引渡シ以テ其強制執行ヲ爲スモノトス(第七三條)而シテ債權者ノ請求權ノ物權ナルヤ債權ナルヤハ問フ所ニ非ス執達吏カ物ヲ取上ケタルトキハ債權者ノ代理人トシテ取上ケタルニ非サルモ執達吏カ金錢ヲ取立テタル場合ト同シク其物ヲ債權者ニ交付スルヲ待タス唯債務者ヨリ取上ケタルノミニテ債務者ハ債務ヲ免カレ物ノ危険ハ總テ債權者ノ負擔ニ歸ス例ヘハ執達吏カ債務者ヨリ或特定物ヲ取上ケタル後其物カ天災等ニテ滅失シタル場合ニハ債權者ニ於テ其損失ヲ負ハサルヘカラス然レトモ債權者カ取上ケタル物ノ追奪ヲ受ケタル場合例ヘハ取上ケラレサル以前ニ其物ヲ債務者カ第三者ニ讓渡シ第三者ヨリ債權者ニ對シ其物ノ返還ヲ求メ其結果トシテ債權者カ其物ヲ第三者ニ引渡シタル場合ニ於テハ債權者ハ債務者ニ對シ損害賠償ヲ求ムルコトヲ得ヘシ

第五編 強制執行 第七章 強制執行ノ行爲 第一節 金錢ノ支拂ヲ目的トセサル債權ニ付テノ強制執行

債務名義カ債權者ノ選擇ニ因リ二箇ノ特定動産中其一ヲ引渡スヘキ内容ヲ有スルトキハ執達吏ニ於テ二箇ノ中何レノ動産ヲ取上ケヘキヤハ債權者ノ定ムル所ニ從ハサルヘカラサルコトハ論ナシト雖モ反對ノ場合即チ債務者ノ選擇ニ因リ二箇ノ特定動産中其一ヲ引渡スヘキ債務名義ナル場合ニハ債務者カ其履行ヲ遲滞シタル爲メノミニ因リ選擇權カ債權者ニ移轉スルコトナシ此場合ニ於テハ債權者カ民法ノ規定ニ從ヒ選擇權ヲ行使シ其物ヲ特定スヘキモノトス(民第四〇六條乃)

(二) 代替物トハ數量尺度ヲ以テ定ムル物ヲ謂フ代替物ノ一定ノ數量ヲ引渡スヘキ請求權ニ付テハ執達吏ハ之ヲ債務者ヨリ取上ケテ債權者ニ引渡スヘキモノナリ債務者カ其種類ノ物ヲ所持セサルトキハ執行ヲ爲スコトヲ得ス此場合ニ於テハ債權者ハ賠償ノ請求ヲ爲スノ外方法ナシ代替物ニ關シテハ執達吏ハ請求權ノ趣旨ニ適合シタルモノヲ取上ケルコトニ注意セサルヘカラス若シ自ラ其當否ヲ判斷スルコト能ハサルトキハ執達吏ハ債權者若クハ鑑定人ヲ執行ニ立會ハシムルコトヲ得而シテ取上ケタル物カ

請求權ノ趣旨ニ適合シタルモノナルヤ否ヤノ爭アルトキハ各當事者ハ第五百四十四條ニ因リ執行裁判所ノ裁判ヲ求ムルコトヲ得ヘシ而シテ執達吏カ代替物ヲ取上ケタルトキハ債務辨濟ノ效ヲ生シ爾後ノ危險ハ債權者ニ歸スルコトハ前説明ト同一ナリ

第二 不動産ノ引渡又ハ人ノ住居スル船舶ノ引渡ニ關スル強制執行

特定動産ニ對スル執行ニ付テモ債務者自ラ其動産ヲ占有スル場合ニ限り適用セラルルカ如ク不動産及ヒ人ノ住居スル船舶ニ對スル執行モ亦債務者自ラ其不動産若クハ船舶ヲ占有スル場合ニ限り適用セラルルモノトス
不動産又ハ人ノ住居スル船舶ノ引渡又ハ明渡ハ必スシモ所有權ノ移轉ノ場合ニ限り生スルモノニ非ス此等ノ物ノ保管所持占有ノ移轉ノ場合ニ於テモ生スルモノトス

債務者カ不動産又ハ人ノ住居スル船舶ヲ引渡シ若クハ明渡スヘキトキハ執達吏ハ債務者ノ占有ヲ解キ債權者ニ其占有ヲ得セシムヘキモノトス動産ノ場合ニ於テハ執達吏カ債權者ニ代リ其占有ヲ爲スト雖モ不動産ハ執達吏自

ラ占有ヲ爲サスシテ債權者自身ニ其占有ヲ爲サシムルモノトス(第七三一項)其結果トシテ本件ノ強制執行ハ債權者又ハ其代理人カ受取ノ爲メ出頭セサルトキハ行フコト能ハサルモノトセリ(第七三一項)強制執行ノ目的物ニ非サル動産ハ執達吏ニ於テ之ヲ取除キテ債權者ニ引渡ササルヘカラス例ヘハ家屋内ニ存スル物件ノ如キハ之ヲ取除キ債權者ニ引渡スヘク若シ債權者不在ノ場合ニハ其代理人又ハ債權者ノ成長シタル家族若クハ雇人ニ之ヲ引渡スヘク(第七三一項)若シ債權者其他ノ人々總テ不在ノ場合ニハ執達吏ハ右ノ動産ヲ自ラ保管シ置キ而シテ保管ノ費用ハ後日債權者ニ於テ之ヲ支拂ハサルヘカラス(第七三一項)若シ債權者カ執達吏ヨリ動産ヲ受取ルコトヲ拒ミ若クハ遷延シテ受取ラサルトキハ執達吏ハ執行裁判所ノ許可ヲ得テ差押物ノ競賣ニ關スル規定(第五七三條乃至第五八五條)ニ從ヒテ之ヲ賣却シ賣却ニ關スル費用ヲ控除シ其殘餘金ハ供託スヘキモノトス(第七三一項)

第三 第三者ノ手中ニ存スル物ノ引渡ニ關スル強制執行
動産ナルト不動産ナルトヲ問ハス強制執行ノ目的物カ第三者ノ手中ニ存ス

ルトキハ債務者ヨリ第三者ニ對シ爲スヘキ引渡ノ請求權ヲ債權者ノ申立ニ因リ金錢債權ノ差押ニ關スル規定ニ從ヒテ之ヲ債權者ニ轉付スヘキモノトス(第七三一項)而シテ此手續ヲ適用スヘキ場合ハ特定ノ動産若クハ不動産ニ對スル場合ニ限り代替物ニ對スル場合ニハ其適用ナキモノトス如何トナレハ代替物引渡ノ強制執行ハ代替物ノ性質上債務者ノ所持スル場合ニ限ラレハナリ又第三者ノ手中ニ存スルトハ第三者ノ事實上所持スルコトヲ謂フモノニシテ占有權アルコトヲ必要トセサルナリ

轉付ノ手續ハ第五百九十四條以下ノ規定ニ從フ然レトモ此場合ニ於ケル轉付ハ引渡請求權ノ轉付ニ過キスシテ支拂ニ換ヘ轉付スルノ命令ヲ發スルコトヲ得ス(第六一條)如何トナレハ此場合ニハ第六百條ニ所謂券面額ナルモノ在ラサルヲ以テナリ而シテ轉付トハ民法上代位ノ手續ヲ要セスシテ債權者ノ權利ヲ債權者ニ移シ之ヲシテ自ラ債權ノ取立ヲ爲サシムルモノナリ故ニ右轉付ニ依リテ債權者ハ第三債務者ニ對シテ債權者ト爲リ債務者ハ債務ヲ免カレ第三債務者ハ轉付ヲ受ケタル債權者ニ物ヲ引渡スヘキナリ若シ第三債

第五編 強制執行 第七章 強制執行ノ行爲 第二節 金錢ノ支拂ヲ目的トセサル債權ニ付テノ強制執行 一二七一

務者カ任意ニ引渡ヲ爲ササルトキハ債權者ハ直チニ其命令ニ因リ強制執行ヲ爲スヲ得ス第三債務者ニ對シ訴ヲ起シ其判決ニ基キテ執行ヲ爲スヘキナリ(第七三條)

第二款 行爲又ハ不行爲ヲ履行セシムル強制執行

近世ノ立法例ニ於テハ概ネ行爲ノ實行ニ關スル強制執行ヲ認ムルモノ多ク我民法及ヒ民事訴訟法モ獨逸法ト同ク之ヲ認メ如何ナル債務ト雖モ其強制履行ヲ許スモノトセリ唯債務ノ性質カ強制履行ヲ許ササル場合ニ限リ他ノ方法ヲ設ク(民第四一四條)

行爲ニハ積極的行爲ト消極的行爲トノ別アリ我民法ハ積極的行爲ノ内容ヲ有スル債務ヲ作爲ヲ目的トスル債務ト名ケ消極的ノモノヲ不作爲ヲ目的トスル債務ト名ケタリ又行爲ヲ分テ代替シ得ヘキモノト代替スヘカラサルモノトニ區別ス代替シ得ヘキモノトハ債務者カ爲スヘキ行爲ヲ爲ササル場合ニ第三者カ代リテ之ヲ爲シ得ヘキモノヲ謂ヒ代替スヘカラサルモノトハ債務者カ其意

思ノミニ因リ爲シ得ヘキ行爲ニシテ第三者カ代リテ之ヲ爲シ得ヘカラサル行爲ヲ謂フ代替シ得ヘキ行爲ト代替スヘカラサル行爲ノ執行ニ付テハ初メ第七百三十三條第七百三十四條ニ明文ヲ掲ケテ規定シアリシモ民法施行法ニ於テ之ヲ改メ債務ノ性質カ強制履行ヲ許ス場合ト債務ノ性質カ強制履行ヲ許ササル場合トニ區別ス法文ニ所謂強制履行ヲ許ササル場合トハ代替行爲ノ執行ヲ謂ヒ強制履行ヲ許ス場合トハ代替行爲ノ執行ヲ謂フ斯ル執行行爲ニ付テノ機關ハ第一審ノ受訴裁判所トス受訴裁判所ヲ執行機關ト爲シタルハ執行行爲ノ適否ヲ調査シ且執行ニ關シテ適當ナル方法ヲ命シ若クハ損害賠償ノ額ヲ定ムルニハ本案ニ付キ審理ヲ爲シ且訴訟記録ノ存スル裁判所ヲシテ審査セシムルヲ適當ト認メタルニ基ク執行判決カ債務名義ナルトキハ執行判決ヲ求ムル訴ノ繫屬シタル第一審ノ受訴裁判所和解調書カ債務名義ナルトキハ和解ノ成立シタル區裁判所(第三八條)若クハ和解ノ基ク訴ノ繫屬シタル第一審ノ受訴裁判所ヲ管轄執行裁判所トス

第一 債務者ノ代替行爲ヲ目的トスル債權ノ執行

第五編 強制執行 第七章 強制執行ノ行爲 第二節 金錢ノ支拂ヲ目的トセサル債權ニ付テノ強制執行

債務名義ノ内容ニ從ヒ債務カ作爲ヲ目的トスルモノナルトキ即チ債務者ノ爲スヘキ行爲ニシテ第三者カ債務者ニ代テ之ヲ爲シ得ヘキモノナルトキハ管轄裁判所ハ債權者ノ申立ニ因リ民法第四百十四條第二項ノ規定ニ從ヒ債務者ノ費用ヲ以テ第三者ニ之ヲ爲サシムヘキ裁判ヲ爲スヘク又債務名義ノ内容カ債務者ニ不作爲ノ義務履行ヲ命シタルモノナルトキハ管轄裁判所ハ債權者ノ申立ニ因リ民法第四百十四條第三項ノ規定ニ從ヒ債務者ノ費用ヲ以テ其爲シタルモノヲ除却セシメ且將來ノ爲メ適當ナル處分ヲ命スル裁判ヲ爲スヘキモノトス(第七三條)如何ナル作爲義務カ第三者代テ爲シ得ヘキヤハ義務ノ性質ニ因テ定マル即チ債務者カ履行シタルト同一效果ヲ債權者ニ享有セシムヘキ義務ハ第三者代テ爲シ得ヘキ作爲義務ナリトス

受訴裁判所ハ右ノ裁判ヲ爲スニ際シ債權者ノ申立アルトキハ債務者ニ對シ其行爲ヲ爲スニ因リ生スヘキ費用ヲ豫メ債務者ニ支拂ヲ爲サシムルノ宣言ヲ爲スコトヲ得ヘク債權者カ該宣言ヲ求ムル申立ハ前ノ執行處分ヲ求ムル申立ト同時若クハ爾後ニ爲スコトヲ得ヘシ裁判所ハ其意見ニ因リ適當ナル

金額ヲ定メテ債務者ニ支拂ヲ命スヘキモノトス其裁判ハ抗告ヲ以テノミ不服ヲ申立ツルコトヲ得ル裁判トシテ債務名義ナレハ債務者其支拂ヲ拒ムトキハ之ヲ執行スルコトヲ得ヘシ

以上述ヘタル受訴裁判所ノ裁判ハ總テ決定ノ形式ヲ以テ之ヲ爲シ裁判所ハ其決定ヲ爲スニ際シ口頭辯論ヲ經若クハ債務者ヲ審訊スヘキモノトス(第七三條)此決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得ルモ執行停止ノ效力ヲ有セス(第五八條)

債權者カ債務者ノ費用ヲ以テ第三者ニ行爲ヲ爲サシムルノ決定ヲ得タルトキハ第三者ヲ選擇スル權利ハ債權者ニ屬ス債權者ハ債務者ノ代理人トシテ第三者ヲシテ行爲ヲ爲サシムルモノニ非ス債務者ト第三者トノ間ニ何等法律上ノ關係ヲ生スルコトナシ債權者ハ受訴裁判所ノ決定ニ基キ第三者ヲ選定シ或行爲ヲ爲サシメ又或物ヲ除却セシメ及ヒ將來ノ爲メ適當ナル處分ヲ爲スコトヲ得ヘク若シ債務者抵抗スルトキハ債權者ハ執達吏ヲ立合ハシムルコトヲ得ヘキモノトス

右ノ執行行為ニ要スル費用ハ前述ノ如ク豫メ債務者ニ支拂ヲ爲サシムルヲ得ト雖モ若シ豫メ支拂ヒタルモノヨリ多額ノ費用ヲ生シタルトキハ其不足額又債務者ニ豫メ支拂ヲ爲サシメサリシトキハ其費用ヲ債權者ハ債務者ニ對シテ請求スルコトヲ得ヘシ(第七三條第二項)

第二 債務者ノ不代替行為ヲ目的トスル債權ノ執行

債務名義ノ内容ニ從ヒ債務ノ性質カ強制履行ヲ許スヘキ場合即チ債務者ノ不代替行為ヲ目的トスルモノトハ債務者ノ爲スヘキ行為ニシテ債務者ノ意思ノミニ因リ爲シ得ヘク第三者カ代テ爲シ得ヘカラサルモノヲ謂フ斯ル債務ヲ債務者カ任意ニ履行セサルトキハ債權者ノ申立ニ因リ管轄裁判所ハ債務者ニ一定ノ期間ヲ定メテ履行スヘキコトヲ命シ併セテ若シ期間内ニ履行セサルトキハ遲延ノ期間ニ應シ裁判所カ適當ト認ムル一定ノ賠償ヲ爲スヘキコトヲ命スル決定ヲ爲スヘク又ハ斯ル履行ヲ命スル決定ヲ爲サシテ直チニ損害賠償ヲ命スル決定ヲ爲スコトヲ得ヘシ其何レノ決定ヲ爲スヤハ債權者ノ申立ニ基クモノトス蓋シ債務者ノ意思ノミニ因リ爲シ得ヘキ行為ニ

シテ債務者カ之カ履行ヲ爲ササルトキハ債權者ノ損害ヲ賠償セシムル外救済ノ方法ナキヲ以テ此執行方法ヲ設ケタルモノトス(第七三條第四條)然レトモ債務者ノ意思ノミニ因リ爲シ得ヘキ行為ノ中ニハ債務者ノ意思表示ヲ爲スヘキ義務ヲ包含セス意思表示ニ付テハ第七百三十六條ヲ適用スヘキモノナレハナリ
右裁判ヲ爲ス方式ハ前第一ニ述ヘタル處ト同シ而シテ賠償ヲ命シタル決定ハ抗告ヲ以テノミニ不服ヲ申立ツルコトヲ得ル裁判トシテ債務名義タルコトヲ得ルモノトス

第三款 意思表示ヲ爲スヘキコトヲ言渡シタル判決ノ效力

債務者カ權利關係ノ成立ヲ認諾スヘキコト又ハ其他ノ意思ノ陳述ヲ爲スヘキコトノ判決ヲ受ケタルトキハ其判決ノ確定ヲ以テ認諾又ハ意思ノ陳述ヲ爲シタルモノト看做シ別ニ強制執行ノ手續ヲ爲スヲ要セス(第七三條第六條)例ヘハ買賣契約貸借契約ノ成立ヲ認ムヘキ場合ノ如キハ認諾ニ該當シ登記又ハ登記ノ抹消

第五編 強制執行 第七章 強制執行ノ行為 第二節 金錢ノ支拂ヲ目的トセサル債權ニ付テノ強制執行

ニ同意ヲ爲スヘキ旨ノ言渡ノ如キハ意思ノ陳述ニ該當ス意思ノ陳述ハ獨リ原告ニ對スル意思表示ノミナラス第三者ニ對スル意思表示ニ付テモ適用アルモノトス即チ第三者ニ對シテ被告カ意思表示ヲ爲スヘキ旨ノ判決確定スルトキハ當事者間ノ關係ニ於テハ被告カ第三者ニ意思表示ヲ爲シタルト同一ノ效力ヲ生スルモノトス而シテ純然タル意思ノ陳述ナラサル行爲ノ言渡ニハ第七百三十六條ハ適用ナシ例ヘハ手形又ハ無記名證券ノ如ク權利ヲ行フニ必要ナル證書作成ノ義務ヲ言渡シタル場合ニハ之ヲ適用スルコト能ハス斯ル行爲ニ付テノ執行ハ第七百三十四條ヲ適用スヘキモノトス

第七百三十六條ニハ陳述ヲ爲シタルモノト看做スル規定セルヲ以テ判決ハ意思ノ陳述ニ代用セラレ判決ヲシテ陳述ニ等シキ效力ヲ有セシムルモノナリ右ノ效力ハ判決確定ノ時之ヲ生スレトモ外國裁判所ノ判決及ヒ仲裁判斷ニ付テハ執行判決ノ確定ニ因リ始メテ其效力ヲ生スルモノトス(第五〇四條第一項)反對ノ給付アリタル後認諾又ハ意思ノ陳述ヲ爲スヘキ場合ニ於テハ第五百十八條及ヒ第五百二十條ノ規定ニ從ヒ執行力アル正本ヲ付與シタルトキ其效力

ヲ生スルモノトス(第七三六條後段)反對給付ハ契約上債權者ノ先ニ爲スヘキモノタルト同時ニ爲スヘキモノタルト問ハス債權者ハ證明書ヲ以テ其反對給付ヲ履行シタルコトヲ證明シ裁判長ノ許可ヲ得然ル後執行力アル正本ヲ付與セラレタルトキ始メテ判決ニ命シタル意思表示ヲ爲シタルモノト看做ス若シ執行文ノ付與ニ付キ債務者ヨリ異議ヲ申立テタルトキハ其裁判ノ確定ヲ待タサルヘカラス(第五二條第一項)又意思表示ヲ命シタル判決カ確定セサル以前ニ於テ債權者カ死亡シ若クハ隱居シタルカ爲メ其承繼人ニ對シテ意思表示ヲ爲スヘキ場合ニ在リテハ債權者ノ承繼人ニ於テ適法ノ執行文ヲ受ケタル後ニ非サレハ認諾又ハ意思ノ陳述ヲ爲シタル效力ヲ生セサルモノトス(第五九條)

第七百三十六條ノ規定ハ判決ニ於テ法律關係ノ成立ヲ認諾スヘキコト又ハ意思ノ陳述ヲ命シタル場合ニ限リ適用アルモノニシテ判決以外ノ債務名義ニハ之ヲ適用スルコトヲ得ス又假執行宣言ニ因リ第七百三十六條ノ效力ヲ生セシムルヲ得サルモノトス如何トナレハ此效力ハ判決確定ト同時ニ生スヘキモノナレハナリ故ニ斯ル判決ヲ求ムル訴ニ於テ債權者カ假執行宣言ヲ求ムル申立

第五編 強制執行 第七章 強制執行ノ行爲 第二節 金錢ノ支拂ヲ目的トセサル債權ニ付テノ強制執行

ヲ爲ストキハ裁判所ハ之ヲ不適法トシテ却下セサルヘカラス
 第七百三十六條ノ規定ハ之ヲ強制執行ニ關スルモノト爲スヘキヤ否ヤハ疑アリ
 リ強制執行ニハ執行力アル正本ト執行機關ノ行動トヲ要件トス然ルニ判決ノ
 確定ヲ以テ債權者ニ對シ債務名義ノ内容タル權利ノ實行ヲ爲シタルト同一ノ
 效力ヲ生セシムルモノナレハ毫モ執行機關ノ行動ナルモノナキノミナラス執
 行力アル正本ナクシテ其效力ヲ生セシムルヨリスレハ之ヲ強制執行ノ規定ト
 爲スハ誤レリト信ス或ハ反對給付ヲ條件トスルトキハ執行力アル正本ノ付與
 アリタル後意思表示ノ效力ヲ生スヘキヲ以テ執行力アル正本ノ付與ハ執行行
 爲ナリトノ疑アラム然レトモ執行力アル正本ヲ付與シタルトキ效力ヲ生スト
 セルハ意思表示ヲ爲シタル效力ヲ生スヘキ時期ヲ定メタルモノナリ且執行力
 アル正本ノ付與ハ執行機關ノ行爲ニ非サルノミナラス強制執行ノ行爲ハ執行
 力アル正本ニ基キテ爲スコトヲ條件トスルモノナレハ第七百三十六條ノ規定
 ハ強制執行ニ屬セサルモノト解スヘキナリ

第八章 強制執行ノ保全

強制執行ハ確定判決若クハ假執行宣言ヲ付シタル判決其他第五百五十九條ニ
 規定スル債務名義ニ基キ實行スルモノトス然レトモ債權者カ債務名義ヲ取得
 スルニハ多數ノ日數ヲ要スル場合アルヲ以テ其時間ニ於テ債務者カ財産ヲ喪
 失スルカ若クハ訴訟物ノ變更ヲ來ス等ノ原因ヨリ債權者ノ債務名義ニ基ク執
 行ヲ困難ナラシメ若クハ不能ニ歸セシムルノ虞アリ是ヲ以テ法律ハ強制執行
 ノ保全ヲ目的トシ假差押若クハ假處分ノ手續ヲ設ク(第七三七條以下)假差押ハ金錢ノ
 債權又ハ金錢債權ニ代ユルコトヲ得ヘキ請求ニ付テ其強制執行ヲ鞏固ナラシ
 ムル方法ニシテ即チ價額ノ保全ナリ假處分ハ金錢債權以外ノ債權ノ強制執行
 ヲ鞏固ナラシムル方法ニシテ即チ特定物ノ給付ヲ保全シ又ハ係争法律關係ニ
 付キ假ノ地位ヲ定ムル爲メニ適用アリトス而シテ假差押及ヒ假處分ハ共ニ強
 制執行ノ保全ヲ目的トスルモノナレハ債權者カ已ニ執行シ得ヘキ債務名義ヲ
 有シ直チニ強制執行ヲ爲シ得ヘキ場合又ハ執行ニ着手シタル後ニ於テハ適用

ナラ本訴訟ノ完結ヲ俟ツ能ハサルトキニノミ適用アリトス
假差押及ヒ假處分ノ性質ハ右ノ如クナリト雖モ其手續ハ訴訟手續ト執行手續トノ二ニ區別スルヲ得ヘシ假差押命令又ハ假處分命令ヲ發スル手續ハ判決手續ト同ク即チ裁判手續ニシテ通常訴訟手續ノ規定ヲ準用セラレ特別ノ規定アル場合ニ限り差異アリトス其命令ヲ執行スルハ執行手續ニシテ特殊ノ場合ヲ除ク外強制執行手續カ總テ準用セラレルモノトス

第一節 假差押命令

假差押トハ金錢債權又ハ金錢債權ニ代ユルコトヲ得ヘキ請求ニ付テ債務者ノ所有ニ屬スル動産債權不動産若クハ船舶ニ付テ債務者ノ處分權ヲ制限スル手續ニシテ債權者ノ後日ノ執行ヲ保全スルヲ目的トス即チ訴訟ニ係ル請求ニ付キ執行保全ノ爲メ債務者ノ財産ノ消滅若クハ隱蔽ヲ豫防セルモノタリ故ニ判決ノ確定前若クハ判決ヲ爲ス前又ハ訴ノ提起前ニ於テ債權者ハ此手續ヲ要求スルコトヲ得ヘシ第七百三十七條ニハ動産又ハ不動産トアルモ動産ノ意義ハ

強制執行法上ニ於ケルト同一ニ解釋スヘク船舶ニ對シ假差押ヲ爲シ得ルコトハ第七百五十三條ニ因リ明カナリトス

第一 假差押命令ノ條件

(第七三三七八條)

(一) 金錢債權若クハ金錢債權ニ換ユルコトヲ得ヘキ請求ニ基クコトヲ要ス如何トナレハ假差押ハ金錢債權ノ執行保全ヲ目的トスルモノナレハナリ金錢債權ニ換フルコトヲ得ヘキ請求トハ債務ノ本旨ニ從テ履行ヲ爲ササルニ因リテ金錢的損害賠償ニ換ユルコトヲ得ル請求權ヲ謂フ故ニ現ニ金錢債權ニ變更シタルコトヲ必要トセス

(二) 假差押ノ理由アルコトヲ要ス 假差押ノ理由アルトハ判決ノ言渡ヲ埃ツトキハ判決ノ執行ヲ爲ス能ハス又ハ判決ノ執行ヲ爲スニ際シ困難ヲ生スルノ虞アルトキ若クハ外國ニ於テ判決ノ執行ヲ爲スニ至ルヘキ事情アルコト等ヲ謂フ即チ現時ニ於ケル債務者ノ財産ノ情況ニ於テハ判決ノ執行ヲ爲シ得ヘキニモ拘ハラス若シ假差押ヲ爲ササルトキハ債務者ノ財産ノ減少等ノ事由ニ因リ執行不能若クハ執行ヲ困難ナラシムル等ノ情態存

スルコトヲ要ス然レトモ假差押ハ債務者ノ財産ニ付キ強制執行ヲ容易ナ
ラシムルニ非サルコトヲ注意スヘシ換言スレハ保全ノ目的ハ債務者ノ財
産ノ現状ヲ維持スルニアリテ現在執行シ得ヘカラサルモノヲ執行シ得ヘ
カラシムルノ義ニ非サルナリ此等假差押ノ理由ノ存否ハ裁判所ノ判斷ニ
因ルモノトス

(三) 本案ノ訴ノ判決確定前若クハ假執行ノ宣言アル判決ノ言渡前ナルコト
ヲ要ス如何トナレハ斯ル判決アルトキハ其判決ニ基キ債権者ハ強制執行
ヲ爲スヲ得ヘキヲ以テ執行保全ノ必要ヲ生セサレハナリ
右條件ノ下ニ債権者ハ假差押命令ノ申請ヲ爲スヲ得ヘク而シテ假差押命令
ハ本案ノ訴ノ提起前ト雖モ假差押ノ必要アルトキハ申請スルコトヲ得ト雖
モ(第七三項)假差押ハ判決ノ執行保全ヲ目的トスルモノナレハ訴ノ存在ヲ前
提條件トスルヲ以テ本案ノ繫屬前假差押命令アリタルトキハ債権者ハ一定
ノ時期ニ本案ノ訴ヲ提起セサレハ假差押命令ハ取消サルコトアルヘキナ
リ(第七四條)故ニ第七百三十七條第二項ハ期限ノ到達セサル請求權ニ付キ給付

ノ訴ヲ許サルヘキ場合ニノミ適用アルモノトス

第二 申請手續

- (一) 管轄裁判所 假差押命令ハ假差押ヲ爲スヘキ財産ノ所在地ヲ管轄スル
區裁判所又ハ本案ノ管轄裁判所ノ管轄ニ屬ス茲ニ本案ノ管轄裁判所トハ
本案訴訟ノ繫屬シタル第一審裁判所又ハ本案カ第二審ニ繫屬スルトキニ限
リ第二審裁判所トス本案カ上告審ニ繫屬スルトキハ上告裁判所ハ事實ノ
審理ヲ爲ササルヲ以テ第一審裁判所ノ管轄トセル所以ナリ又本案繫屬前
ニ在リテハ本案ヲ管轄スヘキ裁判所トス(第七三九條)
- (二) 假差押ノ申請ハ書面又ハ口頭ヲ以テ管轄裁判所ニ爲スヘキモノトス其
申請ニハ請求ノ表示及ヒ其請求カ一定ノ金額ニ非サルトキハ其價額ヲ表
示シ又假差押ノ理由タル事實ヲ表示スヘク且請求及ヒ假差押ノ理由ハ之
ヲ説明セサル可カラス(第七四條)

第三 審理手續

假差押ノ申請ニ付テハ裁判所ハ其管轄權申請ノ方式及ヒ説明方法ノ如何ヲ

調査シ然ル後申請ノ當否ヲ調査スヘキナリ裁判ハ書面審理ニ因リ若クハ口頭辯論ヲ經テ之ヲ爲スコトヲ得ヘク書面審理ニ因ル場合ハ債務者ヲ審訊スルコトヲ要セス許否ヲ決定シ口頭辯論ニ因ルトキハ一般ノ規定ニ從テ期日ヲ定メ辯論ヲ爲サシムヘキモノトス(第七四條第一項)假差押ニ關スル裁判ハ口頭辯論ヲ經タルトキハ判決ヲ以テ之ヲ爲シ其他ハ決定ヲ以テ之ヲ爲ス假差押ヲ命シタル裁判ヲ假差押命令ト謂フ而シテ假差押ノ申請カ不合法ナルカ又ハ申請カ理由ナキトキハ之ヲ却下スヘク却下ノ裁判ハ口頭辯論ヲ經サルトキハ之ヲ債務者ニ通知スルコトヲ要セス(第七四條第二條)

假差押ノ申請ニ付テノ裁判ハ口頭辯論ヲ要セサルモノニ限り急迫ナル場合ニ限り裁判長單獨ニテ之ヲ爲スヲ得裁判長トハ地方裁判所又ハ控訴院ニ於ケル裁判長ヲ謂フ區裁判所ニハ其適用ナシ(第七六條第三條)

假差押命令ノ申請ニ付テハ前述セル如ク債權者ハ假差押ノ理由及ヒ請求ノ理由ヲ疏明スヘキモノナリト雖モ若シ疏明ナキ場合ニ於テモ裁判所カ自由ナル意見ヲ以テ定メタル保證即チ假差押ニ因テ債務者ニ生スルコトアルヘ

キ損害ノ擔保ヲ供シタルトキハ裁判所ハ假差押ヲ命スルコトヲ得ヘク又請求及ヒ假差押ノ理由ヲ疏明シタルトキト雖モ裁判所ハ保證ヲ立テシメテ假差押ヲ命スルコトヲ得ヘシ若シ保證ヲ立テタルトキハ其旨及ヒ如何ナル方法ヲ以テ之ヲ立テタルヤヲ假差押命令ニ記載セサル可カラス(第七四條第一項第四項)

假差押ノ命令ヲ爲ス目的ハ債權者ノ金錢請求權ノ執行ヲ保全スル目的ナレハ若シ債務者カ債權者ノ請求ノ執行ヲ困難ナラシメサル條件ヲ充ストキハ假差押ノ必要消滅スルヲ以テ其命令ニハ假差押ノ執行ヲ停止スルコトヲ得ル爲メ若クハ執行シタル假差押ヲ取消スコトヲ得ル爲メ債務者ヨリ供託スヘキ金額ヲ記載スヘシ(第七四條第三條)故ニ假差押ノ命令ニハ債權者ノ請求債務者ノ財産ニ付キ假差押ヲ命スルコトノ二個ノ事項ヲ掲クルヲ要件トシ其他債權者カ保證ヲ立テタルトキハ之ヲ記載シ且假差押ノ停止若クハ取消ノ爲メ債務者ヨリ供託スヘキ金額ヲ記載セサル可カラス

第四 假差押命令ノ效力

假差押ノ命令ハ判決タルト決定タルトヲ問ハス其確定ヲ俟タス假執行宣言ヲ要セス直チニ執行シ得ヘキ性質ヲ有ス通常ノ債務名義ト次ニ述フル點ニ於テ差異アリ

(一) 假差押命令ハ其命令アリタル後債権者又ハ債務者ニ承繼アリタル場合ニ限リ執行文ヲ必要トシ承繼ナキトキハ之ヲ要セスシテ執行スルコトヲ得(第七四九條第一項)

(二) 假差押命令ノ執行ハ命令ヲ言渡シ又ハ債権者ニ命令ノ送達アリタル後十四日ノ期間ヲ徒過シタルトキハ其效力ヲ失フ然レトモ命令アリタル後ハ債務者ニ命令ヲ送達スル能ハサルトキト雖モ之ヲ執行スルコトヲ得ヘク又命令ノ執行ニ着手シタルトキハ其手續ヲ中止スルモ效力ヲ失フモノニ非ス(第七四九條第二項第三項)

(三) 假差押命令ハ執行ノ目的物タル財産ノ保全ヲ目的トス故ニ差押物ノ換價ハ原則トシテ之ヲ許サス假差押金銭ハ之ヲ供託シ其他ノ有體物ハ價額減少ノ虞アルトキ又ハ保存ニ付キ不相應ナル費用ヲ要スル場合ニ限リ換

價ヲ許ス(第七五〇條第四項)即チ債務者ノ財産情態ニ付キ現状ヲ維持セシムルヲ目的トス執行ニ付テノ説明ヲ参照スヘシ

(四) 假差押ノ命令ハ其執行アリタル財産ニ付キ強制執行ヲ妨クルモノニ非サルコトハ既ニ説明セリ(第五八六條第四項第六四五條第三項)又假差押ニ係ル金銭以外ノ財産ヲ處分スルコトヲ得ヘキヤ否ヤハ有體動産ニ對スル差押ノ效力ニ付キ説明シタル處ヲ参照スヘシ

第五 假差押ノ裁判ニ對スル不服申立

假差押ノ裁判ハ決定若クハ判決ヲ以テ許否ノ裁判ヲ爲ス判決ヲ以テ裁判シタルトキハ各當事者ハ上訴若クハ故障ニ因リ不服ヲ申立ツルヲ得ヘク假差押申請ヲ却下シタル決定ニ對シテハ債権者ハ抗告ヲ以テ不服ヲ主張スルヲ得ヘシ(第四五條)抗告裁判所ニ於テ口頭辯論ヲ經テ裁判スルトキハ判決ヲ以テ之ヲ爲スヘク其判決ハ第二審ノ判決ナレハ上告ヲ提起スルコトヲ得ヘシ假差押ヲ認可シタル決定ニ對シテハ抗告ヲ許サス債権者ハ異議申立ニ因リ不服ヲ主張スルヲ得ヘシ異議申立ハ假差押裁判所ニ之ヲ爲シ其申立ハ書面

ヲ提出シテ之ヲ爲スヘク假差押命令ノ取消ヲ求ムル理由又ハ假差押命令ノ變更ヲ申立ツル理由ヲ表示セサル可カラズ異議申立アルモ假差押命令ノ執行ヲ停止セサルモノトス(第七四條)

異議申立ノ當否ハ債權者及ヒ債務者ノ口頭辯論ヲ經テ終局判決ヲ以テ裁判スヘク異議ヲ理由ナシトスルトキハ假差押命令ノ全部ヲ認可スヘキコトヲ言渡シ若シ異議申立カ一部理由アルトキハ假差押命令ノ一部認可或ハ假差押命令ノ變更ヲ言渡シ又異議申立カ全部理由アリト認メタルトキハ假差押命令ヲ取消スコトヲ言渡スヘク又裁判所カ適當ト認メタルトキハ債權者ニ保證ヲ立テシメ假差押ヲ認可スヘキコトヲ言渡シ或ハ債務者ニ保證ヲ立ツルコトノ條件ヲ付シテ假差押命令ノ變更取消等ヲ言渡スコトヲ得ヘシ(第七五條)

第六 假差押命令取消

假差押命令ハ本訴ノ提起前若クハ提起後ニ申請スルコトヲ得ヘク債權者カ本訴ノ提起前ニ申請ヲ爲シ之ニ因テ假差押命令カ發セラレタル後債權者カ本

案ノ訴ノ提起ヲ遲滯スルコトアルヘシ此弊害ヲ避ケ債務者ノ利益ヲ保護スル爲メ假差押命令アリタル後債權者カ本案ノ訴ノ提起ヲ怠ルトキハ債務者ヨリ假差押裁判所ニ對シテ債權者ニ早ク訴ヲ提起セラレンコトノ命令ヲ求ムルコトヲ得ヘク右申立アルトキハ假差押裁判所ハ口頭辯論ヲ經スシテ相當ノ期間ヲ定メ債權者ニ其期間内ニ本案ノ訴ヲ提起スヘキコトノ命令ヲ爲スヘキナリ其期間ヲ經過スルモ債權者カ訴ヲ提起セサルトキハ債務者ノ申立ニ因リ假差押裁判所ハ當事者雙方ヲ口頭辯論ノ爲メニ呼出シ終局判決ヲ以テ假差押命令ヲ取消スヘキモノトス(第七四條)

本案ノ訴カ提起セラレタル後次ノ原因アルトキハ假差押ヲ取消スヘキモノトス(第七七條)

- (一) 假差押ヲ必要トスル理由消滅シタルトキ
 - (二) 假差押ヲ爲スノ情況變更シタルトキ
 - (三) 裁判所カ定ムル保證ヲ立ツルコトノ提供ヲ債務者カ爲シタルトキ
- 右三ノ場合ニハ裁判所ハ債務者ノ申立ニ因リ假差押命令ヲ取消スコトヲ得

取消ノ申立ハ假差押裁判所ニ爲スヘク裁判ハ口頭辯論ヲ經テ終局判決ヲ以テ之ヲ爲ス若シ本案カ既ニ繫屬シタルトキハ本案ノ裁判所ニ其申立ヲ爲スヘキモノトス

右ニ述フル假差押ノ取消ハ假差押命令ノ取消ニシテ假差押ノ執行ノ取消ニ非ス故ニ假差押命令ノ取消ハ債務者ヨリノミ申立ツルコトヲ得ヘク債權者ハ取消ノ申立ヲ爲スヲ得ス如何トナレハ假差押命令ハ裁判ノ言渡若クハ送達アリタルヨリ十四日ノ期間ヲ經過スルトキハ命令ノ效力ヲ失フヲ以テ債權者カ命令ノ效力ヲ失ハシメントセハ取消ヲ申立ツルノ必要ナク十四日ノ期間ヲ徒過スルトキハ其目的ヲ達スルヲ得ヘク又假差押命令ノ執行後ニ在テハ債權者ハ任意ニ其執行ヲ取消スコトヲ得ヘケレハナリ

假差押命令ノ言渡又ハ送達後債權者カ十四日ノ期間經過前ニ於テ執行シタルトキハ其效果ハ永久ニ存續スルヲ原則トス若シ債權者カ本案ノ訴訟ニ於テ勝訴ニ歸シ其判決ニ基キテ強制執行ヲ爲サントスルトキハ直チニ執行ヲ實行シ其執行着手ト同時ニ假差押命令ノ效力ヲ失フモノトス如何トナレハ

前述セル如ク假差押假處分ノ手續ハ本案ノ請求權ノ強制執行保全ヲ目的トスルモノナレハ債權者カ強制執行ニ着手スル迄ノ期間債務者ノ財産ノ原狀ヲ維持セシムルニ在リ是レ假差押ノ特質ナリ故ニ債權者カ強制執行ニ着手スルニ於テハ當然命令ノ效力ヲ失フモノトス然レトモ債務者カ本案ニ於テ勝訴シ其判決確定シタルトキト雖モ假差押ノ命令ハ當然消滅スルモノニ非ス又本案訴訟ノ取下和解等ニ因リ債權者ノ爲メ假差押ヲ必要トスル理由消滅スルモ假差押命令ハ當然其效力ヲ失フモノニ非ス如何トナレハ假差押命令ハ本案訴訟トハ獨立シタル特別ノ命令ナレハナリ是ヲ以テ法律ハ債務者カ本案ニ勝訴シタル場合其他假差押ヲ必要トスル理由消滅シタルコトヲ豫想シ債務者ニ對シ假差押命令取消ノ申立ヲ許シタル所以トス情況ノ變更ニ因テ取消ヲ許ス場合ハ本案請求ノ當否如何ニ拘ハラズ債務者ニ假差押ヲ爲スノ必要消滅シタル場合ヲ豫想シタルモノナリ保證ヲ條件トシテ取消ヲ許シタル理由ハ債務者カ保證ヲ提供スルトキハ債權者ハ假差押命令ノ取消アルモ毫モ債權實行ニ付キ不利益ヲ被ムル恐ナケレハナリ

以上第五第六ニ於テ述ヘタル假差押取消ノ判決ニハ職權ヲ以テ假執行ノ宣言ヲ付スヘキモノトス(第五〇條第一號)

第七 假差押命令ノ執行

假差押ノ手續ハ前ニ説明セルカ如ク假差押命令ヲ發スル手續ト其命令ヲ執行スル手續トノ二種ニ分ルルモノトス執行ニ付テノ債務名義ハ假差押命令ナリ

假差押ノ手續ハ前述セシ如ク強制執行ノ保全ヲ目的トス故ニ執行ノ目的物ハ之ヲ金錢ニ換價スルコトヲ許サス債權者カ本案ニ付キ勝訴シタルトキ本執行ニ移ルヘキナリ故ニ假差押命令ノ執行ニ付テハ強制執行ノ手續ヲ直チニ適用スルコトヲ得ス然レトモ強制執行手續ト同一ニ歸スル場合アルヲ以テ法律ハ特別ノ規定アル場合ノ外強制執行ノ規定ヲ準用スヘキモノトセリ故ニ強制執行總則ノ規定其他執行行為ニ關スル規定ハ許ス限リ準用セラル殊ニ債務者並ニ第三者ハ第五百四十六條第五百四十九條等ニ依リ執行異議ノ訴ヲ起シ第五百五十條ノ執行ノ停止制限ノ如キモ亦適用アリトス左ニ假

差押命令ノ執行ニ關スル特種ノ手續ヲ説明スヘシ(第七四條)

(一) 假差押命令ノ執行ハ其命令ニ執行文ノ付與及ヒ命令ノ送達ヲ必要トセス唯假執行命令ヲ發シタル後ニ債務者又ハ債權者ニ於テ承繼アリタル場合ニ限リ執行文ヲ必要トス(第七四條第一項)又一般ノ強制執行手續ヲ開始スル場合ニ於テハ債務名義ヲ債務者ニ送達スルコトヲ必要トスト雖モ假差押命令ノ執行ニ付テハ之ヲ必要トセス(第七四條第三項)斯ノ如ク手續ヲ簡易ニシタルハ債權者ノ權利ヲ保護スルカ爲メ迅速ニ執行保全ノ目的ヲ達セシメントスルノ立法上ノ趣旨ニ外ナラス

(二) 假差押命令ヲ執行スル機關ハ強制執行ノ場合ト同ク執達吏若クハ執行裁判所ナリ動産カ假差押ノ目的タルトキハ執行機關ハ執達吏タリ不動産カ假差押ノ目的タルトキハ不動産所在地ノ區裁判所カ執行裁判所トシテ管轄シ若シ不動産カ數個ノ區裁判所ノ管轄區域内ニ散在スルトキハ第二十六條ノ規定ニ因テ上級裁判所ノ指定シタル裁判所ヲ管轄執行裁判所トス船舶カ目的物ナルトキハ差押ノ當時碇泊シタル港ノ區裁判所ヲ以テ

管轄執行裁判所トス(第七五〇條、第七四三條、第七一八條)債權カ假差押ノ目的タルトキハ其命令ヲ發シタル裁判所即チ假差押裁判所ヲ管轄執行裁判所トス(第七〇七條、第七〇二條)故ニ控訴審ニ於テ假差押命令ヲ發シタルトキハ控訴裁判所モ亦管轄執行裁判所ト爲ル(第七六二條)

(三) 假差押ノ目的物カ有體動産ナルトキハ執達吏其動産ヲ占有シテ之ヲ差押ヘ其他債務者ニ保管セシムルノ手續ヲ爲シテ差押ヲ爲ス等一般ノ強制執行ノ差押ト同一手續ニ依ル(第七五〇條、第七一五條)然レトモ金錢ノ差押ヲ爲シタルトキハ執達吏之ヲ供託スヘク及其他ノ物ノ差押ヲ爲シ或ハ有價證券等ノ差押ヲ爲シタルトキハ之ヲ金錢ニ換價スルコトヲ許サス如何トナレハ假差押ハ其差押ノ目的物ヲ以テ直チニ債權者ノ債權辨濟ニ充ツルニ非スシテ後日債權者ノ爲スヘキ執行ヲ保全スルニ在レハ金錢ノ供託ヲ命シ或ハ差押物ノ競賣換價ヲ禁シタル所以ナリ然レトモ假差押ノ目的物ノ保存ニ付キ或ハ價額ノ減少ヲ來シ或ハ之ヲ貯藏スルニ付キ不相應ノ費用ヲ要スルトキハ執行裁判所ハ債權者ノ申立ニ因リ其物ヲ競賣シ其賣得金ヲ供託ス

(四) 債權ノ假差押ニ付テハ第三債務者ニ對シテ債務者ニ債務ノ支拂ヲ爲スヘキコトヲ禁スル命令ノミヲ爲スヘキナリ即チ債務者カ第三債務者ニ對シテ有スル債權ノ存スルトキハ後日假差押債權者カ一般ノ執行手續ニ依テ債務者ニ代テ取立ヲ爲シ辨濟ヲ受クルヲ得ルヲ以テ執行保全ノ目的トシテハ唯第三債務者カ債務者ニ辨濟スルコトヲ禁スルノミヲ以テ足レリトシタル所以ナリ(第七五〇條、第七三項)

(五) 不動産ノ假差押ニ付テハ債權者カ強制競賣ヲ爲サントスルカ或ハ強制管理ヲ爲サントスルカニ因リテ其方法ヲ異ニス一般ノ執行ニ付テハ強制競賣ト強制管理ノ二ノ方法アリト雖モ執行保全ノ爲メニハ登記ト金錢供託トノ二ノ方法ニ因テ執行手續ヲ認ム即チ債權者カ強制競賣ノ目的ヲ以テ不動産ノ假差押ヲ爲シタルトキハ其執行ハ假差押命令ヲ登記簿ニ記入スルニ因テ之ヲ爲ス其登記ノ效力ハ登記ニ因テ後日其不動産ノ讓渡若クハ不動産ノ負擔ニ歸スル權利ノ登記アリタルトキト雖モ假差押債權者ニ

對抗スルコトヲ得サルノ效果ヲ生ス登記記入ノ囑託ハ債權者ノ申請ニ因
リ執行裁判所之ヲ爲スヘキモノトス或說ニハ登記記入ノ囑託ハ特ニ債權
者ノ申請ヲ俟タス假差押裁判所ヨリ爲スヘキモノナリトスルモノアリ然
レトモ假差押命令ヲ發スル手續ト執行手續トハ區別アルコトハ前述ノ如
クニシテ假差押命令ヲ得ルモ之ヲ執行スルト否トハ債權者ノ任意ナレハ
假差押裁判所カ職權ヲ以テ登記記入ノ囑託ヲ爲スヘキニ非サルハ當然ナ
リ第五百四十三條ノ規定ニ依リ債權者ヨリ執行裁判所ニ記入囑託ヲ申請
シ執行裁判所ヨリ囑託ヲ發スヘキモノナリ又強制管理ヲ目的トスルトキ
ハ保全スヘキ債權ニ相當スル金額ヲ執達吏カ取立テテ之ヲ供託スヘキモ
ノトス(第七五二條)

第八 執行シタル假差押ノ取消

(六) 船舶ニ對スル假差押ノ執行ニ付テハ假差押ノ當時碇泊スル港ニ碇泊セ
シメ又債權者ノ申立ニ因テ必要ト認メタル場合ニハ船舶ノ監守及ヒ保存
ノ爲メニ必要ナル處分ヲ命スルコトヲ得ヘシ(第七五三條)

假差押ノ執行ニ付テモ第五百五十條ノ規定ニ因テ取消若クハ停止ヲ爲スコ
トヲ得ヘシ其他假差押命令ニ於テ債務者カ定メラレタル金額ヲ供託シタル
トキハ其取消ヲ命スルコトヲ得ヘク又假差押ヲ實行スルニ付テ特別ノ費用
ヲ要シ且之カ爲メニ必要ナル金額ヲ債權者カ豫納セサルトキモ執行裁判所
ハ假差押執行ノ取消ヲ命スルコトヲ得ヘシ茲ニ謂フ取消ハ假差押命令ニ基
キ爲シタル執行ノ取消ヲ謂フモノニシテ假差押命令ノ取消ニ非ス假差押執
行ノ取消ニ付テハ口頭辯論ヲ經スシテ裁判ヲ爲スコトヲ得ヘク又假差押執
行ヲ取消ス決定ニ對シテハ即時抗告ノ方法ヲ以テ不服申立ヲ許ス其不服申
立ニ付テノ裁判ハ決定ノ方式ニ依ルモノトス(第七五四條)債權者モ執行ノ取消ニ
付キ執行裁判所ノ共力ヲ要スル場合ハ假差押執行ノ取消ノ申立ヲ爲スコト
ヲ得ヘシ

第二節 假處分命令

假處分手續モ亦假差押手續ト同ク強制執行ノ保全ヲ目的トスルモノナルコト

ハ本章ノ首ニ説明セリ参照スヘシ

第一 假處分命令ノ意義及ヒ條件

假處分命令トハ金錢ノ給付ヲ目的トセサル請求ノ執行ヲ保全スル爲メ若クハ争アル法律關係ニ付キ假ノ地位ヲ定ムル裁判上ノ命令ナリ金錢債權ノ強制執行ヲ保全スル手續ハ假差押タリ假處分ト假差押トハ此點ニ於テ差異アリトス

給付請求權ノ執行保全ノ爲メニスル假處分ヲ係争物ニ關スル假處分ト謂ヒ争アル法律關係ニ付キ假ノ地位ヲ定ムル假處分ヲ假ノ地位ヲ確定スル假處分ト謂フ係争物保全ノ爲メノ假處分ハ次ノ條件ヲ具備スルコトヲ要ス(第五條)

(一) 係争物ニ關スルコトヲ要ス 係争物トハ金錢ノ給付ヲ目的トセサル請求權ノ目的物ヲ謂フ民事訴訟ニ於ケル訴訟物ヨリハ其意義狹シ訴訟物トハ訴ヲ以テ主張スル權利若クハ法律關係ニシテ其權利カ金錢給付ヲ目的トスルト否トヲ區別セス然レトモ假處分ニ所謂係争物トハ金錢ノ給付ヲ

除外シタル請求權ノ客體ヲ謂フ即チ特定給付ヲ目的トスル請求權ノ目的物ヲ謂フ故ニ假處分ハ金錢ノ給付ヲ目的トセサル請求權ヲ訴訟物トスル訴ニ付テ許スモノトス而シテ係争物ナル文字アルヨリシテ假處分ハ本案訴訟ノ繫屬ヲ前提要件トスルモノト誤解スル勿レ本案カ未タ繫屬セスト雖モ第七百五十六條第七百四十六條ノ規定ニ因リ假處分ヲ許スヘキモノナレハナリ

(二) 係争物ノ現狀ノ變更ニ因リ權利ノ實行不能ト爲リ又ハ之ヲ實行スルニ付キ著シキ困難ヲ生スル虞アルコトヲ要ス即チ係争物ニ關シ現時ノ狀態ノ變更ヲ來ス虞アリテ爲メニ權利者ハ其實行ヲ爲ス能ハサルニ至ルカ又其實行ヲ爲サントスルモ著シキ困難ヲ生スル事情存在スル場合ニ限リ執行保全ノ必要存スルモノナリ此ノ如キ場合ニ假處分手續ニ依リテ係争物ノ現狀ヲ保存スルモノトス

右二個ノ條件ヲ具備シタルトキニ限リ管轄裁判所ハ係争物ニ關シ假處分命令ヲ發スルコトヲ得ヘク其條件ノ存否ハ一ニ裁判所ノ判斷ニ因ルモノトス

假ノ地位ヲ定ムル假處分ハ債權者ノ強制執行ノ保全ヲ目的トスルモノニ非
ス債權者カ争ニ係ル法律關係ヨリ發生スヘキ著シキ損害ヲ避ケ若クハ急迫
ナル強暴ヲ防キ又ハ其他ノ理由ニ付テ發生スヘキ結果ヲ避ケルコトヲ目的
ト爲スモノナリ假差押ノ手續竝ニ係争物ニ關スル假處分ノ手續ニ依テハ金
錢給付ノ請求權若クハ其他ノ給付請求權ニ付テ執行保全ノ目的ヲ達スルヲ
得ルモ當事者間ニ争ト爲リタル法律關係ノ現時ノ狀態ヨリ發生スル結果ヲ
豫防スル目的ヲ達スル能ハス例ヘハ親權者カ親權ヲ濫用スル場合ニ親權喪
失ノ判決確定ニ至ルマテ親權ヲ行使セシムルトキハ子カ回復スヘカラサル
損害ヲ被フルコトアルヘキヲ以テ其判決確定ニ至ル迄親權者ニ假ニ親權ノ
行使ヲ禁スル假處分命令ヲ爲スカ如キ是ナリ此ノ如ク争アル法律關係ヨリ
發生スヘキ結果ヲ假ニ裁判所ノ命令ヲ以テ避ケシムルノ必要ヨリ假ノ地位
ヲ定ムル爲メノ假處分ノ手續ヲ設ケタル所以トス(第七六條)故ニ假ノ地位ヲ定
ムル假處分ハ給付請求權ノ執行保全ヲ目的トスル手續ニ非サルコトヲ注意
セサル可カラス故ニ法律關係成立若クハ不成立ノ確定ノ訴ヲ提起シタル場

合ニモ假ノ地位ヲ定ムル假處分ヲ求ムルコトヲ得ヘシ此假處分ヲ爲スニ付
テハ次ノ條件ヲ具備スルコトヲ要ス

(一) 繼續セル法律關係ニ付キ假ノ地位ヲ定ムルモノタルコトヲ要ス 即チ
財産上ノ法律關係ナルト身分關係タルト問ハス例ヘハ占有關係所有權
ノ關係親子關係扶養關係等ノ如キ繼續セル法律關係ニ付キ假ニ權利ヲ行
使セシメ若クハ假ニ權利ヲ行使セシメサル如キ權利狀態ヲ假定スルモノ
ナラサルヘカラス

(二) 著シキ損害ヲ避ケ若クハ急迫ナル強暴ヲ防ク爲メ又ハ其他ノ理由ニ因
テ假ノ地位ヲ定ムルヲ必要トスル狀況アルコトヲ要ス 即チ係争法律關
係ニ付キ原狀ヲ持續スルトキハ債權者カ著シキ損害ヲ被ムリ又ハ急迫ナ
ル強暴ヲ受ケ其他ノ事情ニ因テ債權者ノ權利狀態カ危害ヲ受クルノ虞ア
ルコトヲ必要トス法文ニ著シキ損害ヲ避ケ若クハ急迫ナル強暴ヲ防ク爲
メトアルハ例示ノ規定ニ過キスシテ廣ク假ノ地位ヲ確定セサレハ債權
者カ權利狀態ニ危害ヲ惹起スル虞アルトキハ此條件ヲ充スモノナリ

右二個ノ條件ヲ具備スル場合ニ於テ假ノ地位ヲ定ムル假處分ヲ許ス其條件存否ノ認定及ヒ假處分ノ許否ハ管轄裁判所ノ判斷ニ因ルヘキコトハ給付請求權ノ假處分ト同シ

以上二個ノ假處分モ假差押ト同シク本案ノ訴ノ判決確定前若クハ本案ノ判決ニ假執行宣言ヲ付セサル場合ニ限り許スヘキモノナリ

第二 假處分ノ手續

假處分手續ハ假差押手續ト同ク假處分命令ヲ發スル手續ト其命令ヲ執行スル手續トニ區別セラル命令ヲ發スル手續ハ狹義ノ訴訟手續ニシテ命令ヲ執行スル手續ハ執行ノ手續ナリ而シテ其命令ヲ發スル手續竝ニ命令ヲ執行スル手續ハ特別ノ規定ナキ限ハ假差押手續ノ規定ヲ準用スヘキモノトス(第六條)即チ第七百五十七條乃至第七百六十一條ニ於テ規定セサル事項ハ性質ノ許ス限り假差押ノ規定ヲ準用スヘキモノトス隨テ假處分ノ申請ハ書面若クハ口頭ヲ以テ請求竝ニ假處分ヲ必要トスル事實ヲ表示シ且請求竝ニ假處分ノ理由ヲ疏明スヘク申請ニ付テノ裁判ハ判決若クハ決定ヲ以テ之ヲ爲スヘ

ク假處分命令ニ對シテ債權者ハ異議ノ申立ヲ爲シ其取消ヲ求ムルコトヲ得ヘク其假處分命令ヲ執行スルニ付テハ執行文ノ附記ヲ要セス其執行方法ハ強制執行編ノ規定ニ從テ之ヲ爲スヘキモノトス唯假處分ニ付キ特別ノ規定アル場合ヲ左ニ説明セン

(一) 假處分手續ノ管轄裁判所ハ本案ノ裁判所トス(第七五條) 本案カ控訴審ニ繫屬スルトキハ控訴裁判所ヲ假處分管轄裁判所トス本案カ若シ第一審裁判所若クハ上告裁判所ニ繫屬スル場合ニ在テハ第一審裁判所ヲ管轄裁判所トス上告裁判所ハ事實ノ審理ヲ爲ササル審級ナルヲ以テ上告審ニ繫屬セル訴訟ニ付テハ第一審裁判所ヲ假處分裁判所ト爲シタル所以トス(第七六條) 本案カ未タ繫屬セサル場合ニ在テハ假處分ノ管轄裁判所ノ假差押ノ場合ト同ク本案ノ繫屬スヘキ裁判所トス(第七四六條) 但急迫ヲ要スル場合ニ於テ本案ノ繫屬セル裁判所又ハ繫屬スヘキ裁判所ニ假處分ノ申請ヲ爲スノ暇ナキ場合ニ在テハ係争物ノ假處分ニ限り係争物ノ所在地ヲ管轄スル區裁判所ニ假處分命令ノ申請ヲ爲スヲ得ヘシ其區裁判所カ假處分命令ヲ

發スルトキハ假處分ノ當否ニ付テノ口頭辯論ヲ爲サシムル爲メ本案ノ管轄裁判所ニ債權者カ債務者ヲ呼出シテ口頭辯論ヲ經テ假處分ノ當否ニ付テノ裁判ヲ得セシムルカ爲メ相當ノ期間ヲ定メサル可ラス若シ其期間内ニ債權者カ本案ノ裁判所ニ債務者ヲ呼出ス旨ノ申立ヲ爲ササリシトキハ債務者ノ申立ニ因リ其區裁判所ハ假處分ノ命令ヲ取消スヘキモノトス係爭物所在地ノ區裁判所ハ假處分命令ヲ發スルニ付テハ本案ノ訴訟カ已ニ繫屬セルヤ否ヤヲ區別セサルモノトス而シテ區裁判所ニ於テ爲ス右等ノ裁判ハ任意的口頭辯論ニ基キ若クハ書面審理ニ依テ之ヲ爲スコトヲ得(第七六條)又假處分ノ手續ニ於テ裁判ヲ爲スニ當リ裁判長カ口頭辯論ヲ必要トセサルモノト認メ且急迫ナル場合ニ限リテ受訴裁判所ノ裁判長之ヲ爲スコトヲ許ス(第七六條三條)

(二) 假處分命令ノ申請ニ付テハ口頭辯論ヲ經テ其許否ヲ裁判スルヲ原則トス只急迫ナル場合ニ於テハ口頭辯論ヲ經スシテ爲スコトヲ得ヘシ(第七五條)口頭辯論ヲ經タルトキハ判決ヲ以テ其裁判ヲ爲シ其判決ニ對シテ不服

アルトキハ故障若クハ上訴ヲ提起スルコトヲ得ヘシ口頭辯論ヲ經スシテ爲ス裁判ハ決定ナリ假處分ヲ許ス決定ニ對シ債務者カ不服ナルトキハ異議ノ申立ヲ爲スヲ得ヘク異議ノ裁判ハ假差押ト同ク判決ヲ以テ爲スヘキモノナレハ其判決ニ對シテハ故障若クハ上訴ニ因テ不服ヲ許サルモノトス假處分ノ申請ヲ却下シタル決定ニ對シテハ第四百五十五條ノ規定ニ從テ抗告ヲ爲スヲ得ヘシ(第四五條五條)

(三) 假處分ノ裁判ニ於テハ裁判所ノ意見ニ因テ假處分申立ノ目的ヲ達スルニ必要ナル處分ヲ定ム當事者カ如何ナル假處分ヲ求ムルヤノ申立ヲ爲シタルト否トニ關セス假處分ノ基ク請求竝ニ假處分ヲ必要トスル理由ヲ裁判所カ斟酌シテ裁判所ノ意見ヲ以テ係爭物ニ關スル假處分若クハ假ノ地位ヲ定ムル假處分ノ方法ヲ定ムルコトヲ得(第七五條一項)而シテ假處分ノ目的物ヲ監視セシムルカ爲メニ保管人ヲ置キ或ハ債務者ニ或行爲ヲ命シ或ハ債務者ノ或行爲ヲ禁シ或ハ債務者ニ物ノ引渡等ヲ命スルコトヲ得ヘシ(第七五條二項)右規定ハ例示的ニシテ裁判所カ假處分ヲ許容スルトキハ其必要ト

認ムル處分ヲ命スルコトヲ得ヘシ若シ假處分命令ニ於テ不動産ノ讓渡ヲ禁シ或ハ擔保トスルコトヲ禁シタルトキハ執行手續トシテ其裁判所ハ職權ヲ以テ登記簿ニ其命令ノ記入ヲ爲サシメサル可カラス(第七五八項)要スルニ假處分ノ申請ヲ理由アリトスルトキハ裁判所ノ意見ヲ以テ執行保全若クハ假ノ地位確定ニ關シ必要トスル事項ヲ定ムヘキモノトス

假處分命令ニ因リ讓渡ヲ禁セラレタル物件ハ債務者之ヲ他人ニ讓渡スルトキハ無効ナリトスル說アリ然レトモ強制執行ノ差押及ヒ假處分ノ讓渡禁止ハ公益規定ニ非スシテ特定人ノ保護ヲ目的トスルモノナリ故ニ債務者ハ之ヲ讓渡スルコトヲ得ヘシ唯其讓渡カ債權者ニ對抗スルコトヲ得サルノミ蓋シ假處分ヲ以テ讓渡ヲ禁シタルハ特定人即チ債權者ヲ保護スル目的ニ出テタルモノナレハナリ詳細ハ有體動産差押ノ效力ニ付キ説述セラル處ト同一ナリ參照スヘシ

(四)

假處分命令ハ假差押命令ノ如ク金錢ノ給付請求權ノ執行保全ニ非サルヲ以テ假差押命令ノ如ク債務者ニ保證ヲ立テシメテ命令ノ取消ヲ許スヘ

キニ非ス即チ金錢以外ノ給付請求權ニ付キ又ハ繼續セル法律關係ヨリ生スル損害ヲ金錢ヲ以テ賠償セシムルヲ得サル場合アレハナリ故ニ假差押命令ニ於ケル第七四十三條ノ規定ハ假處分命令ニ適用ナク隨テ第七百五十四條第一項ノ規定モ假處分命令ニ適用ナシ然レトモ債權者カ假處分命令ノ取消ニ因リ被ルコトアルヘキ損害ヲ金錢ヲ以テ賠償シ得ヘキモノナルトキハ保證ヲ立テシメテ假處分命令ノ取消ヲ許スモ實害ナキヲ以テ特別ノ狀況アルトキニ限り債務者ノ申請ニ因リ保證ヲ立テシメテ命令ノ取消ヲ許スモノトセリ特別ノ狀況ノ如何ハ裁判所ノ判斷ニ因ル(第七五九條)而シテ此規定ハ假處分ノ執行ノ取消ニハ適用ナシ但假處分ノ執行ノ取消ニ付テハ第七百五十四條第二項乃至第三項ノ適用アリトス

(五)

假處分命令ニ對シテハ債務者ハ異議ヲ以テ不服ヲ申立ツルヲ得ヘク此場合ニハ第七百四十七條ノ適用アリ假處分執行ニ關スル異議及ヒ停止制限ハ第五百四十六條、第五百四十九條、第五百五十條等ノ適用アリ又假處分命令ノ取消ニ付テハ第七百四十七條假處分執行ノ取消ニ付テハ第七百五

十三條ノ準用アルモノトス

1310

以上述ヘタル外假處分命令及ヒ其執行ニ付テハ假差押手續竝ニ一般ノ強制執行ノ手續ヲ準用スヘキモノトス

第六編 費用及ヒ保證

第一章 訴訟費用

訴訟費用トハ訴訟ニ關シ生シタル總テノ費用ヲ謂フモノニシテ之ヲ分テ裁判費用及ヒ其他ノ費用トス裁判費用トハ當事者カ國家ニ對シテ支拂フヘキ費用ヲ謂ヒ即チ手数料ニシテ其他ノ費用ハ裁判費用ニ非ス例ヘハ明治二十三年法律第六十五號民事訴訟用印紙法ニ規定セル費用ノ如キハ裁判費用ニシテ明治二十三年法律第六十四號民事訴訟費用法ニ規定セル當事者相互ノ間ニ要シタル書類ノ筆記料、旅費、日當等ノ如キハ裁判費用ニ非サルナリ左ニ訴訟費用ニ關スル規定ヲ分説スヘシ

第一 訴訟費用ノ負擔

訴訟費用ハ當事者ニ於テ負擔スヘキモノニシテ國家ニ於テ之ヲ負擔スヘキニ非ス即チ民事訴訟ハ各個人ノ私權保護ヲ目的トスルモノナレハ之ニ關スル費用モ亦當事者ニ於テ負擔スヘキモノトス而シテ當事者カ訴訟費用ヲ負

擔スル義務ハ私法的損害賠償ノ性質ヲ有スルモノニ非スシテ一種ノ公法上ノ義務ナリトス而シテ民事訴訟ノ必要ヲ生セシメタル者又ハ無益ノ訴訟ヲ爲シタル者ニ於テ訴訟費用ヲ負擔スヘキモノニシテ法律ハ之ニ關シ詳細ナル規定ヲ設ケタリ即チ左ノ如シ

(一) 訴訟費用ハ敗訴者ニ於テ負擔スヘキモノトス敗訴者ハ民事訴訟ノ必要ヲ生セシメ若クハ無益ノ訴訟ヲ爲シタルモノナレハナリ但其費用ハ裁判所ノ意見ニ於テ相當ナル權利伸張又ハ權利防禦ニ必要ナリト認ムルモノニ限ル其以外ノ費用ハ訴訟上必要ナル費用ト爲スヘキニ非サレハ相手方ニ負擔セシムヘキモノニ非サレハナリ而シテ訴訟中ニ訴ヲ取下ケ請求ヲ拋棄シ又ハ相手方ノ請求ヲ認諾シタル原告ハ無益ニ訴訟ヲ爲シタルモノナレハ費用ヲ負擔スヘク又請求ヲ認諾シタル被告ハ原告ニ訴訟ヲ爲スノ必要ヲ生セシメタルモノナレハ費用ヲ負擔スヘキモノトス(第七條)當事者ノ各方一分ハ勝訴ト爲リ一分ハ敗訴ト爲ルトキハ其費用ヲ相消セシメ又ハ割合ヲ以テ分擔セシムヘキモノトス費用ヲ相消スルトハ各當事者ハ其支

出シタル費用ヲ自ラ負擔シ他ノ一方ニ對シテ辨濟ヲ請求スルヲ得サルコトヲ謂フ而シテ割合ヲ以テ分擔セシムヘキヤ又ハ相消セシムヘキヤハ裁判所ノ意見ニ因リテ定ムヘキナリ(第七三條)然レトモ裁判所ハ相手方ノ要求格外ニ過分ナルニ非ス且別段ノ費用ヲ生セサリシトキ又ハ判事ノ意見、鑑定人ノ鑑定若クハ相互ノ計算ニ因リ要求額ヲ定ムルニ非サレハ容易ニ過分ノ要求ヲ避クルコトヲ得サリシ場合ナルトキハ當事者ノ一方ニ訴訟費用ノ全部ヲ負擔セシムルコトヲ得ヘシ(第七三條)是レ原告モ過分ノ要求ヲ避クル能ハサル場合ナリシモノナレハナリ

無益ナル上訴又ハ取下ケタル上訴ノ費用ハ之ヲ提起シタル當事者ニ於テ負擔スヘキモノトス(第七條)無益ナル上訴トハ控訴上告ヲ爲シタル場合ニ其上訴カ形式上若クハ實體上理由ナキモノトシテ棄却セラレタルコトヲ謂フ

(二) 本案ノ勝訴者ト爲リタルニ拘ハラズ尙ホ訴訟費用ヲ負擔スヘキ場合アリ左ノ如シ

- (イ) 被告直チニ請求ヲ認諾シ且其作為ニ因リ訴ヲ起スニ至ラシメタルニ非サルトキハ原告ハ訴訟ヲ爲スノ必要ナカリシモノナレハ本案ノ勝訴者ト爲ルニ拘ハラス訴訟費用ヲ負擔セサルヘカラス(四條七)
- (ロ) 期日若クハ期間ヲ懈怠シ又ハ自己ノ過失ニ因リ期日ノ變更辯論ノ延期辯論續行ノ爲メニスル期日ノ指定期間ノ延長其他訴訟ノ遲滯ヲ生セシメタル原告若クハ被告ハ之カ爲メニ生シタル費用ハ自己ノ過失ニ因リ生セシメタルモノナレハ本案ノ勝訴者ト爲リタルニ拘ハラス費用ヲ負擔スヘキモノトス(五條七)
- (ハ) 無益ナル攻撃防禦ノ方法證據方法ヲ包含スヲ主張シタル原告若クハ被告ハ本案ノ勝訴者ト爲ルモ裁判所ハ其意見ニ因リテ其方法ノ費用ヲ負擔セシムルコトヲ得(六條七)
- (ニ) 上訴審ニ在リテハ原告若クハ被告カ前審ニ於テ主張スルコトヲ得ヘカリシ事實又ハ攻撃若クハ防禦ノ方法ヲ新ニ提出スルニ因リ勝訴者ト爲リタルトキハ裁判所ノ意見ニ因リ其原告若クハ被告ニ上訴費用ノ全

(三) 部又ハ一分ヲ負擔セシムルコトヲ得(七條八項)

(三) 當事者カ訴訟物ニ付キ和解ヲ爲シタルトキハ其訴訟ノ費用及ヒ和解ノ費用ハ當事者別段ノ合意ヲ爲シタルトキノ外ハ相消シタルモノト看做ス(九條七)

(四) 共同訴訟ノ場合ニ在テハ法律ノ規定ニ從ヒ主タル訴訟物ニ付キ共同訴訟人ノ連帶義務ノ生スルトキ訴訟費用モ亦連帶トシ其他ノ場合ニハ共同訴訟人ハ相手方ニ對シ平等ニ費用ヲ負擔ス然レトモ各共同訴訟人ノ訴訟ニ於ケル利害關係著シク相異ナルトキハ裁判所ハ其利害關係ノ割合ニ從ヒ費用ヲ負擔セシムルコトヲ得ヘク又共同訴訟人中ノ或人カ特別ノ攻撃防禦ノ方法ヲ主張シタルトキハ他ノ共同訴訟人ハ之カ爲メニ生シタル費用ヲ負擔セサルモノトス(八條)

(五) 從參加ニ對シ原告若クハ被告カ異議ヲ述ヘタルトキハ其異議ニ付テノ決定ニ於テ從參加人ト其原告若クハ被告トノ中間訴訟ノ費用ニ付キ(一號)及ヒ(二號)ニ述ヘタル法則ニ基キ費用ノ負擔者ヲ定ムヘク又從參加ヲ許シ

タルトキ又ハ異議ヲ述ヘサルトキハ本訴訟ノ判決ニ於テ從參加人ト相手方ナル原告若クハ被告トノ間ニ從參加ニ因リテ生シタル費用ニ付テモ亦前段ノ法則ニ從ヒ負擔者ヲ定ムヘキモノトス(第八條)

以上述ヘタル所ハ訴訟當事者カ訴訟費用ヲ負擔スヘキ場合ナレトモ右ノ外第三者ヲシテ訴訟費用ヲ負擔セシムルコトアリ即チ裁判所書記法定代理人辯護士其他ノ代理人及ヒ執達吏ノ過失又ハ懈怠ニ因リ費用ノ生シタルトキハ此等ノ者ニ當事者ノ申立ニ因リ若クハ職權ヲ以テ其費用ノ辨濟ヲ負擔セシムルコトヲ得ヘシ(第八條)

第二 訴訟費用ノ負擔ニ關スル裁判

訴ノ取下請求ノ拋棄、認諾、和解並ニ上訴取下ノ場合ニ於テハ特ニ裁判ヲ要セス訴訟費用ノ負擔者ハ定マルモノナリト雖モ其他ノ場合ニ於テハ裁判ニ依リテ負擔者ヲ定ムルモノトス其裁判ハ當事者ノ申立ヲ要セス裁判所ノ職權ヲ以テ本案ノ終局判決ト共ニ爲スヘキモノナリ唯一分判決ヲ爲ス場合ニ於テハ後ノ裁判ニ讓ルコトヲ得ヘシ(第二三條)又上訴審ニ於テ上訴ヲ棄却スル

場合ニ於テハ其上訴ニ關スル費用ノミニ付キ裁判ヲ爲スヘキモノナリト雖モ若シ前審ノ裁判ノ全部又ハ一分ヲ廢棄若クハ破毀スルトキハ訴訟ノ總費用ノ裁判ハ本案ノ終局裁判ト併合シテ更ニ之ヲ爲スヘキモノトス(第七八條)

但上訴審ニ於テ訴訟事件ヲ原裁判所ニ差戻シ若クハ移送スル判決ヲ爲ストキハ其判決ハ終局判決ナリト雖モ差戻若クハ移送ヲ受ケタル裁判所ニ於テ更ニ訴訟費用ヲ生スヘキヲ以テ右判決ニ於テハ訴訟費用ノ裁判ヲ爲サス差戻若クハ移送後ノ終局判決ニ於テ全訴訟費用ノ負擔ヲ定ムル裁判ヲ爲ササルヘカラス

中間判決ニ於テハ訴訟費用負擔ニ關スル裁判ヲ爲スヘキモノニ非ス訴訟費用ノ裁判ヲ終局判決ニ讓リタル理由ハ訴訟ノ終局ニ至ラサレハ何レノ當事者カ費用ヲ負擔スヘキヤヲ定ムル能ハサルニ基因シタルモノニシテ隨テ中間判決ニ於テハ假令其中間判決カ上訴ニ關シテ終局判決ト看做スヘキモノト雖モ尙ホ費用ノ裁判ヲ爲スヲ得サルナリ唯強制執行ニ關シテ終局判決ト看做スヘキ中間判決ニ至リテハ其訴訟ノ假定的終局判決ヲ爲スモノナルヲ

以テ費用負擔ノ裁判ヲ爲スヘキモノトス
 費用ノ點ニ限リタル裁判ニ對シテハ獨立シテ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス換
 言スレハ費用負擔ノ點ノミニ限リ不服ヲ主張スルコトヲ得ス唯本案裁判ニ
 對シ許スヘキ上訴ヲ提起シ且之ヲ進行スルトキ若クハ相手方ノ上訴ニ附帶
 スル場合ニ限リ不服ヲ申立ツルコトヲ得ヘシ(第^二條八)
 以上述ヘタル所ハ主タル當事者ニ對スル訴訟費用負擔ニ關スル裁判ナリト
 雖モ從參加異議ノ中間訴訟ニ付テハ其決定ト共ニ異議ニ關スル訴訟費用負
 擔ノ裁判ヲ爲スヘク(第^一條八)又裁判所書記訴訟代理人執達吏ノ過失懈怠ニ因リ
 テ生シタル費用ノ裁判ハ特別ノ決定ヲ以テ其負擔者ヲ定ムル裁判ヲ爲ス後
 者ノ場合ニハ其裁判ヲ爲ス前關係人ニ口頭又ハ書面ヲ以テ陳辯ヲ爲スノ機
 會ヲ與ヘサルヘカラス而シテ其裁判ハ口頭辯論ヲ經スシテ爲スコトヲ得ヘ
 ク其裁判ニ對シテハ即時抗告ヲ以テ不服ヲ申立ツルコトヲ得ルモノトス(第^三條八)

第三 訴訟費用額ノ確定

訴訟費用負擔ノ裁判ハ前第二ニ述ヘタル方法ニ依ルト雖モ其數額ヲ定ムル
 ハ費用額確定ノ手續ニ依ラサルヘカラス其手續左ノ如シ

(一) 當事者ヨリ費用額確定ノ申請ヲ爲スヘキモノトス其申請ハ書面若クハ
 口頭ヲ以テ第一審ノ受訴裁判所ニ之ヲ爲スヘキモノナリト雖モ原則トシ
 テ執行シ得ヘキ裁判ニ依ルトキニ限リ之ヲ爲スコトヲ得ルモノトス執行
 シ得ヘキ裁判トハ確定判決ヲ謂フ確定判決ハ必スシモ債務名義タル條件
 ヲ具フルコトヲ要セス法律關係ノ成立若クハ不成立ヲ確定スル判決權利
 變更ノ判決モ亦茲ニ所謂執行シ得ヘキ判決ナリトス假執行ノ宣言ヲ付シ
 タル判決ハ執行シ得ヘキ裁判ニ屬セス如何トナレハ假執行宣言ハ訴訟費
 用ニ及ホスヘキモノニ非サルコト強制執行編ニ述フルカ如クナレハナリ
 然レトモ現今ノ實際例ハ假執行宣言アル未確定ノ判決ニ基キ費用額確定
 決定ヲ爲ス但訴ノ取下請求ノ拋棄請求ノ認諾若クハ上訴ノ取下ノ場合ニ
 於テハ執行シ得ヘキ裁判存セサルヲ以テ執行シ得ヘキ裁判ニ依ラサルモ
 費用額確定ノ申請ヲ爲スコトヲ得而シテ申請ニハ費用計算書相手方ニ付

與スヘキ計算書ノ謄本及ヒ各箇費用額ノ疏明ニ必要ナル證書ヲ添附セサルヘカラス(第四條)

1110

(二) 費用額確定ノ申請ニ付テハ裁判所ハ口頭辯論ヲ經若クハ口頭辯論ヲ經スシテ決定ヲ以テ數額ヲ確定スル裁判ヲ爲ス此裁判ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得裁判所ハ費用額確定ノ裁判ヲ爲ス前裁判所書記ニ費用計算書ノ計算上ノ檢査ヲ命スルコトヲ得ヘク又相手方ニ計算書ヲ付與シテ裁判所ニ呈ムル期間内ニ陳述ヲ爲スヘキ旨ヲ催告スルコトヲ得(第五條)當事者カ訴訟費用ノ全部又ハ一部ヲ割合ニ從ヒ分擔スヘキトキハ裁判所ハ費用額確定決定ヲ爲ス前相手方ニ裁判所ノ定ムル期間内ニ其費用ノ計算書ヲ差出スヘキ旨ヲ催告セサルヘカラス相手方ハ此期間ヲ徒過シタルトキハ費用額確定決定ハ相手方ノ費用ヲ顧ミスシテ之ヲ爲スヘシ然レトモ相手方ハ後ニ自己ノ費用ヲ以テ其費用額確定ノ申請ヲ爲スコトヲ得(第六條)費用額確定決定ニヨリ認メラレタル相手方ニ對スル費用辨償請求權ハ私

法的請求權ニシテ其決定ハ第五百五十九條第一項ノ抗告ヲ以テノミ不服ヲ申立ツルコトヲ得ル裁判トシテ債務名義タルモノトス

第四 以上述ヘタル處ハ判決手續ニ關スルモノナレトモ決定ヲ以テ裁判スヘキ場合ニモ右法則ノ準用アルモノトス

第二章 保證

保證トハ當事者一方ノ訴訟行爲ニ因リ相手方ニ被ラシムルコトアルヘキ損害ニ付キ擔保ヲ供セシムルコトヲ謂フ而シテ保證ニハ訴訟費用ニ關スル保證強制執行ニ關スル保證假差押假處分ニ關スル保證等法律ノ規定數多アリト雖モ其保證ヲ立ツルノ方法ニ至テハ當事者カ別段ノ合意ヲ爲シタル場合又ハ法律ニ於テ保證ヲ定ムルコトヲ裁判所ノ自由ナル意見ニ任スル場合ヲ除外裁判所ノ意見ニ於テ擔保ニ十分ナリトスル現金又ハ有價證券ヲ供託法ニ從ヒ供託シテ之ヲ爲スモノトス(第七條)保證ノ數額方法等ハ裁判所カ決定ヲ以テ定ムヘキモノトス本章ニ於テ特ニ説明スヘキハ外國人ニ付テノ保證是ナリ

第一 外國人カ原告ト爲リ訴ヲ起シ又ハ原告ノ從參加人タルトキハ被告カ外國人タルト内國人タルトヲ問ハス被告ノ請求アルトキハ訴訟費用ニ付キ保證ヲ立テサルヘカラス是レ外國人タル原告若クハ從參加人カ被告ニ對シ訴訟費用ヲ支拂フヘキ義務ヲ生シタル場合ニ我國ヲ去リタルトキハ被告ハ費用ノ辨濟ヲ受クルニ困難ヲ生スル虞アルヲ以テナリ然レトモ次ノ場合ニ於テハ保證ヲ立ツルノ義務ヲ免除セララルモノトス(第八條)

(一) 國際條約又ハ原告ノ屬スル國ノ法律ニ因リ本邦人カ同一ノ場合ニ於テ保證ヲ立ツル義務ナキトキ

(二) 反訴

(三) 證書訴訟及ヒ爲替訴訟

(四) 公示催告ニ基キ起シタル訴

第二 外國人ニ保證ヲ立テシムヘキ場合ニ於テハ裁判所ハ其數額ヲ決定ヲ以テ確定セサルヘカラス而シテ其數額ヲ確定スルニハ被告ノ訴ヲ受クルカ爲メ各審級ニ於テ支出スヘキ訴訟費用ノ額ヲ標準ト爲スヘキモノトス(第八條)

第二項

訴訟ノ進行中ニ保證ニ付キ不足ヲ生シ且被告カ追増保證ヲ立ツヘキコトヲ請求スルトキハ當事者間ニ爭ナキ請求ノ部分カ擔保ニ十分ナル場合ノ外ハ裁判所ハ亦前段ノ手續ニ依リテ保證ノ數額ヲ定メサルヘカラス(第八條)

第三 外國人ニ保證ヲ立テシムヘキ場合ニハ裁判所ハ其期間ヲ定メサルヘカラス其期間經過後尙ホ保證ヲ立テサルトキハ裁判所ハ被告ノ申立ニ因リテ判決ヲ以テ訴ヲ取下ケタリト宣言シ又原告カ上訴ヲ爲シタルトキハ其上訴ヲ取下ケタリト宣言スヘシ(第九條)

第三章 訴訟上ノ救助

民事訴訟ニ付テハ費用ヲ要スルモノナルヲ以テ其費用ヲ支辨スル資力ナキ者ハ私權ノ保護ヲ求ムルヲ得サルニ至ルヘシ是ヲ以テ法律ハ救助ノ方法ヲ設ケ費用ノ支拂ヲ爲ス能ハサル者ニ對シ一定ノ範圍内ニ於テ費用支拂ノ猶豫ヲ與ヘテ以テ私權保護ノ途ヲ全フセシム訴訟上ノ救助即チ是ナリ然レトモ訴訟上

ノ救助ハ訴訟費用ノ全部ニ對シテ之ヲ付與スルモノニ非スシテ其範圍ハ裁判費用竝ニ執達吏ニ關スル費用ニ限り又全然支拂ノ義務ヲ免除スルニ非スシテ一時支辨ノ猶豫ヲ與フルニ過キサルモノトス

第一 訴訟上救助ノ要件

訴訟上ノ救助ハ次ノ條件ヲ具備スルトキニ限り之ヲ付與スルモノトス(第九條)
(一) 自己及ヒ其家族ノ必要ナル生活ヲ害スルニ非サレハ訴訟費用ヲ出タスコト能ハサル者ナルコト

(二) 訴訟ノ目的タル權利ノ伸張又ハ防禦ノ輕忽ナラス又ハ見込ナキニ非スト見ユルトキ

外國人ニ付テハ右二條件ノ外國條約又ハ其屬スル國ノ法律ニ因リ本邦人カ同一ノ場合ニ於テ訴訟上ノ救助ヲ求ムルコトヲ得ルトキニ限り之ヲ請求スルコトヲ得ヘシ(第九條)

第二 訴訟上救助申請ノ方式

訴訟上ノ救助ハ當事者ノ申請ニ因リ之ヲ付與スヘキモノトス而シテ其申請

ハ次ノ諸件ヲ具備セサルヘカラス(第九條)

(一) 訴訟關係ヲ表明シ且證據方法ヲ開示スルコト

(二) 訴訟費用支拂無資力ノ證明書ヲ提出スルコト 此證明書ハ管轄市町村長ノ作成シタルモノニシテ原告若クハ被告ノ身分、職業、財産竝ニ家族ノ實況、其納ムヘキ直税ノ額ヲ開示シタルモノナルコトヲ要ス

右ノ申請ハ書面若クハ口頭ヲ以テ救助ヲ求ムル審級ノ裁判所ニ爲スヘキモノトス即チ訴訟上ノ救助ハ各審級ニ於テ各別ニ之ヲ付與スルモノナレハ訴訟カ第一審裁判所ニ繫屬シ又ハ訴ノ提起ヲ爲サントスル場合ナルトキハ第一審裁判所ニ之ヲ爲スヘク訴訟カ上級審ニ繫屬スルトキハ其裁判所ニ之ヲ爲ササルヘカラス但上級審ニ訴訟上ノ救助ヲ申請スルニ當リテハ若シ其當事者カ前審ニ於テ訴訟上ノ救助ヲ受ケタルモノナルトキハ特ニ無資力ノ證明ヲ爲スコトヲ要セス又相手方カ上訴ヲ爲シタル場合ナルトキハ訴訟上ノ救助ヲ求ムル原告若クハ被告ノ權利ノ伸張又ハ防禦カ輕忽ナラス又ハ見込ナキニ非スト見ユルト否トニ關セス上級裁判所ハ訴訟上ノ救助ヲ付與スル

コトヲ得ヘシ

一三二六

訴訟上ノ救助ハ強制執行ニ關シテモ求ムルコトヲ得ヘク執行ニ關スル救助ノ申請ハ第一審裁判所ニ爲スヘキモノトス(第九條)

第三 訴訟上救助ノ效力

訴訟上ノ救助ハ之ヲ付與セラレタル原告若クハ被告ニ左ノ效力ヲ生ス(第九條)

(一) 裁判費用(國庫ノ立替ヲ包含ス)ヲ濟清スルコトノ假免除

(二) 訴訟費用ノ保證ヲ立ツルコトノ免除

(三) 送達及ヒ執行行爲ヲ爲サシムル爲メ一時無報酬ニテ執達吏ノ附添ヲ求ムル權利

右ノ外受訴裁判所ハ必要ナル場合ニハ訴訟上ノ救助ヲ受ケタル原告若クハ被告ノ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ一時無報酬ニテ辯護士ノ附添ヲ命スルコトヲ得

訴訟上ノ救助ヲ付與セラルルモ相手方ニ生シタル費用ヲ辨濟スル義務ニ影響ヲ及ホスヘキニ非ス(第九條)

又救助ヲ受ケタル當事者カ自己及ヒ家族ノ必要ナル生活ヲ害セスシテ裁判費用ノ濟清ヲ爲シ得ルニ至ルトキハ假免除ヲ得タル數額ヲ直チニ追拂スルノ義務アリトス(第一〇條)

訴訟カ確定判決訴若クハ上訴ノ取下、拋棄、認諾若クハ和解ニ因リテ終了シ救助ヲ受ケタル當事者ノ相手方カ訴訟費用ヲ負擔スヘキ場合ニ於テハ其相手方ヨリ裁判費用ノ取立ヲ爲スヲ得ヘク又救助ヲ受ケタル當事者ニ附添シタル執達吏又ハ辯護士ハ亦自己ノ權利ニ因リテ費用確定ノ方法ヲ以テ其手数料及ヒ立替金ヲ取立ツルコトヲ得ヘシ(第九條)

訴訟上ノ救助ハ之ヲ受ケル當事者ニ救助ニ必要ナル條件存セザリシトキ又ハ其條件消滅シタルトキハ裁判所ハ何時ニテモ之ヲ取消スコトヲ得ヘク(第九條)又之ヲ受ケタル當事者カ死亡シタル場合ニハ救助ノ效力ハ其承繼人ニ及ホサス直チニ消滅スルモノトス(第九條)

第四 訴訟上救助ニ關スル裁判

訴訟上救助ノ付與竝ニ辯護士附添ノ命令ニ付テノ申請、訴訟上救助ノ取消及

ヒ數額追拂ノ義務ニ付テハ裁判所ハ檢事ノ意見ヲ聽キ決定ヲ以テ其裁判ヲ爲ス而シテ其裁判ハ口頭辯論ヲ經ルト否トハ裁判所ノ意見ニ因ルモノトス

(第一〇)

右裁判ニ對シテハ左ノ區別ニ從ヒ不服ヲ申立ツルコトヲ得(第一〇)

(一) 訴訟上ノ救助ヲ付與シ又ハ其取消ヲ拒ミ若クハ費用追拂ヲ命スルコトヲ拒ム決定ニ對シテハ檢事ニ限り抗告ヲ爲スコトヲ得

(二) 辯護士ノ附添ヲ命スル決定ニ對シテハ上訴ヲ爲スコトヲ得ス

(三) 訴訟上ノ救助ヲ拒ミ若クハ救助ノ取消又ハ辯護士ノ附添ヲ拒ミ又ハ費用ノ追拂ヲ命スル決定ニ對シテハ救助ノ申請ヲ爲シタル原告若クハ被告ニ限り抗告ヲ爲スコトヲ得

第四章 執行費用

強制執行ノ費用トハ執行準備及ヒ其實施ニ必要ナル費用ヲ謂フ故ニ執行異議ニ因テ生シタル費用ノ如キ假差押假處分ノ命令ヲ發スルニ付キ要シタル費用

ノ如キハ執行費用ニアラス執行費用ノ必要ナリシ部分ハ債務者ノ負擔ニ歸ス執行費用ノ必要ナリヤ否ヤハ執行機關ノ認定ニ因リテ定マル若シ其認定ニ異議アルトキハ執行當事者ハ第五百四十四條ニ因リ不服申立ヲ爲スヲ得ヘシ執行費用ノ必要ナル部分ハ執行機關カ執行ノ際同時ニ之ヲ取立ツヘシ特ニ訴訟費用ノ如ク確定決定ヲ必要トセス強制執行ノ基本タル債務名義カ廢棄若クハ破毀セラレタルトキハ債權者其費用ヲ債務者ニ辨濟セサルヘカラス(第五五)執行費用ト訴訟費用ノ分界ハ學說岐ルル處ナレトモ前者ハ執行文付與ニ因リテ始マリ其後ノモノヲ執行費用トスルヲ正當トス判決ノ送達、訴訟費用額確定判定ノ申請費用等ハ訴訟費用ナリトス
強制執行ニ關スル保證ニ付テハ第八十七條ノ規定ニ依ルヘク且第五百十三條ニ從ヒ當事者ノ普通裁判籍ヲ有スル地ノ區裁判所又ハ執行裁判所ニ保證ヲ立テ又ハ供託ヲ爲スコトヲ得ルモノトス保證又ハ供託ニ付テハ求メニヨリ裁判所ハ證明書ヲ付與セサルヘカラス(第五一)

第七編 公示催告手續

公示催告ノ要件公示催告ヲ求ムル權利ヲ有スル者公示催告ニ附加スル失權ノ效果等ハ實體法ニ因リテ定マル民事訴訟法ハ公示催告ノ手續ニ付テ規定セリ唯金錢其他ノ物ノ給付ヲ目的トスル指圖證券又ハ無記名證券(商一第ニ條)ニ付テハ第七百七十七條以下ニ於テ特別規定ヲ設ク要スルニ民事訴訟法ノ公示催告ニ關スル規定ハ各種ノ公示催告ニ共通ノ手續ヲ定メタルモノトス

公示催告手續トハ未定若クハ不分明ナル相手方ニ對シ失權ノ制裁ヲ付シ請求又ハ權利ノ届出ヲ爲サシムル裁判上ノ催告手續ナリ(第七六四條第一項)即チ公示催告ハ相手方ノ未定若クハ不分明ナル場合ニ限り之ヲ爲スヘキモノトス若シ相手方ノ確定シ若クハ分明ナル場合ニ於テハ普通ノ訴訟手續ニ於テ法律關係ノ成立不成立ヲ確定スル訴ヲ起スコトヲ得ルカ故ニ催告手續ニ依ルノ必要ナシ公示催告ハ裁判所之ヲ發スルモノトス故ニ裁判所以外ニ於テ發スル催告例ハ行政官廳ノ發スル公示催告ノ如キハ本編ノ規定ヲ適用セス公示催告ハ請求又ハ

權利ノ届出ヲ爲サシムルモノタルヲ要ス故ニ直接又ハ間接ニ失權ノ制裁ヲ來
サス單ニ一定ノ事實ヲ發生セシメンカ爲メ若クハ無効ノ法律關係ノ成立ヲ避
クル爲メニスル公示催告ニ付テハ本編ノ規定ヲ適用スヘカラサルモノトス而
シテ公示催告手續ハ將來ニ發生スヘキ私權ノ危害ヲ排除スルヲ目的トシ失權
シ宣言ヲ爲スモノナレハ其性質非訟事件ナリトス(緒論第七章參照)

第一章 一般ノ失權ヲ目的トスル手續

第一 管轄裁判所

公示催告ニ付キ事物ノ管轄ハ區裁判所ニ屬ス(第七六四條)然レトモ土地ノ管轄
上何レノ區裁判所ノ管轄ナルヤハ實體法ニ讓リテ民事訴訟法ハ之ヲ規定セ
ス唯證書ノ無効宣言ノ爲メニ爲ス催告ニ付キ第七百七十九條ニ土地ノ管轄
ニ付キ規定セリ後ニ説述スヘシ

第二 公示催告ノ申立

公示催告ヲ申立ツル權利ヲ有スル者如何ハ法律ノ規定ニ因リテ定マル公示

催告手續ハ申立ニ因リテノミ開始シ裁判所ノ職權上之ヲ開始スルコトナシ
申立ハ書面又ハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得裁判所ハ公示催告ノ申立ヲ許
スヘキヤ否ヤヲ調査シ申立ヲ許ス可カラストスルトキハ棄却ノ決定ヲ爲ス
ヘシ裁判ハ口頭辯論ヲ經スシテ爲スコトヲ得ヘク申立ヲ許スヘキモノトス
ルトキハ公示催告手續ヲ進行スヘキナリ又公示催告手續ハ一般訴訟併合ノ
條件存セサルトキト雖モ併合スルコトヲ得(第七七條)

第三 催告

公示催告ノ申立ヲ許スヘシト爲ストキハ公示催告ヲ爲スヘキモノトス(第七
五條)催告ノ趣旨ノ各場合ニ因リテ異ナリ必スシモ一定セス要スルニ實體法
ノ規定ト裁判所ハ意見及ヒ申立人ノ利益ヲ斟酌シテ定ムヘキモノトス然レ
トモ何レノ事件ニ於テモ法律關係及ヒ利害ヲ表示スルハ其主要部分トス即
チ第七百六十五條第三項ニ掲クルモノハ公示催告ノ内容ノ必要條件ナルヲ
以テ如何ナル事件ノ公示催告ト雖モ必ス掲記スルヲ要ス其事項左ノ如シ

- 一 申立人ノ表示

- 二 請求又ハ權利ヲ公示催告期日マテニ届出ツヘキノ催告
- 三 届出ヲ爲ササルニ因リ生スヘキ失權ノ表示
- 四 公示催告期日ノ指定

公示催告ハ公告セサルヘカラス公告ノ方法トシテハ公示催告ノ全部ヲ裁判所ノ掲示板ニ揭示シ及ヒ官報又ハ公報ニ之ヲ掲載スルコトヲ必要トス其他法律ニ別段ノ規定ヲ設ケサルトキハ公示催告ノ抄本ヲ新聞紙ニ掲載スルコトヲ得(第六條第七六)以上二箇ノ方法中裁判所ノ掲示板ニ揭示シ及ヒ官報又ハ公報ニ掲載スルハ公告ノ必要條件ナリ新聞紙ニ掲載スル方法ハ補充方法ナリ之ヲ用フルト否トハ裁判所ノ意見ニ因ル公告期間ハ裁判所ノ自由ナル意見ヲ以テ定ムルコトヲ得レトモ公示催告ヲ官報又ハ公報ニ掲載シタル日ト公示催告期日トノ間ニハ法律ニ別段ノ規定ヲ設ケサルトキハ少クモ二个月間ノ期間ヲ存スルコトヲ要ス(第七條七六)

第四 權利ノ届出

公示催告ニ付キ權利ヲ主張セントスル者ハ裁判所ニ其權利ヲ届出ツルコト

ヲ要ス申立人ニ告知スルモ其效ナシ届出ハ書面又ハ口頭ヲ以テ之ヲ爲ス届出ハ請求又ハ權利ヲ有スル旨ヲ主張スルヲ以テ足ル其理由ヲ附シ又ハ證明ヲ爲スノ必要ナシ法律ハ公示催告期日マテニ届出ヲ爲スヘキコトヲ命セリ(第七六條第五項第三號)然レトモ成ルヘク失權者ヲ生セサランコトヲ欲シ公示催告期日ノ終リタル後ト雖モ除權判決前ニ届出ヲ爲ストキハ適當ナル時間ニ之ヲ爲シタルモノト看做ス(第七六條第六項)隨テ裁判所カ定メタル期日ニ直チニ除權判決ヲ言渡サス更ニ言渡期日ヲ指定シタルトキ又ハ第七百七十一條第七百七十二條ニ從ヒテ新期日ヲ定メタル場合ニ於テモ除權判決ノ言渡アル迄ハ有效ニ届出ヲ爲スコトヲ得公示催告申立人カ申立ノ理由トシテ主張シタル權利ヲ他人ヨリ爭フ趣旨ノ届出アリタルトキハ裁判所ハ其爭ニ付キ公示催告手續ニ於テ裁判スルコトヲ得ス蓋シ公示催告手續ニ在リテハ届出ヲ爲ササル者ニ對スル失權ヲ確定スルニ過キサレハナリ然レトモ此場合ニ裁判所ハ届出テタル權利ニ付テノ裁判確定スルマテ他ノ届出ヲ爲ササル利害關係人ノミニ對スル除權判決ノ言渡ニ於テ之ヲ留保スルカ若クハ公示催告手續ヲ中

止スヘキモノトス(第七七)

第五 公示催告期日

公示催告期日ニ於テ申立人出頭スルトキハ利害關係人ノ出頭スルト否トニ關セス一般ノ規定ニ從ヒ申立ニ付キ口頭辯論ヲ爲ス期日ニ於テ申立人ハ除權判決ヲ求ムル旨ノ申立ヲ爲シ且公示催告ヲ許スヘキ條件及ヒ除權判決ヲ言渡スヘキ理由ノ存スルコトニ付キ辯論ヲ爲スヘシ裁判所ハ既ニ公示催告ヲ許ス決定ヲ與ヘタレトモ除權判決ノ申立ニ付キ裁判ヲ爲スニ付テハ前ノ決定ニ羈束セラレス更ニ辯論ヲ爲サシメ裁判所ノ心證ニ因リ除權判決ヲ爲スヲ得ルヤ否ヤヲ決スヘキモノトス又公示催告期日ニ申立人出頭セサルトキハ辯論ヲ開カス又除權判決ヲ言渡サス又一方ニ於テ出頭シタル利害關係人ヨリ闕席判決ノ申立ヲ爲スコトヲ許サス此場合ニハ公示催告ノ申立人ニ限リ新期日ノ指定ヲ求ムルコトヲ得此申立ハ公示催告期日ヨリ六個月ノ期間内ニ限リ之ヲ許ス其期間ヲ經過スルトキハ公示催告手續ハ終了ス(第七七)公示催告手續ヲ完結スル爲メ新期日ヲ定メタルトキハ其期日ノ公告ヲ爲ス

コトヲ要セス(第七七)新期日ノ指定ハ探知ノ命令ヲ爲シタルトキ(第七六九)中止ノ命令ヲ爲シタルトキ(第七七)申立人缺席シタルトキ(第七七)及ヒ期日ノ變更アルトキ(第七六)之ヲ爲スノ必要ヲ生ス新期日ヲ指定スル決定ハ之ヲ言渡ササリシトキハ申立人及ヒ期日ニ出頭シタル相手方又ハ期日前ニ届出ヲ爲シタル相手方ニ送達スルコトヲ要ス(第二四五)

第六 除權判決

公示催告ノ手續ハ除權判決ノ言渡ヲ以テ終了ス右判決ノ準備ノ爲メ裁判所ハ探知ヲ命スルコトヲ得ヘク(第七六)除權判決ノ言渡ノ申立ハ口頭辯論ニ於テ之ヲ爲スコトヲ要ス裁判所ハ職權ヲ以テ公示催告ノ有無及ヒ實體法ノ規定ニ從ヒ除權判決ノ言渡ニ必要ナル形式的及ヒ實質的條件ヲ具備スルヤ否ヤヲ審査シ且公示催告ノ許否公示催告ヲ申立ツル權利ノ有無公示催告及ヒ其公告ノ適法不適法ノ審査モ亦職權ヲ以テ之ヲ爲スヘキモノトス而シテ裁判所ノ爲ス決定ニハ次ノ三種アリ

(一) 請求又ハ權利ノ届出アル場合公示催告ヲ許スヘキ條件具ハラサル場合、

裁判所ノ管轄ニ非サル場合等ニ於テハ裁判所ハ決定ヲ以テ除權判決ノ申立ヲ却下スヘキモノトス此裁判ハ之ヲ言渡スコトヲ要ス其裁判ニ對シテハ即時抗告ヲ許ス然レトモ公示催告ノ申立ヲ爲シタル者ハ此裁判ニ對シテ抗告ヲ爲サスシテ更ニ公示催告ノ申立ヲ爲スコトヲ得ヘシ(第七六九條第三項)

(二) 除權判決ヲ言渡スモ之ニ制限又ハ留保ヲ附スルコトアリ之ニ對シテハ公示催告ノ申立ヲ爲シタル者ニ限り即時抗告ヲ爲スコトヲ得(第七六九條第三項)

(三) 權利ノ届出ヲ爲ス者ナキ場合届出ヲ爲ス者アルモ其請求又ハ權利カ公告催告ノ目的タルモノト異ナル場合ニ於テハ除權判決ヲ言渡スヘキモノトス除權判決ハ第二百三十二條乃至第二百三十七條ノ規定ニ從ヒ公開ノ法廷ニ於テ公示催告期日若クハ新期日(第七七一條)又ハ特ニ言渡ノ爲メニ定メタル期日(第七二條)ニ言渡スヘシ申立人出頭セサルトキハ判決ヲ言渡スヘカラス申立人ヨリ第七百七十一條ニ從ヒテ新期日ノ申立ヲ爲スヲ待チテ言渡ス利害關係人ノ出頭スルヤ否ヤハ判決ノ言渡ニ關係ナシ

除權判決ハ裁判所カ必要ト認ムルトキハ其重要ナル趣旨ヲ官報又ハ公報

ニ掲載シテ公告スルコトヲ得(第七七條)

除權判決ハ言渡ニ因リテ確定ス何トナレハ法律ハ之ニ對シテ上訴ヲ爲スコトヲ許ササルヲ以テナリ(第七七四條第一項)唯除權判決ニ附シタル制限及ヒ留保ニ關シテノミ即時抗告ヲ許ス(第七七六條)

第七

除權判決ニ對スル不服ノ訴

除權判決ニ對シテハ上訴ヲ許サスト雖モ左ニ述フル原因アルトキハ不服ノ訴ヲ許ス(第七七四條第二項)

- (一) 法律ニ於テ公示催告手續ヲ許ス場合ニ非サルトキ 法律ニ於テ公示催告ヲ許ササルニモ拘ハラズ之ヲ許ス法律アリト誤認シタル場合ヲ指ス故ニ裁判所カ事實ノ認定ヲ誤リ法律ヲ適用シタル場合ニ於テハ縱令其事實ノ認定ハ證據規定ニ反スルモノナリト雖モ之ニ基キ不服申立ノ訴ヲ爲スコトヲ得ス之ニ反シテ法律カ許ササル失權ノ公示催告ヲ爲シ若クハ除權判決ニ於テ法律カ許ササル失權ノ宣言ヲ爲シタルトキハ不服申立ノ訴ヲ爲スコトヲ得ヘシ

- (二) 公示催告ニ付テノ公告ヲ爲サス又ハ法律ニ定メタル方式ヲ以テ公告ヲ爲ササルトキ
 - (三) 公示催告ノ期間ヲ遵守セザリシトキ 期間トハ公告ノ日ト公示催告期日トノ間ニ存スルコトヲ要スル二个月ノ期間ヲ謂フ(第七七條)
 - (四) 判決ヲ爲ス判事カ法律ニ依リ職務ノ執行ヨリ除斥セラレタルトキ 判決ヲ爲ス判事トハ除權判決ヲ爲ス判事ニシテ公示催告ヲ許ス決定ヲ爲シタル判事ニ非ス
 - (五) 請求又ハ權利ノ届出アリタルニ拘ハラズ判決ニ於テ其届出ヲ法律ニ從ヒ願ミサルトキ
 - (六) 第四百六十九條第一號乃至第五號ノ場合ニ於テ原狀回復ノ訴ヲ許ス條件ノ存スルトキ
- 不服申立ノ訴ハ一个月ノ不變期間内ニ之ヲ起スヘキモノトス期間ハ原告カ除權判決ヲ知リタル日ヲ以テ始マル即チ事實上之ヲ知リタル日ヲ謂フ之ヲ知リタルト推定スヘキ日ヲ謂フニ非ス但前記第四號第六號ノ場合ニ於テ原

告カ除權判決ヲ知リタルモ其日ニ不服ノ理由ヲ知ラザリシトキハ其理由ヲ原告カ知リタル日ヲ以テ期間ノ初トス(第七七條第一項)除權判決ノ言渡ノ日ヨリ起算シテ五个月ノ滿了後ハ不服ノ訴ヲ起スコトヲ得ス(第七七條第二項)

不服ノ訴ハ催告裁判所ノ所在地ヲ管轄スル地方裁判所ノ管轄ニ屬ス(第七七條第二項)

第二章 證書ノ無効宣言ヲ目的トスル手續

第七百七十七條乃至第七百八十五條ハ證書ノ無効宣言ヲ目的トスル公示催告手續ニ付キ特別ノ規定ヲ爲セリ此手續ニ因リ無効宣言ヲ爲スコトヲ得ヘキ證書ハ左ノ如シ(第七七條)

- 一 盜取セラレ又ハ紛失若クハ滅失シタル手形其他商法ニ無効ト爲シ得ヘキコトヲ定メタル證書
- 二 特別法ヲ以テ公告催告ヲ許シタル證書

第一ノ場合ニハ金錢其他ノ物ノ給付ヲ目的トスル指圖證券又ハ無記名證券即

チ爲替手形、約束手形、小切手、貨物引換證、寄託物ノ預證券及ヒ質入證券、船荷證券等ヲ總テ包含スルモノトス。第二ノ場合ハ主トシテ特別法ノ規定ニ從フ唯其規定ナキ部分ニ限り本法ノ手續ヲ適用スヘキモノナリ。第一ノ場合ハ多ク商法ニ規定スル所ナリトス。此等ノ證券紛失シタルトキハ不正ナル占有者カ其證書ニ因リテ支拂又ハ引渡ヲ受クルノ恐アリ之ニ對シテ權利者ヲ保護セサルヘカラス又一方ニ於テハ既ニ權利者カ支拂ヲ受ケタル後其證書ヲ發見シテ再ヒ權利ヲ主張スルコトナキヲ保セス之ニ對シテ義務者ヲ保護スルノ必要アリ故ニ證書喪失ノ場合ニハ公示催告手續ヲ以テ其證書ノ無效宣言ヲ求ムルコトヲ得セシメタル所以ナリ。

第一 管轄裁判所

公示催告手續ハ證書ニ表示シタル義務履行地ノ區裁判所之ヲ管轄ス而シテ履行地カ證書ニ表示ナキトキハ發行人カ公示催告ノ當時普通裁判籍ヲ有スル地ノ區裁判所之ヲ管轄シ若シ其裁判所ナキトキハ發行人ハ發行ノ當時普通裁判籍ヲ有セシ地ノ區裁判所之ヲ管轄ス(第七九條第一項)證書ヲ發行スルノ原因

タル請求ヲ登記簿ニ記入シタルトキハ其物ノ所在地ヲ管轄スル區裁判所、管轄ニ專屬ス(第七九條第二項)

第二 公示催告ノ申立ヲ爲ス權アル者

公示催告ノ申立ヲ爲スコトヲ得ル者ハ證書ニ基キ權利ヲ主張スルヲ得ル者トス。無記名證券又ハ裏書ヲ以テ移轉シ得ヘク且略式裏書ヲ附シタル證書ニ付テハ公示催告ヲ申立ツル權ヲ有スル者ハ最終ノ所持人ナリトス。略式裏書トハ裏書人ノ署名ノミヲ以テ爲ス裏書ヲ謂フ(第七七八條、商第四五七條第二項)

第三 公示催告ノ申立

申立ハ書面又ハ口頭ヲ以テ之ヲ爲シ(第七六條五條)且特ニ申立ノ證據トシテ左ノ手續ヲ爲スヘキモノトス(第七八條)

- (一) 證書ノ謄本ヲ差出シ又ハ證書ノ重大ナル趣旨及ヒ證書ヲ十分ニ認知スルニ必要ナル諸件ヲ開示スルコト
- (二) 證書ノ盜難、紛失、滅失及ヒ公示催告手續ヲ申立ツルコトヲ得ルノ理由タル事實ヲ説明スルコト

(一)ニ於ケル證書ノ謄本ハ多クノ場合ニ於テハ申立人ノ手ニ存セサルヘシ故ニ其場合ニ於テハ證書ノ重要ナル趣旨及ヒ證書ヲ認知スルニ必要ナル諸件ヲ開示スルヲ以テ足レリトス(二)ニ於ケル公示催告手續ヲ申立ツルヲ得ルノ理由タル事實トハ第七百七十八條ニ規定シタル無記名債券又ハ指圖債券ノ最終ノ所持人タルコト又ハ其他ノ證書ニ基キ權利ヲ主張シ得ヘキ者タル事實ヲ謂フ此等ノ事實ニ付テハ申立人ハ裁判官ヲシテ其主張ヲ眞實ナリト信セシムヘキ疏明ヲ爲スコトヲ要ス

第四 公示催告

裁判所ニ於テ申立人ノ申立ヲ相當ナリト認メタルトキハ公示催告ヲ爲スヘキモノトス而シテ公示催告ハ一般ノ規定ニ從ヒ(第七六條)申立人ノ表示及ヒ公示催告期日ノ指定其他公示催告期日マテニ權利ヲ裁判所ニ届出テ且其證書ヲ提出スヘキ旨及ヒ失權トシテ證書ノ無効宣言ヲ爲スヘキ旨ヲ表示スヘキモノトス(第七八條)申立ヲ理由ナシト認ムルトキハ決定ヲ以テ之ヲ却下スヘキナリ

公示催告ニ付テノ公告ハ公示催告ヲ決定シタル後職權ヲ以テ之ヲ爲ス公告ハ裁判所ノ掲示板ニ掲示シ且官報又ハ公報ニ掲載スル外尙ホ新聞紙ニ三回掲載シテ之ヲ爲スコトヲ要ス(第七八條)若シ公示催告裁判所所在地ニ取引所アルトキハ取引所ニモ亦右ノ公告ヲ掲示スヘキモノナリ(第七八條)公示催告ヲ官報又ハ公報ニ掲載シタル日ト公示催告期日トノ間ニ存スルコトヲ要スル時間モ一般ノ公示催告ノ場合ニ於ケルヨリモ延長シ其間ニハ少クトモ六個月ノ時間ヲ存スルコトヲ要ス(第七八條)裁判所ニ於テ若シ此期間ヲ遵守セサルトキハ第七百七十四條第三號ニ因リ當事者ハ不服申立ノ訴ヲ爲スコトヲ得

第五 除權判決

公示催告ヲ爲シタル後相當ノ期間内ニ證書ヲ提出シテ權利ノ届出ヲ爲ス者アレハ公示催告手續ハ完結スルモノナレトモ若シ之ニ反シテ相當ノ期間内ニ届出ヲ爲ス者ナク且申立人ヨリ除權判決ノ申立ヲ爲シタルトキハ裁判所ハ除權判決ヲ爲スヘキモノトス其手續ニ付テハ第七百六十九條乃至第七百

七十二條ヲ適用シ且其判決ニ於テハ證書ヲ無効ナリト宣言スヘキモノトス
(第七八四項)證書ノ無効ヲ宣言スル所以ハ喪失セル證書ノ效力ヲ將來無効ニ歸
 セシメ且申立人ヲシテ義務者ニ對シ證書ニ基ク權利ノ實行ヲ得セシムルニ
 在リ證書ノ無効宣言ノ結果トシテ新證書ヲ作成スヘキヤ否ヤハ申立人ト義
 務者トノ法律關係ニ因リ之ヲ決スヘク民事訴訟法ノ干與スル所ニ非サルナ
 リ除權判決ノ重要ナル趣旨ハ官報又ハ公報ヲ以テ之ヲ公告スヘシ(第七八四項)
 不服申立ノ訴ニ因リ判決ヲ以テ無効宣言ヲ取消シタルトキハ其判決確定後
 前同一ノ方法ヲ以テ之ヲ公告スヘシ(第七八四項)以上ノ公告ハ第七百七十三條
 ニ規定セル公告ノ場合ト異ナリ必要條件ナリトス
 除權判決ノ效果ハ第七百八十五條ニ規定ス即チ除權判決アリタルトキハ申
 立人ハ證書ニ因リ義務ヲ負擔スル者ニ對シ證書ニ因レル權利ヲ主張スルコ
 トヲ得即チ證書ノ無効宣言ハ申立人ノ爲メニ證書ノ占有ト同一ノ效力ヲ生
 シ其證書ニ掲ケタル權利ヲ義務者ニ對シテ主張スルコトヲ得ルニ在リトス

第八編 仲裁手續

私法上ノ法律關係ニ付キ生シタル爭議ヲ完結センカ爲メニハ必スシモ民事訴
 訟ノ方法ヲ以テ國家機關ノ保護ヲ仰クコトヲ要セス各個人間ノ合意ニ基キ爭
 訟ヲ完結セシムルコトヲ得ヘシ仲裁手續即チ是ナリ仲裁手續トハ爭訟事件ヲ
 仲裁人ノ判斷ニ一任スルコトヲ謂フモノニシテ訴訟ニ非ス仲裁人ノ職務ハ仲
 裁人ニ國家的裁判權ヲ生スルモノニ非ス仲裁人ノ宣言ハ法律ノ適用ニ非ス一
 個人ノ判斷タルニ過キス故ニ其宣言ハ當事者間ニ在リテハ確定シタル裁判所
 ノ判決ト同一ノ效力ヲ有スルニ拘ハラズ執行判決ヲ得ルニ非サレハ之ヲ執行
 スルコトヲ得サルナリ
 民事訴訟法第八編ハ仲裁判斷ニ關スル手續ノ規定ノミナラス民法ノ規定ヲ補
 充シ若クハ變更スル實體的規定ヲモ包含セリ即チ仲裁契約ノ成立、仲裁契約ノ
 取消、仲裁人ノ選定、仲裁人ノ遵守スヘキ手續、仲裁判斷ノ效力等ニ關スル規定是
 ナリ此等ノ規定ハ實體法ノ範圍ニ屬スルニモ拘ハラズ民事訴訟法ニ規定セル

ハ立法上ノ便宜ニ出テタルニ過キス然レトモ當事者及ヒ仲裁人間ニ於ケル法律關係ニ付テハ民事訴訟法ニ何等ノ規定ナシ此點ニ付テハ實體法ノ規定ニ依ルヘキナリ故ニ當事者ノ一人ト仲裁人トノ間ニ締結セラレタル仲裁人ノ取扱ニ關スル契約ニ因リ如何ナル權利義務ヲ生スルヤ、仲裁人ハ仲裁判斷ノ實行ヲ訴フルコトヲ得ルヤ、仲裁人ハ報酬ヲ求ムル權利ヲ有スルヤ否ヤ等ノ問題ハ總テ實體法ニ從ヒテ之ヲ決セサルヘカラス

第一 仲裁契約ノ成立要件 仲裁契約ノ成立ニハ左ノ諸件ヲ具備スルコトヲ要ス(第六條)

- (一) 當事者ノ合意アルコトヲ要ス
- (二) 通常裁判所ノ管轄ニ屬スヘキ民事上ノ事項タルコトヲ要ス故ニ仲裁人カ民事ニ非サル爭訟事件ノ判斷ヲ委任セラレタルトキ若クハ司法裁判所ノ管轄ニ屬セスシテ行政官廳ノ管轄ニ屬スル爭訟事件ヲ委任セラレタル場合ニハ仲裁手續ヲ適用スヘキモノニ非ス
- (三) 一名又ハ數名ノ仲裁人ヲシテ爭訟ノ判斷ヲ爲サシムル合意ナルコトヲ

要ス即チ合意ハ爭訟ニ關スルモノタルコトヲ要シ其爭訟ノ判斷ヲ以テ目的トスルモノナルコトヲ要ス故ニ和解ノ爲メニスルモノハ仲裁手續ニ依ルコトヲ得ス又爭訟ニ付テハ合意ノ當時既ニ爭ノ當事者間ニ生シタルコトヲ要セス將來發生スヘキ爭ニ關シテモ仲裁契約ヲ爲スコトヲ得(第七條)但一定ノ權利關係及ヒ其關係ヨリ生スル爭ニ關スルコトヲ要ス

(四) 仲裁契約ノ當事者ニ於テ和解ヲ爲ス能力ヲ有スルコトヲ要ス商事會社ノ清算人ハ仲裁契約ヲ結フコトヲ得(商第九條第二項)破産管財人ハ商法第千九條第二項ノ規定ニ基キ破産者ノ意見ヲ聽キ且破産主任官ノ認可ヲ得テ仲裁契約ヲ結フコトヲ得ヘシ仲裁契約ハ代理人ヲ以テ締結スルコトヲ得ト雖モ訴訟代理人ハ特別委任アレハ和解ヲ爲ス權ヲ有スルニ拘ハラズ仲裁契約ヲ爲ス權能ヲ有セス如何トナレハ仲裁契約ハ私法上ノ法律行為ナレハナリ

(五) 爭訟ノ目的タル法律關係カ和解ヲ以テ處分スルコトヲ得ルモノナルコトヲ要ス故ニ身分ニ關スル仲裁契約ハ若シ其事件カ當事者ノ法律行為ニ

因リ處分スルコトヲ得サルモノナルトキハ無効トス
第二 仲裁契約ノ效力

仲裁契約ノ效力トシテハ仲裁手續ニ從ヒテ争訟ヲ完結セシムルノ義務ヲ當事者ニ負擔セシムルモノナリ各當事者ハ契約ニ因リ仲裁判斷ニ任スヘキ争訟ニ付キ相手方カ訴反訴若クハ督促手續ニ因リ裁判所ノ裁判ヲ求メントスルトキハ之ニ對シ仲裁契約ノ抗辯ヲ提出シ其請求ノ却下ヲ求ムルコトヲ得此抗辯ハ第二百六條ノ妨訴ノ抗辯ニ非ス故ニ被告ハ此抗辯ニ因リ本案ノ應訴ヲ拒ムコトヲ得ス但裁判所ハ第三百三十七條ニ從ヒ辯論ヲ此抗辯ノミニ制限スルコトヲ得ヘシ仲裁契約ハ契約ノ當事者及ヒ其一般承繼人ニ對シテノミ其效力ヲ有ス

仲裁契約ノ成立不成立ノ問題ハ民法ニ從ヒテ之ヲ決スヘキモノトス仲裁契約ハ合意ニ因リ之ヲ取消スコトヲ得強迫詐欺錯誤ニ基ク取消ハ一般ノ原則ニ從フ

第三 仲裁契約ノ取消

仲裁契約カ有效ニ成立シタルトキト雖モ當事者ノ合意ヲ以テ左ノ豫定ヲ爲ササリシトキハ其效力ヲ失フモノトス(第七九條)

(一) 契約ニ於テ一定ノ人ヲ仲裁人ニ選定シ其仲裁人中ノ或人カ死亡シ又ハ其他ノ理由ニ因リ欠缺シ又ハ其職務ノ引受ヲ拒ミ又ハ仲裁人ノ取結ヒタル契約ヲ解キ又ハ其責務ノ履行ヲ不當ニ遲延シタルトキ

(二) 仲裁人カ數人アル場合ニ其意見ノ可否同數ナル旨ヲ當事者ニ通知シタルトキ

豫メ仲裁人ヲ選定シタルトキハ其選定シタル仲裁人ノ判斷ヲ受クルコトヲ合意ノ條件ト爲シタルモノナリ故ニ右第一ノ場合ニ於テ仲裁人カ死亡シ若クハ精神病ニ罹リ到底判斷ヲ爲シ能ハサル場合ニ契約ノ效力ヲ失フヘキハ當然ナリ仲裁人カ辭任シタル場合ハ仲裁人ノ欠缺ナリ仲裁判斷ニ署名ヲ拒絶スルハ辭任ト同シ遲延ノ當不當ハ事實問題トシテ決スヘキ事項ナリトス又仲裁人ノ意見カ可否同數ナルトキハ判斷ノ結果ヲ得ラレサルモノナレハ契約ハ消滅スヘキモノトス當事者一方ノ死亡又ハ破産ハ契約ニ特別ノ定ア

ルトキノ外契約ノ效力ヲ失フモノニ非ス

仲裁契約ノ效力ヲ失ヒタルトキハ訴ヲ以テ(第八條)契約ノ消滅ヲ確定スルノ判決ヲ求ムルコトヲ得仲裁人カ契約ノ消滅ヲ認メスシテ手續ヲ進行シ判断ヲ言渡シタルトキハ(第八百一條第一號)依リテ取消ヲ求ムルコトヲ得

第四 仲裁人ノ選定

仲裁人ハ仲裁契約ニ於テ定ムルヲ通常トスト雖モ之ヲ定メサルモ仲裁契約ハ有效ナリ仲裁契約ニ仲裁人ノ選定ニ關スル事項ヲ定メサリシトキハ各當事者ハ各一名ノ仲裁人ヲ選定スヘキモノトス(第七八條)仲裁契約ノ趣旨ニ因リ當事者ノ雙方カ仲裁人ヲ選定スル權利ヲ有スルトキハ先ニ手續ヲ爲ス者先ツ仲裁人ヲ選定シ書面ヲ以テ相手方ニ指示スヘク且相手方ニ對シ七日ノ期間内ニ同一ノ手續ヲ爲スヘキ旨ヲ催告スヘシ(第七八九條)相手方カ期間ヲ徒過シタルトキハ仲裁人ヲ選定スル權利ヲ失ヒ而シテ催告ヲ爲シタル一方ハ管轄裁判所ニ申立テ仲裁人ヲ選定セシムル權利ヲ取得ス右申立ハ訴ノ提起ニ因リ之ヲ爲ス(第七八九條第二項)裁判所ハ判決ヲ以テ仲裁人ヲ選定スヘキモノトス此

判決ニ對シテ不服ナル者ハ上訴ヲ爲スコトヲ得ヘシ右ノ規定ハ仲裁人ノ選定カ當事者ノ一方ニノミ屬スル場合ニ於テハ適用スルコトヲ得ス

當事者ノ一方カ仲裁人ヲ選定シ通知ヲ爲シタル後ハ相手方ニ對シテ其選定ニ羈束セラルルモノトス(第七九條)

仲裁人ノ死亡若クハ其他ノ理由ニ因リ仲裁人カ欠缺シタルトキ又ハ仲裁人カ其職務ノ引受若クハ施行ヲ拒ミタルトキハ以下ノ區別ニ從フヘキモノトス即チ仲裁人カ仲裁契約ニ定メラレタルトキハ第七百九十三條第一號ノ規定ニ從ヒ當事者カ此場合ニ付キ契約ヲ以テ特別ノ規定ヲ設ケサル限ハ仲裁契約ハ無効ト爲ルモノトス之ニ反シテ仲裁人カ仲裁契約ニ定メラレスシテ第七百八十八條又ハ第七百八十九條ニ因リ當事者ノ一方ヨリ又ハ第七百八十九條第七百九十一條ニ因リ裁判所ヨリ定メラレタルトキハ仲裁人ヲ選ビタル當事者若クハ第七百八十九條第二項ノ申立ヲ爲シ裁判所ヲシテ仲裁人ヲ選定セシメタル當事者ハ相手方ノ催告ニ因リ七日ノ期間内ニ他ノ仲裁人ヲ選定スヘキモノトス若シ相手方ヨリ右ノ催告アリタルニモ拘ハラス七日

ノ期間内ニ仲裁人ヲ選定スルノ手續ヲ盡サスシテ期間ヲ經過シタルトキハ相手方ノ申立ニ因リ裁判所ハ仲裁人ヲ選定スヘキモノトス(第七九條)

第五 仲裁人ノ忌避

法律ハ仲裁人タルニ必要ナル資格ヲ限定セス故ニ意思無能力者タル幼者精神病者等ニ非サル限ハ何人ニテモ仲裁人タルコトヲ得ルヲ以テ當事者並ニ裁判所ハ自由ニ選定ヲ爲スコトヲ得然レトモ當事者ニ對シテハ仲裁人ヲ忌避スル權ヲ與ヘタリ其場合左ノ如シ(第七九條)

- (一) 判事ヲ忌避スルト同一ノ理由即チ第三十二條第三十三條ニ掲クル理由ニ基キ且第三十四條以下ノ規定ニ從ヒ仲裁人ヲ忌避スルコトヲ得
- (二) 仲裁契約ヲ以テ選定シタルニ非サル仲裁人カ其義務ノ履行ヲ不當ニ遅延スルトキ
- (三) 無能力者、聾者、啞者及ヒ公權ノ剝奪又ハ停止中ノ者

忌避ノ手續ニ付テハ特別ノ規定ナシ故ニ一定ノ方式ヲ要セス相手方又ハ仲裁人ニ對シテ忌避ノ申立ヲ爲スヲ以テ足ル若シ忌避申出ヲ理由アリトシテ

忌避セラレタル仲裁人カ辭職シ若クハ當事者雙方ノ合意ニ因リ他ノ仲裁人ヲ選定シタルトキハ忌避ノ手續ハ終了ス之ニ反シ仲裁人モ辭職セス當事者間ニモ合意成立セサルトキハ第八百五條ニ定メタル裁判所ニ對シ訴ヲ以テ之ヲ爲スヘシ忌避ニ付テノ裁判ハ口頭辯論ノ後判決ニ依リテ之ヲ爲ス仲裁判斷ノ手續ハ忌避ノ申請アルニ拘ハラズ之ヲ續行スルコトヲ得(第七九條)

第六 仲裁判斷ヲ爲ス手續

仲裁人ハ實體法及ヒ訴訟法ノ規定ニ制限セラルルコトナク仲裁人カ其公正ト認ムル所ニ從ヒ自由ナル意見ヲ以テ判斷ヲ爲ス當事者カ一定ノ法律ニ從ヒテ判斷ヲ爲スヘシトノ合意ハ仲裁人ノ職務執行ノ指導ト爲ルヘキモ仲裁人ヲ拘束スヘキニ非ス仲裁人ハ當事者ノ合意シタル仲裁手續ニ從フ義務アリト雖モ仲裁人カ合意ニ基ク手續ヲ遵守セサルコトヲ理由トシテ仲裁判斷ノ取消ヲ求ムルコトヲ得ス(第七九條第二項)然レトモ仲裁人ノ行爲ニ付テハ制限アリ即チ左ノ如シ

- (一) 仲裁人ハ仲裁判斷前ニ當事者ヲ審訊シ且必要ナル場合ニ於テハ爭訟ノ

原因タル事實關係ヲ探知スルコトヲ要ス探知ノ方法ハ仲裁人ノ選擇ニ從
フ(第七九項末段)

(二) 仲裁人ハ其面前ニ任意ニ出頭スル證人及ヒ鑑定人ヲ訊問スルコトヲ得
ヘシ然レトモ仲裁人ハ證人又ハ鑑定人ヲシテ宣誓セシムルノ權ナシ(第七
五條)

仲裁判斷ニ關スルモノニシテ仲裁人自ラ爲スコトヲ得サル手續ヲ必要ナリ
トスルトキハ當事者ヨリ管轄裁判所ニ申立テ裁判所之ヲ相當ト認ムルトキ
ハ其手續ヲ爲スモノトス(第七九項)而シテ裁判所カ右ノ手續ヲ爲スハ左ノ場
合ニ限ル

(一) 裁判所ノ職權ニ屬スル手續ナルコトヲ要ス故ニ書記又ハ執達吏ノ行フ
ヘキ手續ニ付テハ之ヲ許サス

(二) 仲裁人ノ自ラ爲スコトヲ得サル手續ナルコトヲ要ス即チ強制シテ證人
若クハ鑑定人ヲ訊問スル場合ノ如シ

(三) 當事者ノ申立ニ因ルコトヲ要ス當事者雙方ノミ其權利ヲ有ス仲裁人ハ

其權利ナシ

裁判所カ當事者ノ申立ニ因リ證人又ハ鑑定人ヲ訊問スヘキ場合ニハ之ヲ拒
ミタル證人若クハ鑑定人ニ對シテ必要ナル裁判ヲ爲スノ權アルモノトス(第七
九項)

當事者カ仲裁手續ノ進行中仲裁手續ノ許スヘカラサルコト殊ニ法律上有效
ナル仲裁契約ノ成立セサルコト又ハ仲裁契約カ判斷スヘキ争ニ關係セサル
コト又ハ仲裁人カ其職務ヲ施行スル權ナキコトヲ主張スルコトアルモ仲裁
手續ヲ續行シ且判斷ヲ爲スコトヲ妨ケス(第七九條)

第七 仲裁人ノ評議法

裁判所構成法第二百二十三條ノ規定ハ仲裁人ニモ之ヲ適用ス即チ仲裁判斷ハ
過半数決ニ從ヒ之ヲ爲スヘシ(第七九條)當事者ハ比較多數又ハ會員ノ一致ヲ以
テ決スヘキコトヲ合意スルコトヲ得過半数若クハ當事者ノ定メタル多數ヲ
得サルトキハ仲裁契約ハ其效力ヲ失フ(第七九項)

第八 仲裁判斷

仲裁判斷ハ當事者間ニ於テ確定判決ト同一ノ效力ヲ有ス(第八〇條)判決ニ於テ
 判決書ノ作成ヲ必要トスル如ク仲裁判斷ニ於テモ判斷書ノ作成ヲ要ス各判
 斷書ニハ作成ノ年月日ヲ記シ且仲裁人之ニ署名捺印スルヲ要ス(第七九條)若
 シ仲裁人カ署名前ニ死亡シ若クハ署名ノ能力ヲ失ヒタルトキ又ハ仲裁人カ
 署名ヲ拒ミタルトキハ仲裁判斷ハ無効ニ歸ス仲裁判斷ノ送達ハ仲裁人ノ請
 求ニ因リ第三百三十六條以下ノ規定ニ從ヒ之ヲ爲ス仲裁人ノ署名捺印シタル
 判斷ノ正本ヲ當事者ニ送達シ且判斷ノ原本ハ送達證書ト共ニ裁判所ノ書記
 課ニ之ヲ預ケ置クヘキモノトス(第七九條第二項)
 仲裁判斷ハ當事者間ニ於テ確定シタル裁判所ノ判決ト同一ノ效力ヲ有ス隨
 テ左ノ結果ヲ生ス

- (一) 仲裁判斷ニ對シ上訴ノ方法ヲ以テ裁判所ニ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス
- (二) 同一ノ争ニ付キ裁判所ニ訴ヲ提起スルトキハ既判效ヲ主張スルコトヲ
得ヘシ
- (三) 仲裁判斷ヲ基本トシテ執行判決ヲ求ムルコトヲ得

仲裁判斷ハ直チニ執行スルコトヲ得サルコトハ外國裁判所ノ判決カ直チニ
 執行スルコトヲ得サルト同シ之ヲ執行スルニハ執行判決ヲ以テ其許スヘキ
 コトヲ言渡シタルトキニ限ル(第八〇條)執行判決ヲ求ムル方法ハ訴ニ依リ管
 轄裁判所ニ申立ヲ爲スヘシ裁判ハ口頭辯論ヲ經テ判決ヲ以テ之ヲ爲ス裁判
 所ハ仲裁判斷ノ存スルヤ否ヤヲ審査シ若シ仲裁判斷ノ存セサルトキハ直チ
 ニ其訴ヲ却下シ之ニ反シ仲裁判斷存スルトキハ執行判決ヲ爲ス但第八百一
 條ニ規定シタル仲裁判斷ノ取消ヲ求ムル理由存シ又ハ第五百四十五條ニ規
 定シタル異議ノ申立アリテ其中立ヲ理由アリトスルトキハ仲裁判斷ニ對ス
 ル執行判決ヲ爲スコトヲ得サルナリ(第八〇條第二項)執行判決ノ訴カ取消理由ノ存
 スル爲メ却下セラレ其判決確定スルトキハ仲裁判斷ヲ取消ス爲メ不服申立
 ノ訴ヲ爲スコトヲ要セス

第九 仲裁判斷取消ノ訴

仲裁判斷ハ確定判決ト同一ノ效力ヲ有シ上訴ヲ以テ之ヲ攻撃スルコトヲ得
 スト雖モ仲裁判斷ニ對シ取消ノ訴ヲ爲スコトヲ許ス第八百一條ハ取消ノ原

因ト爲ルヘキ總テノ事由ヲ掲載セリ取消ノ理由ハ訴ヲ以テ第八百五條ニ定メタル裁判所ニ之ヲ提起シ又ハ執行判決ヲ求ムル申立ニ對シ防禦的ニ之ヲ提出(第八〇二項)スルヲ得ヘシ取消ノ原因ト爲ルヘキ事由ハ左ノ如シ

- (一) 仲裁契約ヲ許スヘカラサリシトキ 仲裁契約カ法律上ノ要件ヲ欠缺セ
ルコトヲ謂フ
- (二) 法律上禁止ノ行爲ヲ爲スヘキ旨ヲ當事者ニ言渡シタルトキ
- (三) 當事者カ仲裁手續ニ於テ法律ノ規定ニ從ヒ代理セラレサリシトキ
- (四) 當事者ヲ審訊セサリシトキ 仲裁人ハ仲裁判斷前ニ當事者ヲ審訊スル
コトヲ要ス(第七九四項)然レトモ仲裁人カ審訊ノ手續ヲ盡シタルニモ拘ハラ
ス當事者出頭セサル爲メ審訊ヲ爲スコト能ハサルトキ若クハ當事者間ノ
合意ヲ以テ審訊ヲ要セスト定メタルトキハ取消ノ理由ト爲ラス
- (五) 仲裁判斷ニ理由ヲ附セサルトキ 理由不十分ナルコトハ取消ヲ求ムル
原因ト爲ラス
- (六) 第四百六十九條第一號乃至第五號ノ場合ニ於テ原狀回復ノ訴ヲ許ス條

件ノ存スルトキ

前記各號ノ理由中(一)(二)(三)及(六)ノ理由ニ付テハ當事者ニ於テ豫メ之ヲ取消
ノ理由ト爲ササル旨ノ契約ヲ爲スコトヲ得ス唯(四)(五)ノ理由ニ付テハ當事者
ニ於テ豫メ之ヲ取消ノ理由ト爲ササルコトヲ得(第八〇一項)

仲裁判斷取消ノ訴ニ付テハ一定ノ期間ナキヲ以テ何時ニテモ之ヲ提出スル
コトヲ得然レトモ執行判決ノ申立アルトキハ其判決ノ言渡以前ニ取消ノ訴
ヲ起ス必要生スヘシ如何トナレハ執行判決ノ言渡アリタル後ハ第八百一條
第六號ニ掲ケタル理由ヲ以テスルノ外取消ノ訴ヲ起スヲ得サルヲ以テナリ
(第八〇三條)而シテ右ノ場合ト雖モ當事者ハ自己ノ過失ニ非スシテ前手續ニ於テ
取消ノ理由ヲ主張スル能ハサリシコトヲ疏明セサルヘカラス其疏明ヲ爲ス
コト能ハサルトキハ仲裁判斷取消ノ申立ハ却下セラルヘキモノトス(第八〇三條末)

第八百三條ノ場合ニ於ケル仲裁判斷取消ノ訴ハ一个月ノ不變期間内ニ之ヲ
起スヘク右期間ハ當事者カ取消ノ理由ヲ知リタル日ヲ以テ始マル然レトモ

執行判決ノ確定前ニハ始マラサルモノトス執行判決確定ノ日ヨリ五午年ヲ經過シタルトキハ一切取消ノ訴ヲ許サス仲裁判斷ヲ取消シタルトキハ執行判決モ亦取消スヘキモノトス(第八〇條)

第十 仲裁手續ニ關スル管轄裁判所

仲裁人ノ選定(第七八條)仲裁人ノ忌避(第七九條)仲裁契約ノ消滅(第七九條)仲裁手續ヲ許スヘカラサルコト(第八〇條)仲裁判斷ノ取消(第八〇條)及ヒ執行判決ヲ爲スコトヲ目的トスル訴ニ付テノ管轄ハ先ツ仲裁契約ノ指定シタル區域裁判所又ハ地方裁判所ニ屬シ仲裁契約ニ管轄裁判所ノ指定ヲ缺クトキハ民事訴訟法ノ土地及ヒ事物ノ管轄ニ關スル規定ニ從ヒ管轄ヲ有スル裁判所ヲ以テ其管轄トス此管轄ハ第三十一條ニ於テ管轄ノ變更ヲ禁シタル場合ノ外ハ當事者ノ合意ニ因リ之ヲ變更スルコトヲ得(第八〇條)前述ノ訴ニ付キ數多ノ管轄裁判所アルトキハ當事者又ハ仲裁人カ最初ニ關係セシメタル裁判所ヲ管轄裁判所トス(第八〇條)

1362
1476
585
550

民事訴訟法原論

畢

條文索引

裁判所構成法

條文	頁數
一	四一
二	四一、四九
三	五二
四	九九
五	五一
六	五八
八	五六
九	五七、九九六
一〇	一二五
一一	五一、七二二
一二	五一
一三	五一

條文索引

條文	頁數
一四	七九、八一、八五、七二二
一七	七九
一九	五二
二〇	五二
二六	七九、八四、八五
二七	八〇
二八	八四
三〇	七九
三二	五二、五四
三四	五二
三五	五二
三六	七三六

一